

# 令和4年度 愛媛県がん診療連携協議会

## 第1回 幹事会

### ◇ 日時・場所 ◇

令和4年4月21日(木)18時00分～19時30分(WEB会議)

発信：四国がんセンター地域医療連携研修センター研修室①

### ◇ 議題 ◇

開会の挨拶

1. 令和4年度幹事会 自己紹介・名簿確認 (資料1) . . . . . 2  
20210807 役員会および専門部会報告会議事録 (資料2) . . . . . 4  
20211007 幹事会 (メール会議) 議事録 (資料3) . . . . . 18  
20211204 第2回専門部会報告会議事録 (資料4) . . . . . 21
2. 令和4年度協議会活動年間スケジュール (資料5) . . . . . 37
3. 令和5年度協議会活動年間スケジュール案 (資料6) . . . . . 39
4. 今後の専門部会報告会のあり方について
5. 会議への招聘状の取り扱いについて
6. 愛媛県健康増進課 (資料7) . . . . . 40
  - 1) 第3期愛媛県がん対策推進計画の中間評価について
  - 2) 令和4年度の愛媛県のがん対策予算について
  - 3) 愛媛県小児・AYA世代のがん患者等の  
妊孕性温存療法研究促進事業について
7. 報告事項
  - 1) PDCA 部会 (資料8) . . . . . 43
  - 2) がん地域連携専門部会 (資料9) . . . . . 52
  - 3) 緩和ケア専門部会 (資料10) . . . . . 57
  - 4) がん相談支援専門部会 (資料11) . . . . . 60
  - 5) がん登録専門部会 (資料12) . . . . . 116
  - 6) がんの集学的治療専門部会 (資料13) . . . . . 143
  - 7) がん看護専門部会 (資料14) . . . . . 149
8. その他
  - 愛媛県におけるがんの医科歯科連携推進に向けて (資料15) . . . 152

(資料1)

令和4年度4月幹事会名簿

	施設名	職名	氏名(敬称略)
地域拠点病院	愛媛県立中央病院	副院長	中西 徳彦
		がん治療センター長	森高 智典
		総務医事課 主幹	越智 祐二郎
	愛媛大学医学部附属病院	肝臓・胆のう・膵臓・移植外科長	高田 泰次
		腫瘍センター長	薬師神 芳洋
		医学部医事課長	高木 剛造
	社会福祉法人恩賜財団 済生会今治病院	院長	松野 剛
		医療情報課課長心得	矢野 清久
		乳腺外科科長	岡田 憲三
	市立宇和島病院	医事課長補佐	井上 悌爾
		医事係長	清家 さゆり
		がんセンター長	松原 稔
	医療法人 住友別子病院	がんセンター事務	藤田 元司
		呼吸器外科 部長 がん診療推進室長	竹之山 光広
	日本赤十字社 松山赤十字病院	外科 部長	南 一仁
臨床腫瘍科 部長		白石 猛	
がん診療推進係長		大西 麻弓	
院長		柚木 茂	
推進病院	一般財団法人永頼会 松山市民病院	地域医療連携室	三谷 直紀
		医療福祉センター相談役	長櫓 巧
	社会福祉法人恩賜財団 済生会西条病院	医事課係長	荻野 智子
		院長	木戸 健司
	独立行政法人労働者健康安全機構 愛媛労災病院	医事課長	入江 英範
		副院長	太田 和美
	一般財団法人積善会 十全総合病院	事務長	藤原 篤
		緩和ケア外科部長	武知 浩和
	公立学校共済組合 四国中央病院	事務部長	川上 英二
		医療課長	高橋 幹
		地域医療介護連携課主任	遠藤 健介
	社会医療法人石川記念会 HITO病院	病棟師長	小坂 泰二郎
		診療支援部 医事診療情報課長補佐	中岡 剛志
		済生会松山医療・福祉センター長補佐	安岡 康夫
	社会福祉法人恩賜財団 済生会松山病院	事務長	林田 哲也
副院長		武田 肇	
市立八幡浜総合病院	医事課長補佐兼医事第1係長	田中 昭光	
	PDCA部会	部会長	山下 素弘
専門部会等	がん地域連携専門部会	部会長	橋根 勝義
	緩和ケア専門部会	部会長	成本 勝広
	がん相談支援専門部会	部会長	灘野 成人
	がん登録専門部会	部会長	寺本 典弘
	がんの集学的治療専門部会	部会長	青儀 健二郎
	がん看護専門部会	部会長	大西 玉美
	その他	愛媛県	保健福祉部健康衛生局健康増進課長
担当係長			三宅 宏和
一般社団法人愛媛県医師会		常任理事	窪田 理
事務局	四国がんセンター	幹事長	橋根 勝義
		院長(会長)	山下 素弘
		事務部長	浅松 誠治

令和4年度4月幹事会出席者名簿

	施設名	職名	氏名(敬称略)	出席
地域拠点病院	愛媛県立中央病院	副院長	中西 徳彦	-
		がん治療センター長	森高 智典	-
		総務医事課 主幹	越智 祐二郎	○
	愛媛大学医学部附属病院	肝臓・胆のう・膵臓・移植外科長	高田 泰次	-
		腫瘍センター長	薬師神 芳洋	○
		医学部医事課長	高木 剛造	○
	社会福祉法人恩賜財団 済生会今治病院	院長	松野 剛	-
		医療情報課課長心得	矢野 清久	○
	市立宇和島病院	乳腺外科科長	岡田 憲三	○
		医事課長補佐	井上 悌爾	○
		医事係長	清家 さゆり	○
	医療法人 住友別子病院	がんセンター長	松原 稔	○
		がんセンター事務	藤田 元司 曾我部 恭平	○ ○
	日本赤十字社 松山赤十字病院	呼吸器外科 部長 がん診療推進室長	竹之山 光広	○
		外科 部長	南 一仁	○
		臨床腫瘍科 部長	白石 猛	○
		がん診療推進係長	大西 麻弓	○
	推進病院	一般財団法人永頼会 松山市民病院	院長	柚木 茂
地域医療連携室			三谷 直紀	○
社会福祉法人恩賜財団 済生会西条病院		医療福祉センター相談役	長櫓 巧	○
		医事課係長	荻野 智子	○
独立行政法人労働者健康安全機構 愛媛労災病院		院長	木戸 健司	○
		医事課長	入江 英範	○
一般財団法人積善会 十全総合病院		副院長	太田 和美	○
		事務長	藤原 篤	○
公立学校共済組合 四国中央病院		緩和ケア外科部長	武知 浩和	○
		事務部長	川上 英二	○
		医療課長	高橋 幹	○
社会医療法人石川記念会 HITO病院		地域医療介護連携課主任	遠藤 健介	-
		病棟師長	小坂 泰二郎	-
		診療支援部 医事診療情報課長補佐	中岡 剛志	○
社会福祉法人恩賜財団 済生会松山病院		済生会松山医療・福祉センター長補佐	安岡 康夫	○
	事務長	林田 哲也	○	
市立八幡浜総合病院	副院長	武田 肇	○	
	医事課長補佐兼医事第1係長	田中 昭光	-	
専門部会等	PDCA部会	部会長	山下 素弘	○
	がん地域連携専門部会	部会長	橋根 勝義	○
	緩和ケア専門部会	部会長	成本 勝広	○
	がん相談支援専門部会	部会長	灘野 成人	○
	がん登録専門部会	部会長	寺本 典弘	○
	がんの集学的治療専門部会	部会長	青儀 健二郎	○
	がん看護専門部会	部会長	大西 玉美	○
その他	愛媛県	保健福祉部健康衛生局健康増進課長	丹 純一	○
		担当係長	三宅 宏和	○
事務局	一般社団法人愛媛県医師会	常任理事	窪田 理	-
		幹事長	橋根 勝義	○
		院長(会長)	山下 素弘	○
事務局	四国がんセンター	事務部長	浅松 誠治	○

(資料2)

令和3年度 愛媛県がん診療連携協議会役員会および第1回専門部会報告会  
議事録

開催日時：令和3年8月7日（土）13：00～15：00

開催方法：Web 会議 四国がんセンターカンファレンス室からの発信

司会進行：協議会幹事長 四国がんセンター 河村 進

出席者：別紙資料1「役員会名簿」

議題

1. 開会の挨拶<谷水協議会会長>

皆様、本日はお忙しいところ本会にお集まり頂きまして本当にありがとうございます。世の中は一年半を超えるコロナ禍の状況がおさまらず、がん診療にも多大な影響を被っている状況ではあると思いますが、がんも待つてはくれないので、しっかりと、拠点病院、協議会としての職務は果たしていかなければならないと思っております。本日は Web 開催の形となりましたが、先程、河村幹事長が申し上げたとおり、TV 会議のような形で集まれるということは、ひとつの進歩ではないかと思っております。しっかりとした議論がすすめられるように協議会としても取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

2. 令和2年度役員自己紹介（資料1 P.2 参照）

役員変更 愛媛大学医学部附属病院 三浦裕正先生より杉山隆先生

HITO 病院 相引眞幸先生より田中伸二先生

住友別子病院より 秋頃に緩和ケア病棟が完成する予定。

3. 第14回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会（2021.07.09Web 会議）報告

<谷水協議会会長>

\*詳細については、がん情報サービスに掲載されている第14回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会の議事を参照下さい。

中釜先生より：コロナの中でもしっかりと対応をすすめていかななくてはならない。

厚生労働省より：第3期愛媛県がん対策推進計画中間報告が1年遅れて今年度となったが、しっかり見直しをおこない、第4期がん対策推進基本計画をすすめていく必要がある。

がん登録部会：院内がん登録全国集計結果閲覧システムが拡充され、白血病や悪性リンパ腫といった大きな分類での登録数の検索が、施設別、都道府県別におこなえることになった。院内がん登録の生存率の集計結果についても、施設別、都道府県別でみられ

るデータが公表され、登録が可能なもので、質が一定程度担保された。是非ご供覧下さいという案内があった。

がん相談支援部会：がん情報サービスより、がんと診断されて間もない方の情報冊子を作成するワーキングが発足した。拠点病院に協力依頼があった場合には宜しく願います。相談支援フォーラムの開催も予定はしているが、集まっての開催は難しいため、一部はオンラインを利用などして各地で開催されているという報告があった。

・認定がん相談支援センターについて、現在、拠点病院の中の25施設が認定されているが、昨年度、四国がんセンターも申請をおこない今年認定された。認定がん相談支援センターはまだ少ないので、是非受けて頂けるように案内をお願いしたいということであった。要件としては協議会の皆様の施設も認定を受けられるような相談支援の体制は十分に構築できていると思われるので、是非ご検討をよろしく願います。

緩和ケア部会：緩和ケア研修会 PEACE について、各県ともにいろいろ工夫をしながら Web 開催をはじめいろいろな活動をして継続しているという状況報告をして頂いたが、肝心の今後については、厚生労働省がん対策室としても、しっかり考えて現場で実現可能な形を探っていきたいという話であったが、これについて、一昨日、皆様のご施設でも緩和ケアの担当者の方には届いていることと思うが、案内があり、Web 開催で緩和ケア研修会 PEACE の開催を認めるということが通知された。今年度、愛媛県としては、今月中に全ての拠点病院が緩和ケア研修会を終える段取りですすんでいるので、今年については現状どおりということになるが、次年度以降は、国として Web 開催を認める方向としますという案内があったので、その点をご報告します。

#### 4. 協議事項について

<河村幹事長>

##### ・組織図について（資料2）

大きくは変わっていないが、専門部会のツリーの下に、各専門部会が設置されており、PDCA 部会についても、専門部会と同じ立ち位置で設置されているので、ご確認をお願いしたい。

・令和2年度役員会議事録（R2/8/8 四国がんセンターにて開催）（資料6）、令和3年度第1回幹事会議事録（R3/4/22 四国がんセンターにて開催）（資料7）

議事録資料について、不明な点や疑義がありましたら、お知らせ下さい。

##### 1) 次年度スケジュール案（協議会・緩和ケア研修会 PEACE）

・今年度中の開催協議会について

8/7（土）役員会および第1回専門部会報告会（本日）

10/7（木）第2回幹事会

12/4（土）第2回専門部会報告会

各専門部会については各々日程調整をおこない、開催する。現在のコロナ感染症の影響による状況から、おそらく Web 会議形式での開催となる。

・次年度の協議会スケジュールについて

2022 年度の役員会・幹事会・専門部会の日程について、事前に 4/22 におこなわれた令和 3 年度第 1 回幹事会で検討していた候補日について提示した。今後、不都合があれば変更をしていくので、それぞれ予備日を設けている。最終決定については、後日お知らせすることとなる。現時点では、年度の初めに決定する予定である。

《異議なし》

PEACE について

＜緩和ケア専門部会 成本部会長＞

今年度は参加者を院内限定にして研修会を開催しているところであるが、次年度の予定について、提示していますので、各施設で日程の決定をお願いします。

8 月 4 日に厚生労働省健康局がん・疾病対策課より通達があり、原則では集合研修をおこなうことであるが、コロナの影響で現地での開催が出来ないこと、という条件付きで Web 開催での修了を認める。Web と実地研修を組み合わせるなどの工夫が必要である。e-learning については、期限が現行では 2 年であったが、令和 5 年 3 月までに受けた場合は、期限を 3 年まで延長する方針が示された。これらを受けて、PEACE 研修会のホームページでは、Web 資料、ファシリテーター、運用マニュアルが更新されているので、それを確認して頂いて、研修会の実施をお願いしたい。

2) 各専門部会からの報告

1. PDCA 部会

＜PDCA 部会 青儀副部会長＞

PDCA 部会は 2 年前に発足し、定期的な活動をおこなっている。その活動（役割）としては主に臨床指標に基づいて診療体制の充実を目指すところと、連携病院間における相互訪問調査を実施するところと、これらを県全体の活動としておこなうことである。また、各施設で独自の臨床指標の設定や、経営指標を用いるなど、院内の診療体制の改善をはかっていく。院内の臨床指標について、東京大学の水流研究室で行っているがん診療体制における質評価指標、国立がん研究センター東先生のがん登録を用いた質評価指標などを用いている。相互訪問調査については、3 年に 1 度ということであったが、各施設に負担が生じるというところで、Web での訪問調査を実施できないか検討をおこなっており、またご案内させて頂きたい。

毎年末に行っている東京大学水流研究室の質評価指標調査として診療体制の推移を紹介

する。愛媛県では、胃がんと大腸がんについて、参加施設の中で共通のファイルを用いて調査をおこなっている。いくつかの施設では更に興味を持って頂き、胃がんと大腸がん以外の領域についても施設単位で調査をおこなって頂いている。県全体で共通のファイルを用いることで、自身の施設の立ち位置がわかるというようなことがあり、毎年繰り返しておこなっている。繰り返すことにより、目標とする適合率（体制の充実）に近づけていくことができる。また、年度ごとに少しずつ右肩あがり（改善）になっている傾向はみられる。水流研究室から改善ツールが配布されているので、それらの活用もお願いしたい。国立がん研究センター東班で、DPC データと EF データ、がん登録を用いた臨床指標も開発されている。利点として、登録データを用いているので、作業が簡潔におこなえるということがあるが、一方で、数年前のデータを用いて解析しフィードバックするという過程となるので、多少、遅い古いというところがあるが、愛媛県で共有して毎年繰り返すすすめていきたい。

国立がん研究センターでおこなわれている患者体験調査報告のデータを PDCA 活動に使用できないかというところで検討している。これは、医療スタッフからみた指標ではなく患者さんの体験に基づく内容で、大変大事なデータとなる。調査には愛媛県からも参加している。症例抽出や集計、考察は厚生労働省や国立がん研究センターが中心になっておこなって頂ける。患者団体が参加した提言を参考に重点を把握しやすい（患者さんの立場に立った情報がみられ、診療内容が俯瞰できる）。今後、E-CIP～がんサポートサイトえひめにおいて公開するよう取り組んでいく。

各施設独自の PDCA 活動の紹介として、四国がんセンターから、入退院支援加算の状況について改善につなげた WG 活動や、松山市民病院から、クリニカルパスの内容を整理し、改善につなげた活動についての紹介があった。

《質問特になし》

## 2. がん地域連携専門部会

<がん地域連携専門部会 橋根部会長>

がん地域連携専門部会は、7/5 に、Web 会議形式で各施設の状況報告をおこない、連携に役立てるべく開催した。7/5 の時点の愛媛県は、コロナが収束もしそうな状況であったため、現在の状況とは全く異なるが、会議の内容について報告する。

### 1) コロナ禍での診療の連携や現状、また困っていることや対応について

#### ・面会制限について

面会制限の解除はなかなか難しく、禁止の施設が多かった。数施設では制限を緩めたところもあった。

#### ・連携訪問、退院調整について

感染に気を付けながら訪問をしたり、退院調整については、集まってしているところもあったが、Web での実施もおこなっていた。

- ・ワクチン接種の協力について

積極的にできる範囲で協力している。

## 2) 研修に関しての現状や開催時の困りごと

院内の研修は、制限なくおこなっているというところが多かったが、Web の研修も積極的に利用していた。ただ、院外の研修への参加については、許可していないところが多かった。今月に入ってから、愛媛県も感染状況が厳しくなってきたので、各施設で制限が厳しくなっているのではないかとと思われる。

## 3) 地域医療連携ネットワークシステム構築の進捗状況

各々のネットワークですすめている。県立中央病院もこの秋から参加できるということを取り組まれているようなので、少しずつ進んでいると感じられる。

## 4) がん地域連携クリニカルパスの使用推進に向けた取り組み

既に軌道にのっているところは積極的に使用しているが、まだ使用できていないところもあるので、今後の課題である。今年、数カ月前に癌と化学療法に部会で取り組んだアンケート調査の結果が論文掲載されたので、各施設に送付している。連携することで収支にもプラスになったり、がんの診療について理解できてよかった、という意見も多かった。連携については、今後もすすめていきたい。

<谷水協議会会長>地域連携ネットワークについて、県立中央病院も参加されることになったということで、追加の情報があれば、教えて頂きたい。

\* 県立中央病院は本日欠席のため回答なし。

## 3. 緩和ケア専門部会（資料 8）

<緩和ケア専門部会 成本部会長>

・以前はグループワークで実際の活動状況や問題点について討議を行っていたが、Web 開催するようになってから、グループワークはハードルが高くおこなえていなかった。昨年度は、Zoom を利用して、グループワークに挑戦した。

### 1) 各施設の現状報告

### 2) グループワーク「緩和ケアチームの質が向上する具体的取り組みを考える」

日本緩和医療学会がおこなっているセルフチェックプログラムのチェックシートを用いておこない、その結果から、今後の緩和ケアの発展のためにどのような取り組みをすればよいか話し合った。緩和ケアチームの推奨が採用されなかった時の対応、について、主治医と直接話し合うことが大切、介入する前に紹介文をよく読んで、該当のスタッフとよく相談し、これなら大丈夫という推奨文を書く、推奨文なので、主治医の意見もあり、受け入れられない場合があっても仕方がない、等の意見があった。また、エンドオブライフのタイミングで、新型コロナウイルス感染の拡大している状況であり、面会ができないため、家族との関係が保てず、緩和ケアの質の低下がおこるのではないかと。患者満足度調査がおこなえない、等の

意見があった。

集合会議であれば、ホワイトボードなどを用いて出てきた意見を共有しながらグループワークをおこなうが、Web会議での共有する方法（Zoomにもそのような機能はある）について、検討したり、Web会議に慣れていくことが必要である。

・今後の活動について

模擬的にセルフチェックプログラムをつけたが、実際に参加したことがない施設がみられたため、参加をして頂きたい。また、PDCA活動については、今後も継続しておこなっていく。

緩和ケア専門部会は、日々の活動をとおして、緩和ケアの質の向上を目指していく。

《質問特になし》

#### 4. がん相談支援専門部会

＜がん相談支援専門部会 灘野部会長＞

7/15に専門部会をWeb会議で開催している。

・都道府県がん診療連携協議会相談支援部会からの報告をおこなった。

・愛媛県健康増進課より 若年がん患者在宅療養支援事業をおこなっており、昨年の実施市町は6つであったが、今年より18の市町に増えた。また、西条市においては、がん対策推進条例を制定し、ウィッグおよび胸部補正具購入費助成事業を開始した。妊孕性温存療法研究促進事業について、今年は予算の確保が困難であったため、令和4年度より開始したい。

・がん相談支援専門部会は4つのワーキングで活動しており、それぞれのワーキングの活動について報告をおこなった。

相談員研修ワーキング 今年の相談員研修は10/23にWebで開催する予定になっているので、ご協力をお願いします。QA研修は昨年はおこなったが、今年愛媛県ではおこなわず、全国版の研修に参加して頂く。国立がん研究センター主催の情報支援トライアル研修に参加する。8/31、10/9の2日間、研修が開催される。研修への参加（市立宇和島病院、済生会松山病院、県立中央病院、四国がんセンター）および協力（愛媛大学医学部附属病院、四国がんセンター）

広報活動ワーキング がんサポートブックえひめの改訂に取り組む。年内に素案を確定して改訂版が発行できるように目標設定している。（がんサポートサイトえひめの進捗状況については、がん登録専門部会より報告）

チェックリストワーキング チェックリストを用いて、相談員のPDCA活動をおこなうということで、活動している。評価指標を作成し、11/31までにチェックリストを回収し、WGで結果をまとめることとしている。PDCA部会の報告にもあった患者体験調査に基づ

く提言書について、相談支援部門での診断時の患者への情報周知、相談支援センターの活用が患者さんの立場として足りないということがあった。これについて議論してチェックリストに取り込み、利用している。

・その他 サロンの開催について

四国がんセンターではサロン活動をはじめることになったので、他の施設も如何かという提言をさせて頂いた。また、おれんじの会の松本さんから状況と協力体制について報告頂いた。

・地域相談支援フォーラムに来年の1月か2月に相談員が参加しますので、ご協力をお願いします。

・おれんじの会の松本さんより、基礎疾患のある患者のワクチン接種が進んでいないため、市町に要望書を提出した。西条市からは、なお漏れがないかどうか確認します、という連絡を直接頂いた。

## 5. がん登録専門部会

<がん登録専門部会 寺本部会長>

・都道府県がん診療連携協議会がん登録部会の報告

・全国集計の提出締め切りについて、拠点病院は8月6日、推進病院についてはこれからである。これについて、四国がんセンターでは「がん登録でみる愛媛県のがん診療」を集計しているが、当院へのデータ提出と国立がん研究センターへのデータ提出について混乱している施設があるようなので、国立がん研究センターへのデータ提出もお願いしたい。

・3.第14回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会（2021.07.09Web会議）報告で谷水協議会会長から報告があったが、国立がん研究センターで、院内がん登録全国集計を皆さんにお知らせするWebシステムを2つ新しく作成しているので、是非利用して下さい。0年集計の集計結果、また、それぞれのがんに関する生存率の集計結果が閲覧できるシステムを作成している。

・がん登録専門部会は院内がん登録だけでなく全国がん登録についても視野に入れて活動しているが、がん登録推進法の改正に向けた動きについて、全国がん登録からの情報提供に関して、全国がん登録から生存情報等をもらうためには、施設側にも院内がん登録の実施規定や情報管理規定を定めることが必要である。今年度中に、全施設揃えられるようにしたい。

・令和3年度全国がん登録へのデータ提出について、愛媛県は、四国がんセンターに提出して頂く。院内がん登録の国立がん研究センターへの提出と同じスケジュールですすめている（拠点病院 8/6、推進病院 9/10、一般病院 11/30）。よろしくをお願いします。

・2016、2017、2018年については、国立がん研究センターのホームページに既に公開されているが、愛媛県のがん登録の情報について、この3月に、愛媛県のホームページに今年の

9月の審議会で承認されて公表がされた。

・がん登録専門部会の活動に関して、がん相談支援専門部会のようにグループに分けて活動する方針となり、6つのグループを立ち上げた。1 研修会企画・運営グループ 2 学び方・教え方～私はこうしています～ 3 日常業務悩み相談（施設間交流）グループ 4 はじめての試験対策グループ 5 勉強会グループ 6 愛媛県の院内がん登録データ利活用グループ の6グループで構成している。グループが違っても、横断的に活動できるように同じ人が複数のグループに入っているが、それぞれ担当を決めて活動している。専門部会ではこのグループ活動についてそれぞれ報告をおこなった。グループ活動のひとつとしておこなっている例として、院内がん登録の冊子「がん登録でみる愛媛県のがん診療2021」として、2019年度のデータについて、4月に冊子となった。全県版については、協議会のホームページに掲載しているので、是非ご覧下さい。

・全県集計について、発見経緯について、がん検診での発見率が低いことがわかる。がん検診の精度ではなく量（受診率が低い）についてがん登録のデータから読み取ることができたので、報告とさせて頂きたい。

#### E-CIP～がんサポートサイトえひめ

愛媛県がん診療連携協議会が愛媛県より受託したがん情報サイトで、「愛媛県がん対策推進計画」に基づく。がん登録専門部会とがん相談支援専門部会合同で活動している。

昨年は広報活動があまりできていない。

昨年度のアクセス数 12,000 件

ユニークアクセス数 4,400 件

もっともっとうご利用をお願いしたい。

・膵臓がんについては 5/8 に公開済み、痛みをやわらげるについては既に 2/16 に公開済み。

・2019年、2020年の施設別データも公開済み。

・前立腺がんについては愛媛大学に依頼して 90%推敲済み。

今後、患者会の方々にも相談して 10月、11月ごろに公開予定。

医療者向けページの作成について

・えひめのがんについて知っておきたい数字 がん関連情報などの頁について、進行中。

・愛媛県のがん検診についても愛媛県と相談してすすめていく。

・がん診療の質 PDCA 部会のデータ、患者体験調査などの掲載について充実させていきたい。

がん登録に関する協議事項としてお諮りしたいこと、2件について

1) 全国がん登録の愛媛県データベースを用いて、愛媛県のがん診療連携拠点病院・がん診療推進病院の県および医療圏域別占有率を公表する。

- ・全国がん登録の愛媛県のデータベースを用いる。
- ・愛媛県のホームページに公表する。

・過去にも協議会で公表した地域がん登録と院内がん登録を組み合わせた施設別・医療圏域別占有率に近いが、全国がん登録のデータベースを使用することで、より精度の高い結果が出る。

・行政では担当圏域の医療資源の分布の把握等のがん対策、施設では自施設の診療圏の把握などに利用できる。

〈異議なし〉

2) 愛媛県がん診療連携協議会の事業である「がん登録で見る愛媛県のがん診療 2020年診断」のデータ公開は2022年春になるが、速報値としてコロナ関係のがん登録データを集計し公表する。

・例年2月に発刊している冊子の速報値として10月か11月に公表したい。研究などではなく、愛媛県がん診療連携協議会の事業として承認されたい。

- ・集計から公表まで四国がんセンターで担当する。
- ・がん診療にコロナが与えた影響について知るために大変役立つデータとなる。

<谷水協議会会長>

こういった情報はできるだけ公表するのがよく、それを判断するのは県民だと思う。県民の方にも医療を提供する側からの姿勢という意味で、是非この会ではすすめる方向としてまとめたいと思います。ご意見があればお願いしたい。

〈意見なし〉

<谷水協議会会長>

速報値を出すことで期待することは何か。

<寺本がん登録専門部会長>

がん診療に関しては院内がん登録データが一番正確な情報となるが、診断から治療開始までの日数の変化、検診での発見率などについて、はっきりわかる。例えばステージの変化で、その最初の変化を見出すことができるのはがん登録データである。速報値については来年も報告予定である。また、このような結果は日本初となるので、全国的にも意義があるデータが出せると考える。

<谷水協議会会長>

とても異議の高い試みだと思う。結果が出たら、是非都道府県協議会にも愛媛県からの情報発信としたい。コロナについては収束することを待つしかないところではあるが、こういった大きな影響があったということに対する情報提供としてエビデンスが高まっていくか

とも思う。是非すすめたいと思います。

<おれんじの会>

コロナ関係の速報値については、患者の立場からも是非期待したい。がん検診を控えてしまったために、進行した状態でみつかるといえる患者さんが増えるというのは本当に残念なことであるので、そういった値がわかれば、是非メディアなどで広く周知をして頂き、手遅れにならないようにという呼びかけにつながればよいと思います。是非よろしくお願ひします。また、がん登録という、私たちのデータが利活用されるということを知る意味でも重要だと思ひます。

## 6. がんの集学的治療専門部会

<がんの集学的専門部会 青儀部会長>

がんの集学的治療専門部会は、4本柱で活動をおこなっている。

- ・薬薬連携
- ・ゲノム情報を用いたスクリーニングシステム
- ・HD 曝露対策
- ・検討課題

薬薬連携 免疫チェックポイント阻害剤の副作用としての irAE マネジメントシステムの構築について、患者さん、施設、市中薬局間でトレーシングリポート等を利用して迅速に有害事象を把握するためのシステムで、松山赤十字病院の村上先生を中心に、地域での連携について取り組みをすすめている。

四国がんセンターの薬剤部で、2009年におこなった薬薬連携の実態調査について11年振りに再調査「保険薬局を対象としたがん化学療法に関する現状・意識調査」をおこない、解析をおこなった。化学療法に積極的に関与したいという薬剤師は増加傾向にあるが、服薬指導の際患者情報の不足を感じている点については以前と変わらないという結果が得られた。がん化学療法に関してどのような情報が知りたいか、については新しい治療法、副作用の対処法などであった。アンケートの結果からは、薬薬連携の改善についてのポイントが示唆された。現在、論文作成中である。

ゲノム情報を用いたスクリーニングシステムについては、四国がんセンターでがんゲノム外来を展開している。最近、リキッドバイオプシー検査の保険承認がされ、新しい診療として加わってきている。

愛媛大学済川先生、薬師神先生を中心に CSTD によるコアリングの調査を行っており、不明熱の原因になっているのではないかと、ということでこれについても論文作成をすすめている。

HD 曝露対策 HD 曝露調査を年1回の頻度でおこなっている。生食による清掃と HD

プロテクトスプレーを噴霧しての清掃との比較を継続しておこなっている。

検討課題 放射線治療の紹介手順の簡素化、コロナ等災害時の化学療法実施の施設確保、がんサバイバーシップ保持活動の提案等。サバイバーシップ保持活動に関して、8月20日に Web 講演会の開催を予定している。県立中央病院石田先生の AYA 世代対応、愛媛大学杉山先生の妊孕性温存、それぞれのネットワークシステムに関する講演会を連携協議会でバックアップして定期的に開催している。また、英文冊子を翻訳するプロジェクトが立ち上がっており、近々出来上がるので、この本についてお配りさせて頂く。サバイバーシップの地域研修についても愛媛県で実施できる予定である。

<河村幹事長>薬剤曝露については、薬剤師会からコメントがあればお願いします。

<病院薬剤師会 浅川会長>がん専門薬剤師を中心に、一生懸命拠点病院、推進病院の者と連携しておこなっている。今後とも宜しくお願いします。

<薬剤師会 古川会長>院外処方箋を頂いてという中で困っていることはお話の中でご指摘があったとおりに思われる。これからも積極的に参加させて頂きたいと思いますので、宜しくお願いします。

## 7. がん看護専門部会

<がん看護専門部会 多田部会長>

・愛媛県内におけるがん看護に関わる看護師のがん看護実践の質の向上の促進を目的としてがん看護実践能力向上を目指した研修、トピックス研修、スポット研修の3つのカテゴリーで毎年研修を計画している。しかしながら、昨年度はコロナでほとんど中止となったため、新たに「ターミナル期の口腔ケア」「『人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン』の概要と臨床での応用」「ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム」の3つの Web 研修を企画し、大勢の方々に参加頂いた。

### ・今年度の活動予定

定例の専門部会を2回開催する。第1回 9/28、第2回 R4/1/25。

今年度の研修計画について

がん看護実践能力向上研修会 (WEB)、フォローアップ研修、がん看護実践能力向上研修会は、例年21日間での集合研修であったが、今年度は5日間の Web 研修を計画している。フォローアップ研修も含めて完全 WEB 形式で実施する。トピックス研修については、ELNEC-J と協賛して計画している。

研修会の目的について

昨年度までは6項目の目的としていたが、研修方法等の変更にもとない、4項目に絞っている。1 つめはがん対策推進基本法 分野別施策のがん医療の充実を目指すという視点、2～4 はがんと共生、その理解と実践への応用を目指して、研修目的を改訂した。

研修の参加要件について

WEB研修となったため、以下のような参加要件が追加されている。

- ・各施設で1例以上のがん看護の実践ができる見込みがある。
  - ・各施設で実施して頂くにあたり、相談役となるファシリテーターを置くことができる。等。
- 企画委員が細かく計画してファシリテーターに支援をお願いしている。

《質問特になし》

### 3) 災害時のがん診療のあり方について

＜がん相談支援専門部会 灘野部会長＞

当部会では災害ワーキンググループをつくって活動しており、その経緯と課題について報告する。

- ・これまでの経緯

都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 相談支援部会において、2016年4月の熊本地震後の協議会で、災害時のがん相談支援センターの役割が議題となった。がん診療の情報収集について、熊本では熊本大学病院で情報をまとめて発信をおこなったという報告があった。また、国立がんセンターが協力して情報発信をおこなった。電話が繋がらないので、メールを活用した。等。

その時すでに、東日本大震災があった際に、がん情報サービスには「大規模災害に対する備え」という冊子が作成されており、がん相談支援専門部会では皆で活用していく目的で情報共有をおこなった。

2018年7月に西日本豪雨災害が発生し、7月9日（月）に情報収集・発信を行った。がん相談支援専門部会の中で、情報収集・情報共有のルールがない、連絡網の整備・更新、非常時連絡方法の不備、災害時に研修会開催に関わる規程がないなどの課題がみつかった。

- ・2019年11月

災害時連絡シミュレーションとして、連絡網（メーリングリスト）の確認をおこなう。

メール受信までに時間のずれがある。メールが届かない。返信に時間がかかる。

問題点を修正し、再度連絡網（メーリングリスト）の確認をおこない、整備されている状態であったが、その後災害時ワーキングを立ち上げて、活動をおこなっている。

災害時ワーキングの実際の活動について

- ・毎年度の初めに連絡網（メーリングリスト）の確認をおこなっている。
- ・災害時の対応・受け入れ体制調査の情報共有について

院内・地域内確認ルート アンケート調査を実施している。

化学療法をおこなっているか、緩和ケアはどうか、外来・入院、患者受け入れはどう

か、地域の薬局はどうか等の情報をがん相談支援センターが把握できるように情報共有をおこなっている。

・県の拠点病院が被災した場合の情報収集の方法についてはどうなるのか。

中予が被災した場合は、東予や南予の病院さんに協力をお願いして情報発信して頂けるように情報共有が必要ではないか、というところで今回の話題提供に至っている。今後、災害がおこった時には専門部会で情報収集、情報発信していきたいと思います。相談員から何か相談がありました場合には、ご協力をお願いします。

<河村幹事長>

専門部会で災害時の対応について検討して頂くことに関して異論はないと思われませんが、今回のコロナなども災害であり、災害については県の拠点病院全体で取り組まないといけないテーマであると思われる。専門部会だけに任せるのではなく、役員会等でもいろいろ議論していくべきではないかと思われます。ご意見がありましたらお願いします。

<住友別子病院>

病院の被災状況の把握については、愛媛県内の被災状況を EMIS (広域災害救急医療情報システム) で収集することになっていると思うが、そういったものを連携して使用することはできないのか。

<谷水協議会会長>

ベースはそちらであると思う。災害拠点病院のネットワークがあり、しっかり対応をとっていただけるというベースのもとに、がん診療で困ることになる人達が、後回しにならないようにするシステムという形で対応することが必要であろうと認識し、それではやはり、患者さんの声が聞こえるがん相談支援センターを中心とした災害ネットワーク対応を、がん診療連携拠点病院としては構えるべきではないかと考えて相談し、今回の話題提供に至っている。がん相談支援専門部会の中ですすめて頂きながら、全体にも情報を共有させて頂けるとよい、という認識である。

<住友別子病院>

がん診療についてそれはとても大切なことではあるが、県と連携して情報をもらいながら、それをもとにがん診療を組み立てていく方が、独自で情報を集めるよりはうまくいくのではないかと思う。

<谷水協議会会長>

基本はしっかり踏まえて対応を組み立てていきたいと思う。ここに集まって頂いている皆様は災害拠点という意味では中心となる施設の皆様が多いと思うので、是非がんの分野でもそういった力を発揮して頂きたいと思いますので、よろしく願いいたします。

閉会の挨拶<谷水協議会会長>

皆様のご協力で大変多くの実践と実績が蓄積されてきていることがわかり、感謝申し上げます。特に、抗がん剤のコアリングや曝露対策、薬局との連携における副作用対策というようなところでは、論文化もすすんでいるということで、成果として楽しみにしたい。今回も、非常に多くの課題があるのだということを改めて認識したので、この会がきちんと機能していかないといけないと思う。コロナ禍は時代を加速するという側面があることもわかったので、会議の在り方など、新しい対応の方法も含めて、がん対策の推進に向けてこの協議会がしっかり活動していく必要があるということを改めて認識している。今後とも活動にご協力と率先したご指導を宜しく申し上げます。

お忙しい中ご参加下さりましてありがとうございました。今後もよろしく願いいたします。

閉会

(資料3)

令和3年度 愛媛県がん診療連携協議会 第2回 幹事会  
メール会議 記録

令和3年10月7日の幹事会は新型コロナウイルス感染拡大予防の観点よりメール審議として執りおこなうこととなり、以下の審議事項について、令和3年10月7日より10月13日までの1週間の期間において、幹事会 メールングリストにてメール審議をおこなった。

◇議題◇

1. 令和3年度幹事会 名簿確認 (資料1) . . . . . 2  
    20210422 幹事会議事録 (資料2) . . . . . 3  
    20210807 役員会および第1回専門部会報告会議事録 (資料3) . . . 12
2. 協議会活動年間スケジュール (資料4) . . . . . 26
3. がん診療連携拠点病院等の実態／指定要件に関する調査 (資料5) . . . 28
  
4. 報告事項
  - 1) PDCA 部会 (資料6) . . . . . 40
  - 2) がん地域連携専門部会 (資料7) . . . . . 48
  - 3) 緩和ケア専門部会 (資料8) . . . . . 50
  - 4) がん相談支援専門部会 (資料9) . . . . . 54
  - 5) がん登録専門部会 (資料10) . . . . . 64
  - 6) がんの集学的治療専門部会 (資料11) . . . . . 70
  - 7) がん看護専門部会 (資料12) . . . . . 83
  - 8) 次回専門部会報告会の予定について (資料13) . . . . . 89  
    2021年12月4日(土) 13:00~14:30 Web会議
  - 9) がんに関する冊子のお知らせ (資料14) . . . . . 90
  
5. 討議事項
  - 1) 緩和ケア専門部会  
    緩和ケア研修会 PEACE の令和4年度開催について (資料15) . . . 91
  
6. 討議事項に対する返答のお願い . . . . . 別添

【審議内容】

①全体の内容について。

②緩和ケア研修会PEACE令和4年度の開催日程について（資料91ページを参照）。令和3年8月4日厚生労働省がん・疾病対策課から発出の事務連絡（8/7役員会で報告済み）についても、併せてご確認をお願いします。

【審議結果】

1) 審議事項②の緩和ケア研修会PEACE令和4年度の開催日程について、を除いては、令和3年10月13日までに異議等はなく、令和3年10月13日付で承認。

・12/4（土）に専門部会報告会をWeb会議で予定するため、第2回目の専門部会は各々専門部会報告会までに開催すること。（資料89ページを参照）

・公益財団法人がん研究振興財団から提供のあった冊子については、昨年同様、各施設に2部ずつの配布をおこなう。（資料90ページを参照）

2) 審議事項②緩和ケア研修会PEACE令和4年度の開催日程について、については、令和3年10月7日から令和3年10月13日までの期間、幹事会メンバーリストにおいて確認をおこない、また、PEACE実施施設へは令和3年10月28日から令和3年11月5日の期間に再度確認をおこなったが、令和4年度においても引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けることが予想されることから、案内文を見直し、令和3年11月8日までに期間を延長してPEACE実施施設間で確認をおこなった。開催日程および担当者等についてもPEACE実施施設それぞれに調整を依頼し決定したうえで、令和3年11月18日に幹事会メンバーリストに報告をおこない、添付の案内状に確定した。

<添付> 令和4年度愛媛県緩和ケア研修会PEACEのご案内

☆☆☆ 愛媛県緩和ケア研修会 PEACE のご案内 ☆☆☆

2021 年 11 月 吉日

医師会員各位

愛媛県緩和ケア推進センター  
愛媛県がん診療連携協議会

謹啓

平素より緩和ケアの普及推進にご尽力を賜り感謝申し上げます。

さて、令和 4 年度緩和ケア研修会 PEACE の開催についてご案内させていただきます。この研修会は、がん対策推進基本計画に基づくもので、受講修了者（医師）には厚生労働省健康局長名による修了証書が発行され、氏名が公表されます。「B001 22 がん性疼痛緩和指導管理料 200 点」の算定には、本研修修了が要件とされています。

なお、開催指針の改正により、e-learning による事前学習とロールプレイなどを実施する集合研修を組み合わせた形式で実施しておりますが、今後の新型コロナウイルス感染拡大の状況により開催方法の変更や中止となる場合もあります。つきましては、研修会の開催日程を下記のとおりご案内いたしますので、受講予定の皆様には、e-learning の修了証書を添付のうえ、FAX 送信（本紙裏面）またはメールでお申し込みください。（e-learning の受講方法については別紙 1 をご参照ください。）なお、参加者は、施設毎に異なっており、随時ホームページに更新いたします。受講の際には、各拠点病院の担当者に直接ご確認をお願いします。

謹白

開催日程	申し込み期限	申込先（問い合わせ先）
2022 年 3 月 12 日（土）	2022 年 1 月 14 日（金）	四国がんセンター がん診療連携協議会事務局：武智 祥江 TEL：089-999-1111 FAX：089-999-1100 メール：519-tsupport@mail.hosp.go.jp
2022 年 4 月 9 日（土）	2022 年 2 月 11 日（金）	住友別子病院 がんセンター事務担当：横井 美由紀 TEL：0897-37-7111 FAX：0897-37-7121 メール：miyuki_yokoi@ni.sbh.gr.jp
2022 年 5 月 28 日（土）	2022 年 3 月 18 日（金）	済生会今治病院 総合医療支援室：柚山 直哉 TEL：0898-47-2571 FAX：0898-47-2826 メール：n-yuyama@imabari.saiseikai.or.jp
2022 年 7 月 9 日（土）	2022 年 5 月 13 日（金） ※院内研修医等の希望者を優先するためお断りする場合がありますので、ご承知おきください。	愛媛大学医学部 総務課企画・広報チーム：友澤 妙 TEL：089-960-5225 FAX：089-960-5131 メール：mekoho@stu.ehime-u.ac.jp
2022 年 7 月 9 日（土）	2022 年 5 月 20 日（金）	松山赤十字病院 がん診療推進室：大西 麻弓 TEL：089-926-9630 FAX：089-926-9614 メール：ganshinryo@matsuyama.jrc.or.jp
2022 年 8 月 7 日（日）	2022 年 6 月 3 日（金）	愛媛県立中央病院 事務局総務医事課：山本 浩三 TEL：089-947-1111 FAX：089-943-4136 メール：yamamoto-kouzou@pref.ehime.lg.jp
2022 年 8 月 20 日（土）	2022 年 6 月 17 日（金） ※南予地区の方限定	市立宇和島病院 医事課：井上 悌爾 TEL：0895-25-1111 FAX：0895-26-6560 メール：teiji@uwajima-mh.jp
フォローアップ研修会 2022 年 9 月 24 日（土）	上記研修会修了者のためのフォローアップ研修会です。 2022 年 7 月初旬に案内いたします。なおフォローアップ研修会は「がん性疼痛緩和指導管理料」算定には関係しません。	

- 詳しくは緩和医療学会 PEACE プロジェクト (<http://www.jspm-peace.jp/>) をご参照ください。

令和3年度 愛媛県がん診療連携協議会 第2回 専門部会報告会  
議事録

開催日時：令和3年12月4日（土） 13:00～14:45

開催形式：WEB会議 四国がんセンターカンファレンス室からの発信

司会進行：四国がんセンター 幹事長 河村 進

出席者：愛媛県がん診療連携協議会会員より参加希望者

議題

開会の挨拶<谷水協議会会長>

皆様、本日も参加頂きありがとうございます。この愛媛県がん診療連携協議会は、ここ2年間コロナ禍の影響でWeb開催となりましたが、活発な専門部会の活動を推進してください感謝申し上げます。本日も沢山の報告があると思いますが、特に愛媛県のがん登録解析結果からコロナ禍の影響でのがん診療の変化を全国に先駆けて報告されるので大変楽しみにしております。その他の分科会も活発に活動していただいていますので、Web会議の利点も生かしながら、実際に集まる会も開催したいと思っています。今日も実り多き開催となることを、またこの愛媛県がん診療連携協議会の発展を皆様をお願いしたいと思います。

<河村幹事長>

本日は今後の専門部会報告会のあり方の提案について、幹事の先生方からご意見をいただきたい。

1. 2022年度のスケジュールについて（資料2）

<河村幹事長>

別添資料(案)でおおむね決定していますが、例年7月後半～8月初めに予定する役員会および専門部会報告会の日時については決定次第、連絡をさせていただきます。

2. 今後の専門部会報告会のあり方について

<河村幹事長>

コロナウイルス感染症対策で近年はWeb会議が浸透している。便利でスムーズに進行が可能であるが、反面集合形式で開催したいという専門部会もある。各専門部会の開催方法については、おのおので決定して進行して頂きたい。報告会についてはWeb開催であれば、土曜日でなく平日の開催は如何でしょうか。ご意見をお願いします。

<谷水協議会会長>

Web開催で参加しやすいという面もあるので、Webを活用した集合会議も検討しより良い形を探っていくことができるのではないかと。例年、7月後半～8月初めに開催している役員会および専門部会報告会は、多職種の参加があるので、今までの慣例（土曜日での開催）から外れて開催するのは、難しいのではと思う。しかし12月の報告会に関しては、ほとんど

どの専門部会の会議がそれまでに終了しており報告のみになるため、土曜日の集まりづらい時に、また休診日に勤務することが難しい職種もあると思うので、木曜日または金曜日の夕方に開催するという形でも可能なのではと考える。本日は幹事の先生方も多く参加して下さっているので、ご意見を教えて頂きながら、開催の方針を次回の幹事会までに決めればよいのではないかと。是非ご意見をお願いできればと思います。

<河村幹事長>

最終的には幹事会、役員会で決定となりますが如何でしょうか。

<市立宇和島病院 梶原先生>

一度は集まりたいので、どちらかは集合だと思うが、谷水先生の考える方法が良いと思います。

<河村幹事長>

本日は幹事の先生がほとんど参加して下さっていますが、最終的には全員が集まれる幹事会において決定をして頂けるよう、議題として挙げさせて頂きたいと思います。

### 3. 会議への招聘状の取り扱いについて

<河村幹事長>

各施設で時間外に参加する場合の院内手続に招聘状が必要になると思いますが、前回の報告会では Web 会議でおこなったため、招聘状を出していませんでした。今後はどのようにすべきかを検討させてください。何かご意見があればお願いします。愛媛大学さんほどのようにされていますでしょうか。教えて下さい。

<愛媛大学 薬師神先生>

今回は私宛てにもメールが届いたが、事務宛てにも発信して頂いたので、事務から院内の関連部署に発信したことで、同じ内容のメールが 2 回届いた。確認の意味でよかったかもしれませんが、煩雑になるようであれば事務に一括してお送り頂ければ対応は可能です。

<河村幹事長>

招聘状は院内手続に必要なものなので、四国がんセンターからは毎回送らせて頂いて、そこから先は、施設内で再配布して頂くという運用でよろしいでしょうか。

<谷水協議会会長>

おそらくは過去に「各専門部会に参加するために四国がんセンターからの招聘状が欲しい」ということをそれぞれの担当者の方から申し出があったため、かつての会議では四国がんセンターから招聘状をお出ししていたと思う。この協議会自体は、各病院が協議会参加病院の責務として参加しているので、形式上は、各施設の事務の方にお送りして、そこから院内でそれぞれに参加の命令を出して頂くというのがよいと思う。しかしながら、実際はメールでやりとりをしているので、いろいろな案内はそれぞれの分科会の構成員の方々にも必要に応じてどんどん出して頂ければよいと思うので、各病院から協議会の活動が業務であるという形で命令を出して頂くことに支障がなければ、ご提案のような形で整理して頂くのがよいのではないかと。思う。

<河村幹事長>

特にご意見がなければ、そういった形で今後すすめさせていただきます。何か不都合なことがあれば事務局までご意見等を頂きたい。

<愛媛大学 薬師神先生>

この専門部会報告会は、専門部会に参加している者でないと参加できないのでしょうか。それとも、がんの診療に関わっている方であれば、何方でも参加させて頂いてもよろしいのでしょうか。我々としては、できれば後者の方で案内を事務宛てに発信して頂きたい。事務から関係部署に、自由参加で、興味のある専門部会に参加して下さいということで周知させて頂けたらよいと思うが、よろしいでしょうか。

<河村幹事長>

その運用で構わないと思います。谷水会長、それでよろしいでしょうか。

<谷水協議会会長>

是非そのように広く皆さんに参加して頂きたいと思います。他県の状況を見ると、代表者である病院長と事務担当者のみ連絡会に参加し、その内容を各組織内で周知するという方法をとっているところもあります。ですが愛媛県の場合は、参加した人皆が他の専門部会の活動を聞く機会があり、多くの人に周知、拡がりがあったと思います。さらにそれを超えて各病院の中で各部会の活動に興味を持たれる方が参加して下さいというのは歓迎すべきことと思います。今のお話を各病院で周知して頂ければと思います。

<愛媛大学 薬師神先生>

ありがとうございます。

<河村幹事長>

今まで参加 URL の発信は事前に参加表明を頂いた方のみでしたが、今回は全員宛てに発信させて頂きました。今後はそういった形にさせていただきます。是非、参加者を多く募っていただけるようお願いいたします。ありがとうございました。

今後の報告会のあり方と招聘状の扱いについての方針について、今後の幹事会で報告させていただきます。年間スケジュールに関しては一部未決定ですが、さきほどお示した案で今後の協議会をすすめさせていただきます。

#### 4. 各専門部会からの報告

##### 1) PDCA 部会 (資料 3)

<PDCA 部会 青儀副部会長>

##### 1. 質評価指標としての研究

国立がん研究センター東班で、DPC データと EF データ、がん登録を用いた臨床指標が開発されている。登録データを用いているため作業が簡潔におこなえるという利点があるが、数年前のデータでの解析のため多少フィードバックが遅く古いという欠点がある。

愛媛県でも共有して毎年繰り返すすすめたい。

## 2. PDCA 活動の具体例（専門部会編）

### ①がん相談支援専門部会

以前より、チェックリストワーキングで活動をおこなっている。

### ②緩和ケア専門部会

緩和医療学会のセルフチェックプログラムを活用して PDCA 活動をおこなっている。

### ③がんの集学的治療専門部会

抗がん薬曝露に関して、調整、投与方法等に問題点はないか、年度ごとにアンケートを実施しブラッシュアップをおこなっている。

## 3. 患者体験調査について

3年に一度、各県毎、施設毎、がん種毎の院内がん登録全国集計のデータから偏りのない症例をリストアップし、受託会社を通して、患者さんの同意に基づきどのような診療体験をされたかのアンケート調査が実施している。これは、診療に問題点がなかったかなど患者さんの立場からみた PDCA 活動調査である。症例抽出・集計・考察を厚生労働省・国立がん研究センターが中心となって行うので調査結果に妥当性・公正性・高い精度が期待できる。また、患者団体が参加した提言を参考に重点を把握しやすい等の意義がある。PDCA 部会では、この調査に基づいて対策を講じ、がんサポートサイトえひめ等のホームページで公開して患者さんにご理解を頂くよう努めている。例 1)「がん治療」を決めるまでの間に、医療スタッフから治療に関する十分な情報を得ることができたか。例 2) がんの治療が始まる前に、担当医からセカンドオピニオンについて話があったか。などの設問がある。全国との比較で、改善の余地についても目で見てわかる結果が得られる。愛媛県としては、セカンドオピニオンの周知、就労支援や妊孕性温存の相談を努力目標としている。結果は、がんサポートサイトえひめ上で展開しており、患者さんにこのような努力を理解して頂ける活動になることを期待している。

## 4. がん診療体制の質に関する調査について

毎年末に行っている東京大学水流研究室の質評価指標調査での診療体制の推移を紹介する。愛媛県では、胃がんと大腸がんについて、参加施設の中で共通のファイルを用いて調査している（いくつかの施設では更に興味を示して頂き、胃がんと大腸がん以外の領域についても施設単位で調査をおこなって頂いている。）が、共通の調査ファイルを用いることで、全国レベル、県レベルで自身の施設の立ち位置が認識できるため改善活動につながっている。毎回、トップマネジャーに評価用のファイルが送られ評価を依頼しているが、今回は、各診療科の現場医師に向けて、ミドルマネジャー、スタッフ用の簡単なミニ調査票が送られるかもしれない。興味があれば、是非参加をお願いしたい。

<谷水協議会会長>

東班のデータはどこかに公表されていますか。

<青儀副部会長>

公表されています。PDCA 部会の中で共有もしています。

## 2) がん登録専門部会 (資料 4)

＜がん登録専門部会 寺本部長＞

- ・ 11/15 に専門部会を開催した。

全国がん登録に関して

・ 全国がん登録の提出は全施設完了している。今後ともご協力をお願いします。コロナの影響で大きめの拠点病院が概ね数を減らしているが、中小の病院では数を増やしているところが見受けられる。全国がん登録 2018 年データに関しては、県にデータ利用審査申請中で年内には公開できる予定である。

- ・ 全国がん登録室の外部監査について

法律で定められ 4～5 年に 1 度実施される。オンラインおよび現地監査がおこなわれた。もうじき結果が届く予定である。

- ・ 愛媛県健康増進課 三宅様より

がん登録推進法の 20 条に基づいた全国がん登録から院内がん登録への予後情報の提供に関して、新たな申請書類が概ね作成できた。セキュリティ関連の確認や整備もお願いしたい。

- ・ 全国がん登録のデータ利用について

利用できるか審議中ある。各病院に予後情報が提供できるところまでは決まっている。

院内がん登録に関して

・ 活動検討委員会を発足した。1 研修会企画・運営グループ 2 学び方・教え方～私はこうしています～ 3 日常業務悩み相談(施設間交流)グループ 4 はじめての試験対策グループ (5 勉強会グループ) 6 愛媛県の院内がん登録データ活用グループ。

現状の課題から、研修のテーマ・参加のし易さ・人材育成などについて委員会を構成し、活動している。

各グループの進捗についてのアンケート調査をおこない、結果のフィードバックをおこなった。専門部会とは別に委員会を開催し、検討をおこなった。今年度はそれぞれ活動してきたが、今年度の総括と来年度どのようにするかを議論した。

- ・ 来年度も少なくとももう 1 年は活動を継続することになった。
- ・ 専門部会等で活動状況を定期的に報告する。
- ・ 来年 5 月には交流会を予定している。
- ・ 施設訪問をかねた持ち回りの研修会についても肯定的な意見があったので、これについても検討する。
- ・ 活動スケジュール表を作成しており、今年度残り 3 カ月もそれにならって活動する。

活動予定

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
研修会企画・運営グループ												
学び方・教え方～私はこうしています～												
日常業務悩み相談(施設間交流)グループ												
はじめての試験対策グループ												
勉強会グループ												
愛媛県の院内がん登録データ活用グループ												

- ・ 院内がん登録・がん登録研修活動について がん登録は、直接収入には結びつかないが

特殊な知識と真面目な取り組みを必要とする部門であり、研修の参加、自習の時間などへの配慮や十分な人材の配置についてなどご協力をお願いします。皆さんのお陰で愛媛県のがん登録の精度が日本に誇るようになったので、今後ともご協力をお願いしたい。表彰制度なども検討中です。

#### 全県集計について

全県集計をつかった講演を最近していないので、協議会内で広報できるイベントをおこないたい。

#### コロナ速報について

- 新聞 2 社掲載
- 日本医師会 JACR 共催シンポジウム
- 東京都がん診療連携協議会
- 日本疫学会シンポジウム
- 愛媛県知事記者会見（調整中） などの反響があった。

愛媛県内ではがん医療崩壊というほどの大きな変化はないが、様々な影響が見られた。

- 検診・人間ドックが特に必要とされる年代での受診率・発見率が下がっている。
- 患者の移動・センチメントが低下している。

健康のための活動は自粛してはならない。

このようなメッセージを発信したが、もっと広く伝えたい。詳細は協議会ホームページに掲載しているので、閲覧して頂きたい。

コロナ速報版『がん登録で見る愛媛県のがん診療 2020 年診断』報告 on line meeting  
« 愛媛県がん診療連携協議会 HP [https://ecch.jp/?page\\_id=2006](https://ecch.jp/?page_id=2006)

#### E-CIP～がんサポートサイトえひめ

愛媛県がん診療連携協議会が愛媛県より受託したがん情報サイトで、「愛媛県がん対策推進計画」に基づく。がん登録専門部会とがん相談支援専門部会が合同で活動している。

- ・令和 3 年 11 月現在
- 前立腺がんについてほぼ完成した。最終チェックが 12/15 締切り。
- 乳房・胃・大腸・肺・肝臓・子宮頸部・原発不明がん・AYA 世代(15-39 歳)のがん、膵臓、前立腺。臓器別はほぼ揃ったので、内容を充実させていく予定である。リクエストがあれば追加は可能です。
- ・がんサポートサイトえひめだけではなく、がん情報全体を提供するようなページの作成もかねてから検討している。
- がん検診、がん診療の質、PDCA 部会の住民に対するお知らせ、患者体験調査などの掲載についても充実させていきたい。

<河村幹事長>

がん登録専門部会も多くの活動をして頂き登録員の皆様にも非常にお世話になっている。地道な努力が必要な部門ですので、今後もよろしくお願ひします。コロナのことも含めてm3でも話題になり、愛媛県で作成している院内がん登録の冊子については、これだけしっかり作成しているところは愛媛県ぐらいしかないと聞いています。本当に努力して頂いてありがとうございます。

<谷水協議会会長>

愛媛県の冊子については、拠点病院の要件なので当然と思って推進をお願いしたいと応援してきたが、振り返ってみると全県で作成しているのが3県ということであった。愛媛県は各施設の診療情報管理士が凄く頑張っておられるということが、愛媛県の自慢になることであると思っています。寺本部会長が言われていたようにいろいろな特殊な勉強をしっかりしなければいけない責務があり、現場での電子カルテ管理やDPC状況をみるなどの業務が大変である中、これだけの活動をしていることは、愛媛県の全ての施設で認識して頂き応援して頂きたい。収入に結びつかないということで病院管理者としては応援しづらい部門ではありますが、是非現場を応援して頂けるようお願いしたい。

<河村幹事長>

診療情報管理士さんは当院でもがん登録のみではなくいろいろな仕事をして、診療に非常に役立つデータを出している。是非各病院でも診療情報管理士さんのフォローをして頂けるようお願いいたします。

### 3) がん地域連携専門部会 (資料5)

<がん地域連携専門部会 橋根部会長>

がん地域連携専門部会は、11/10にWeb会議を開催した。丁度この頃はコロナの第5派がおさまり、落ち着いてきた状況だったので、地域連携の二大柱であるスムーズな連携を手伝うこと、連携パスの推進の2点を再確認と現状について意見交換をおこなった。また、第5派の真っ只中の頃は、緩和病棟がコロナ病棟に代わって終末期の患者さんが入院できないなどの報道があったので、愛媛県ではどうだったのかなど意見交換をした。

配布していた別紙資料に基づいて各医療機関と意見交換を行った。

・緩和病棟があるのは、済生会今治、HITO病院、住友別子病院(10月から)と四国がんセンター。緩和病棟がコロナ病床に転用された施設があった。四国がんセンターはコロナ患者さんの受け入れ要請がなかったので、そのまま緩和病床として維持できていた。特にコロナ病床に転用して大きなトラブルはなかったようだが、緩和病床への転院依頼時に、今はコロナの病床に転用しているので受け入れができなかったことも数件はあった。大きなトラブルもなく運用できていたようである。現在は緩和病床として再開している施設もあり特に問題はないかと思う。コロナ病床に転用があった場合に、各施設から地域連携室への連絡はなく、問い合わせはじめてその状況が判明したのがほとんどであった。こ

これらの情報共有はきちんとしなければいけないという意見があった。幸い愛媛県では大きなトラブルはなかったようです。

・コロナが落ち着いた状況での面会はどうなっているか。

大半の施設で面会禁止は継続している。若干緩めた施設もあるが、完全フリーにした施設はなく厳しい状況が続いている。看取りに関しても制限されている施設がほとんどであった。数人で看取るとというのが大半の施設であった。厳しいところでは、面会は荷物の受け取りのみで絶対に不可というところもあった。詳細は添付資料をご覧ください。

・コロナ会議を毎週開いている施設がほとんどで、制限についてはその会議で決定しているところがほとんどであった。

・実際に患者さんや家族にどのように情報を周知しているのかについては、ホームページと病院の入り口に掲示をしているところがほとんどであった。幸い今回はマスコミが病院もひっ迫していると度々報道したので、大きなトラブルはなかったとの各施設からの意見であった。ホームページや掲示でどの程度周知できているのかについては、確認は難しいが、確実に周知するのがこれからの課題。部会で何か手伝えるところがあるのかを協議したが良い意見は出なかった。

・今回コロナを経験して新たなツールを入手した。連携に関しては、リモートカンファレンスが大きな武器となった。各施設で実施をしているところもあるが、運用できていない施設もある。確実な運用であれば遠隔でカンファレンスが出来るため有用なツールだと認識されていた。今後、広まると思うが、現状はコロナが落ち着いていたので、対面で行っている施設がほとんどであった。WIFIの環境など、相手先の設備にもよるため難しいという意見もあった。

・ネットワーク連携について 県立中央病院で11月から媛さくらネットが開始され、コロナの影響でまだ運用は開始されていない。これによりほとんどの施設とネットワーク連携が行えるようになった。各々の施設が異なる仕組みでやっているの、横の連携が早くできればもっと広がっていくのではないかと。部会で音頭をとって、ひとつのところから全部が繋がるようになれば理想と考える。などの意見があった。

・歯科連携 抗がん剤や顎骨壊死についてのフォローアップの強化をおこないたいという意見があり、少しずつ進めることになった。

・その他の取り組み 愛大、県中で、最近では Line や SNS が普及してきているので、こういったツールを利用して患者サービスに使っているという例があり、順調に使えると患者サービスも向上するでしょう。

・連携パス 松山赤十字病院で乳がんホルモン療法パスの改訂があったので、部会で推し進める。

・コロナ禍を経験して、今後第6波が来たときにはスムーズな連携ができるように部会としては取り組みたい。早々にネットワークシステムがもう少し普及すればいいという意見も出たので、引き続き協議会にお願いし続ける。

<河村幹事長>

コロナの影響で院内でも Web 会議が多くなっているということであったが、Web 会議は、コロナがあるなしに関わらず、これから進んでいくのではないかと思う。連携部会においても、連携パスの改訂もあったということで、ますますの活動をお願いします。

4) 緩和ケア専門部会 (資料 6)

<緩和ケア専門部会 成本部会長>

11 月 17 日に Web 会議でおこなった。3 施設は欠席であった。

1) 各施設の現状報告

2) ディスカッション「今さら聞けないオピオイドの使用方法 あなたの施設はどうしていますか？」

事前に次のような設問 (1. 疼痛コントロールについて 2. タイトレーションの方法について 3. 難治性疼痛の場合、治療はどうすることが多いか? 4. 非がん性の呼吸不全 (呼吸困難)、慢性心不全の患者に対して、どのように麻薬を使用しているか?) でアンケートをおこない、アンケート結果をもとに 5 施設に発表を依頼し、ディスカッションをおこなった。

- ・愛媛県全体の麻薬使用量は、2017 年以降はほぼ横ばいである。
- ・初回オピオイド導入時、使用頻度の高いオピオイドで分けると、オキシコドンが多い施設、トラマドールが多い施設、それ以外の施設に分かれる。
- ・タイトレーションは、内服の場合、レスキューを使用しながらベース量を増量する方法と、持続皮下注射で行う施設が多かった。
- ・難治性疼痛は、持続皮下注射を使用し、放射線治療、神経ブロック、メサドン、ケタラールの使用も検討する。
- ・非がん性の呼吸困難では、症例がある施設では、少量のモルヒネを使用することが多い。

<谷水協議会会長>

調査票を全施設で使用して PDCA サイクルのチェックをされたということを PDCA 部会の報告で伺ったが、それについて、概要を教えてください。

<成本部会長>

前回の専門部会の内容となるが、まず日本緩和医療学会に登録をしてセルフチェックプログラムに参加して頂くことがひとつと、専門部会では、日本緩和医療学会がおこなっているセルフチェックプログラムのチェックシートを用いて模擬的に記入をおこない、その結果から、今後の緩和ケアの発展のためにどのような取り組みをすればよいかグループワークをおこなったというのが前回の活動です。

<成本部会長>

住友別子病院の院長先生から、前回緩和ケア病棟が開設されたことの紹介があったが、具体的に何床あってどのような運用をされているかということが専門部会内で周知されて

いなかったので、この機会に教えて下さい。

<住友別子病院>

10月1日から施設基準に準じた緩和ケア病棟の運用を開始した。病床数はコロナの関係も若干ありながら19床でスタートしている。スタート当初は満床に近い状況であったが、その後少し減って現在は13床で運用を続けている。

<谷水協議会会長>

是非その実績がまとまったら教えて頂き、我々の地域からも新居浜地域の患者さんが多いので、連携できるとありがたいです。活動実績報告をある程度の段階でお願いできたらと思います。

<住友別子病院>

関連施設さんに訪問もさせて頂いたりしておりますので、その中で、先程のようなお話もしています。期間が経てば報告差し上げたいと思います。

<成本部会長>

ありがとうございました。

#### 5) がん相談支援専門部会（資料7）

<がん相談支援専門部会 灘野部会長>

11/11に専門部会をWeb会議で開催している。

・がん相談支援専門部会は4つのワーキングで活動しており、それぞれのワーキングの活動について報告をおこなった。

1) がん相談員研修WG 今年の相談員研修は10/23にWebで開催した。参加者は21名（県内12名、県外9名）で、グループディスカッションもおこなった。ご協力ありがとうございました。活動報告とアンケート調査の集計の詳細はホームページを参照下さい。

来年度もまたご協力をよろしくお願いいたします。

2) 広報活動ワーキング がんサポートブックえひめが永く改訂されていないので、今年度は改訂に取り組んでいる。既に各施設から担当ページの修正案を送って頂き改定案をまとめている。12月17日にオンラインで意見交換をおこない、今年度中に、改訂第4版を完成予定。

3) 災害WG 災害時の受け入れ体制調査の情報提供をする際の院内確認ルートについてアンケート集計結果を報告した。各部署の責任者や災害対策本部に確認する施設がほとんどであった。災害発生時における専門部会活動中止・延期の決定に関わる取り決め判断基準となる原案を作成し検討していく。

4) チェックリストワーキング チェックリストを用いて、相談員のPDCA活動をおこなうということで、相談員の質の向上に努めている。11/30までにチェックリストを回収し、WGで今年度中に結果をまとめ、来年度に報告する予定。

・AYA世代支援活動のアンケート実施について

第3期がん対策推進計画にAYA世代のがん対策が盛り込まれている。各施設での対応の

限界や苦慮している現状が推測されるため、各施設の相談支援や取り組みの情報共有を行い、相談支援の幅を拡充することを目的とする。なかなか取り組みが難しいので、現状を把握するためアンケート調査を実施したいということをお願いした。皆さんに同意を得られたので、12/10に配信をおこない、来年1/16までに回答して頂き、その後集計する予定としている。おれんじの会 松本さんから AYA 世代の支援の困難な状況を実例を挙げて報告して頂き、やはりアンケートが必要ではないかという助言をして頂いた。また、昨年若年がん患者在宅療養支援事業がはじまっており、昨年は1件のみの利用と、今年度は今のところ申請は3件であると愛媛県から報告して頂いている。

・ピアサポーター養成研修が11月23日に開催され、研修修了者は12月12日に継続研修を予定している。

・地域相談支援フォーラム in 四国 2021 令和4年1月22日（土）Web開催

愛媛県からも多数の参加をお願いしたいので、各施設の先生方には相談員の出席についてご協力をお願いします。

・地域相談支援フォーラム in 四国 の愛媛開催について 昨年の3月に開催予定であったが、コロナで中止になった。香川から始まって愛媛、高知、徳島と持ち回りであったが、香川ではなく愛媛ではどうか、と提案をさせて頂いたので、来年度の開催に向けて実務担当者などで検討する。開催が決まったらご協力をお願いします。

・第17回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会情報提供・相談支援部会が11/26にオンラインで開催された。第3期がん対策推進基本計画の中間評価に向けた整備がおこなわれている。厚生労働省からは、あり方委員会で検討会を開いて、今後、指定要件に関することをワーキンググループで検討する予定とのことであった。相談支援部会でも、第4期がん対策推進基本計画および次期整備指針策定のための提案に向けて全国にアンケートをおこない、その結果で、今後の活動について提案するためワーキンググループを設置し、提言書を作成するといった協力依頼があった。また、がんと診断されて間もない方への情報提供資料（冊子）が作成され、ほぼ完成したという報告があった。これは実際に相談支援センターで直ぐに使える資材であり、今後、その資材の周知と配布の協力依頼と、活用効果に関する調査の依頼があった。その他、相談支援フォーラムの報告と研修事業の連絡があった。詳細は後日ホームページに掲載される。

・済生会今治病院 11月15日から緩和ケア病棟の再開について報告があった。

・おれんじの会 松本さんから 来年度拠点病院の指定要件の見直しの提言の会に出られているので、何か意見があれば、伝えて頂けるということで、皆さんに意見を募った。

・愛媛県健康増進課 三宅様

妊孕性温存療法研究推進事業が全国で始まっているが、愛媛県としても、令和4年度から事業開始できるように予算に盛り込まれる予定で議会で検討されているとのこと。

<河村幹事長>

AYA 世代、妊孕性温存など若い世代のがん患者さんへの取り組みをしていく必要がある

と思って聞かせて頂いた。乳がんの患者さんは若い方が多いので、集学的治療専門部会でもそのようなお話が出るかと思います。

<谷水協議会会長>

妊孕性温存療法研究推進事業について、どのようなことが計画されているのか、構わない範囲で教えて頂きたい。

<愛媛県健康増進課 三宅様>

小児・AYA 世代の支援のひとつとして妊孕性温存療法研究推進事業が、今年の4月から国の事業としてはじまっている。概ね都道府県が準備をすすめて制度を開始しているが、愛媛県では昨年度予算確保ができておらずすすめられていなかったが、令和4年から開始するということで、予算準備中である。事業の内容としては、基本的には、精子・卵子の凍結治療を受ける方への治療費の助成事業で、国の補助事業をそのまま準用してすすめている。開始について、特段異論はない状況である。“ネットワーク”が各都道府県で事業をおこなうところに関しては必要であるが、ネットワークの要件というのが厳しくなる見込みというところが若干の課題となっているが、妊孕性温存研究会という会があるので、それと一緒に、セミナーなどを開催しながら、都道府県と医療機関の皆様と連携しながらすすめていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

<谷水協議会会長>

愛媛県は、愛媛大学の杉山先生を中心にAYA世代のネットワークセミナーを継続して開催しており、今回は第5回で来年の3月12日(土曜日)に杉山先生を中心に講演会を企画している。各拠点病院、推進病院に連絡がいくと思います。Webでも参加できますので、是非、参加して下さいをお願いしたいと思います。大変大事な問題で、特に若い方の妊孕性は治療までに時間のない間にいかに早くすすめられるかということが問題で、今は相談支援部会が中心になって連絡網をとっており、実際に何例か自費では稼働しているような状況があるので、いまのお話は大変な朗報だと思います。また愛媛県に頑張ってもらえるようにお願いします。

<河村幹事長>

是非また情報があれば、教えて頂ければと思います。

## 6) がんの集学的治療専門部会 (資料 8)

<がんの集学的治療専門部会 青儀部会長>

11/19 に専門部会を開催した。

1. 薬薬連携
2. ゲノム研究と治験情報提供について
3. CSTD によるコアリングの調査 論文化
4. HD 曝露共同研究の報告
5. 新規検討課題：IT を用いた副作用管理ツールの開発・運用
6. 外来がん化学療法のブラッシュアップセミナー

1. 薬薬連携 松山赤十字病院の村上先生を中心に、連携協議会共催講演会を定期的に開催している。今年度は10/27にWebで開催予定（Oncology Specialist Meeting 2021）。アンケート調査「保険薬局を対象としたがん化学療法に関する現状・意識調査」について 四国がんセンター亀岡が、10年前に実施した内容について、医療状況が変化した現時点で再度調査を実施し、論文化と学会発表をすすめている。

3. CSTDによるコアリングの調査結果については、愛媛大学の済川先生、薬師神先生の御尽力により論文化され、Scientific Reportsにアクセプトされた。研究活動がアウトカムにつながったという大変喜ばしい状況である。

2. ゲノム研究と治験情報提供について 以前より四国がんセンター消化器内科仁科が中心となって連携各施設にご協力頂きすすめていたSCRUM JAPAN研究について、2014年からGI-SCREENがん遺伝子パネル検査（組織）によるスクリーニング研究を開始、その後パネル検査の保険承認。その後、リキッドバイオプシー（血液）によるスクリーニング研究を開始、2021年F1CD×liquidの承認。今後はスクリーニング研究としては終了することとなった。2017年からGI-SCREEN愛媛連携発足後、これまでご協力頂きました沢山の先生方には御礼申し上げます。フォローアップ調査については継続するので、引き続きご協力お願いします。以降12月からは、全ゲノム解析研究に移行する予定。

・四国がんセンターや愛媛大学を中心として1相～3相までがん種別ならびに臓器横断的な治験を多数行っているが、遺伝子パネル検査をおこなったときの出口戦略として情報共有の要望がある。重要だが治験依頼者との契約で、内容に関して守秘義務があり情報をすべて公開することは難しいところである。どのような遺伝子がターゲットになっているか、どういった変異があれば登録できるなどの基準があり、それも含め公開範囲について引き続き検討をおこなっている。

4. HD曝露共同研究の報告 年1～2回、モニタリングも含め定期的に継続調査をおこなっている。グラフ化すると、調整、投与、いずれも愛媛県全体で改善がみられることがよくわかる。労働環境整備の一環として、医療スタッフの尿中CPA、粉塵に混じった薬剤があるので来週から四国がんセンターでパイロットスタディをおこなう予定である。結果については皆様方と共有させて頂きたい。

・コロナ禍で2年間開催が出来ていなかった曝露体験型セミナーを、コロナ禍の条件にもよるが2022/2/25（金）18時から予定している。国がん名誉総長、抗がん剤曝露対策協議会理事長の垣添忠生先生からのご講演も頂けます。各施設のスタッフの皆様を中心として是非ご出席を賜りたいと思っております。よろしく申し上げます。

・愛媛大学薬師神先生よりirAEについてのパイロット試験を展開されていた「在宅がん患者の副作用管理ツール」（スマホやタブレットを使って患者さんと病院が常に有害事象に関するデータを共有できるシステム）について、利用が出来そうであるので、愛媛大学の中央IRBで承認が得られれば連携協議会参加各施設の研究参加が出来る見込み。2022年春頃から部会で研究内容やアクセス方法等の詳細をご提示頂ける予定。患者さんの有害事象管理は非常に問題で特に免疫チェックポイント阻害剤の管理には気を遣うべきところである。

当部会としても非常に興味深いモダリティで、各施設での導入検討を依頼した。

・都道府県におけるがん化学療法の現状と課題 10/16に国立がん研究センターでがん診療をおこなっている施設を中心とした通院治療室の現状と課題をテーマにしたセミナーが開催された。ワークショップがあり、四国がんセンターから参加させて頂いた。現状の問題点として、運用の方法や情報共有について問題があるのではないか、患者さんと化学療法室の繋がりが不十分などの反省点もあった。これは全国的にも同様の傾向で、例えばMSWにも化学療法室の運用に参加して頂きたいということもあり、県でセミナー開催が行えないかという打診があった。外来化学療法の運用については、統一した運用法はなく各施設の判断に任されている。県で統一した運用法を作成することを目標とした。企画としては、研修の実施「実践から学ぶ がん薬物療法多職種チーム研修」として、医師・看護師・薬剤師・MSW等の相談員4人1チームをつくり、治療の流れ、有害事象の出現形を研究し、対応方法を考えるセミナーを計画している。5大がんの治療のながれについてはe-learningを受講した後に、グループワークを含む1日の実地研修をおこなう。MSWも含めた化学療法の支援の在り方を模索するセミナーである。完成したら、皆様に案内します。愛媛県全体の通院治療室のブラッシュアップのためにご参加頂けたらと思います。

<河村幹事長>

AYA世代について、乳がん学会ではどうでしょうか。そういった話は大きくクローズアップされているのでしょうか。

<青儀部会長>

乳がんの罹患は40代と60代と2ピークあって患者さんに妊孕性温存に関わる方が多くいるため、学会でも非常に興味深いところである。班研究等もすすめています。愛媛県では、杉山先生、石田先生のお2人を中心に診療体制作りをすすめていくのが一番良いかと考えます。今後連携協議会と一緒にやって頂ければ、愛媛県の患者さんにとっては大変心強いと期待しております。

## 7) がん看護専門部会（資料9）

<がん看護専門部会 多田部会長>

今年度の活動について

定例の専門部会を2回開催する。第1回は9/28にWebで部会を開催した。次回はR4 1/25に予定している。

がん看護専門部会はがん看護実践能力向上研修、トピックス研修、スポット研修の大きな3本柱の研修計画を立てて活動している。

・がん看護実践能力向上研修

以前は40日間であったが、コロナ禍のためWeb研修に移行し、5日間＋フォローアップ2日間の計7日間の研修を実施した。参加者は9名であった。Web研修ではあるが、自施設実習の展開を充実したものにといいところで、ご協力を頂きながらすすめている。

2021/8/26 開講式

2021/8/28～29 講義・演習 (ELNEC-J)

2021/9/17 講義・演習 (・がん治療の概要と生活を支えるケア・世代別のサポートの  
特徴・意思決定を支えるケア・事例展開、実習の進め方)

9/18～11/25 自施設演習 (自施設の専門部署と病棟)

12/7 事例発表会

1/14 自施設活動報告

3/3 事例発表会 閉講式・修了式

各施設の企画委員、看護管理者、実習の環境を整備して下さった皆様方にここで改めて  
御礼申し上げます。

・トピックス研修

他部門との共催で、「ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム」が44名の参加。  
「ACPのエビデンスと実践」参加者集計中であるが、100名を超える参加を頂いた。

・スポット研修 今年度は開催なし。

今年度大きく変わった点について

研修会の目的について、昨年度までは6項目の目的としていたが、研修方法等の変更にと  
もない、4項目に絞っている。1つめはがん対策推進基本法 分野別施策のがん医療の充  
実を目指すという視点、2～4 はがんとの共生、これらに重点を充てて、その理解と実践  
への応用を目指し、研修目的を改訂した。

・1/25の第2回専門部会は、研修実施の状況について、頂いているご意見を踏まえて次  
年度の計画についての話し合いをもつ予定である。

<河村幹事長>

がん看護専門部会もこれからの活動もよろしくお願い致します。

全体を通して

<谷水協議会会長>

連携部会で話題提供を頂いたが、電子カルテの公開が進んでいる。しかし共通基盤が構  
築がない点が愛媛県の難点であると認識している。もうひとつ、SNSの活用が、集学的治  
療専門部会で愛媛大学の抗がん剤連携、患者さんとの連携が話題になったが、このよう  
な活動は大切に、ネットワークをもう少し広げ、今後の方向性や問題点を議論する場をもち  
広く取り上げていく必要があると思います。今後、検討して頂ければと思います。

<河村幹事長>

情報の共有には電子的なネットワークが必要となってきます。SNSの利用についても今  
後発展させていけたら良いと思います。

<愛媛県健康増進課 三宅様>

平成30年度に立ち上げた愛媛県第3期がん対策推進計画（令和5年までの計画）の中間評価を令和2年度までにおこなうこととなっていた。国の計画も令和2年度に中間評価をおこなうこととなっていたが、遅らせて今年度中間評価となっている。愛媛県もそれに合わせて中間評価をおこないます。先日、羽藤先生、灘野先生等に出席頂き説明をさせて頂いた。来週は、県の緩和ケア協議会の開催があり、谷水院長先生とベテル病院の中橋先生、おれんじの会の松本さんに出席頂き協議をすすめさせて頂く。12月1日に意見をまとめて、年度内には中間評価をとりまとめて公表するという形ですすめたい。内容に関して、令和5年度には第4期の計画を策定する必要があるので、それにつながるように、本日の多くの課題を盛り込んだ形にしたいと考えているところです。

<河村幹事長>

協議会としても中間報告を含めて次の課題を検討していければと思います。

閉会の挨拶<谷水協議会会長>

今日も専門部会の皆様から沢山の活動についてご報告を頂きましてありがとうございます。全国の会議にも参加しておりますが、愛媛県の活動というのは非常に熱心に活動がおこなわれて成果も大きく、全て公表する形で活動が進んでおります。この勢いを停滞させることなく、これからも、愛媛県がん診療連携協議会として活動をしっかりやっていきたいと思っております。本日も沢山の報告と皆様のご参加ありがとうございました。

私が会長でこの会議でご挨拶するのはこれが最後となります。来年からはまた一個人として参加したいと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。ありがとうございました。

<河村幹事長>

皆様、土曜日の午後という大切な時間に多数ご参加頂きありがとうございます。今後とも協議会としての活動にご協力をよろしくお願ひします。私も今回をもって幹事長としていろんな会議の進行役はこれで最後になります。来年度から岡山に帰ります。皆様本当にありがとうございました。

閉会

2022年度 年間スケジュール

日時	開催会	内容	場所
4月21日(木) 18:00~19:30 (※原則Webで、コロナ の状況により検討)	幹事会	(協議事項) ・令和4年度幹事会会員の紹介 ・今年度役員会、専門部会の会員について ・年間スケジュールについて ・各専門部会より連絡事項について ・その他	四国がんセンター
調整中	がん看護専門部会 PDCA部会 がん登録専門部会 がん地域連携専門部会 がんの集学的治療専門部会 がん相談支援専門部会 緩和ケア専門部会	(連絡・協議事項) ・各専門部会の年次活動方針及び企画について周知および活動に関する審議 ・その他	四国がんセンター
8月6日(土) 13:00~14:30 (※原則Webで、コロナ の状況により検討)	役員会 報告会 (専門部会報告) 幹事会	(決議事項) ・今年度役員、幹事及び専門部会員について ・年間スケジュールについて ・その他幹事会で協議された事項 ・役員会および各専門部会決定事項、活動に関する事項の報告 ・その他連絡事項	四国がんセンター
調整中	がん看護専門部会 PDCA部会 がん登録専門部会 がん地域連携専門部会 がんの集学的治療専門部会 がん相談支援専門部会 緩和ケア専門部会 報告会 (専門部会報告)	(協議事項) ・各専門部会の活動について ・次年度計画案(各会開催日の決定) ・その他 (連絡・協議事項) ・各専門部会の活動に関する審議 ・次年度計画案について ・その他	四国がんセンター
		・各専門部会活動に関する事項の報告 ・その他連絡事項	四国がんセンター

2022年度 がん診療連携協議会年間スケジュール

項 目	日 程
第19回 日本臨床腫瘍学会学術集会	2022 年 2 月 17 日 (木) - 19 日 (土)
幹事会	2022 年 4 月 21 日 (木)
第27回 日本緩和医療学会学術大会	2022 年 7 月 1 日 (金) - 3 日 (日)
役員会、専門部会、報告会候補日	○ 2022 年 7 月 30 日 (土)
	◎ 2022 年 8 月 6 日 (土)
	（いずれか。年度初めに決定する）
第81回 日本癌学会学術総会	2022 年 9 月 29 日 (木) - 10 月 1 日 (土)
幹事会	2022 年 10 月 13 日 (木)
専門部会、報告会候補日	2022 年 11 月 26 日 (土)
	◎ 2022 年 12 月 3 日 (土)

(資料6)

2023年度 がん診療連携協議会年間スケジュール (案)

項目	日程
第20回 日本臨床腫瘍学会学術集会	2023年3月16日(木) - 18日(土)
幹事会候補日	◎ 2023年4月20日(木)
	2023年4月27日(木)
第28回 日本緩和医療学会学術大会	2023年6月30日(金) - 7月1日(土)
役員会、専門部会報告会候補日	2023年7月29日(土)
	◎ 2023年8月5日(土)
第82回 日本癌学会学術総会	2023年9月21日(木) - 23日(土)
幹事会候補日	2023年10月5日(木)
	2023年10月12日(木)
(専門部会、報告会候補日)	2023年11月25日(土)
	2023年12月2日(土)

(資料7)

## 第3期愛媛県がん対策推進計画中間評価の概要

### ○全体目標

- I 科学的根拠に基づくがんの予防・がん検診の充実
- II 患者本位の安全・安心で質の高いがん医療の提供
- III がんになってもお互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会の実現

### ○数値目標

75歳未満年齢調整死亡率 基準値 79.9 (H28) →73.6 (R元) 目標値 67.9 (R4)

## I 科学的根拠に基づくがんの予防・がん検診の充実

### 【指標の状況から判明した顕著な課題】

- ・全国と比較して肝がんや乳がん、子宮がんなどの死亡率が顕著に高い
- ・がん検診の受診率は全国平均を下回っている状況
- ・新型コロナウイルス感染拡大による検診控え、受診控えの影響が出ている

### 【今後の取組みに対する委員からの意見】

- ・がん登録情報をはじめとする実態データを活用して県民への注意喚起や本県独自の課題の抽出に取り組むことを検討されたい。
- ・検診受診の啓発に「がん対策推進員」を有効活用するなど、検診受診率の向上や死亡率の低減を図るための取組みの強化が必要

## II 患者本位の安全・安心で質の高いがん医療の提供

### 【指標の状況から判明した顕著な課題】

- ・セカンドオピニオンに関する話しを受けた患者が少なく、医療者間での情報共有や患者が相談しやすい体制作りに大きな課題がある
- ・患者の2割が専門的な医療を受けられたと感じていない（希少がんについては4割がそう感じていない）

### 【今後の取組みに対する委員からの意見】

- ・患者やその家族が納得して治療を受けられたと感じられるよう、医療機関や医療スタッフ間での更なる連携強化、情報共有が必要
- ・専門的な人材の確保・育成・配置に更に注力されたい

## III がんになってもお互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会の実現

### 【指標の状況から判明した顕著な課題】

- ・依然として、患者やその家族に対して十分に情報が届いているとは言えない
- ・がん患者の就労や小児・AYA世代など特有の課題を抱えている世代への支援やサポート体制が不十分である

### 【今後の取組みに対する委員からの意見】

- ・がん相談支援センターを核に、医療関係機関や行政、患者団体等がそれぞれの立場で情報の共有や周知の強化を図ることが必要
- ・相談支援や啓発に携わる人材育成にも取り組んでいくことが必要

## 複数の分野に係る意見

### 【今後の取組みに対する委員からの意見】

- ・次期計画の目標や指標の設定にあたって、各分野の主要な取組みの内容や成果を検証、評価するためのエビデンスについて改めて関係者間で御議論いただきたい。

令和4年度 愛媛県がん対策推進計画への予算対応状況一覧

I.分野別目標

分野	令和3年度当初予算の項目(○:事項名 ◆:細事項名)		
	県単独事業・国庫補助事業	金額(千円)	地域医療介護総合確保基金 金額(千円)
<b>I 科学的根拠に基づくがんの予防・がん検診の充実</b>			
1. がんの予防			
がん予防に関する正しい知識の普及や喫煙率の低減、栄養・食生活や運動等の生活習慣の改善を図るなど健康づくりに関する支援を行う。	○生活習慣病予防総合支援事業費 ◆健康増進事業費補助金(市町で実施する健康診査等への補助) ○生活習慣病予防推進指導事業(生活習慣病予防協議会の運営等) ○県民健康づくり運動推進事業費	(56,686) 1,443 (3,546)	
2. がんの早期発見			
がん検診及び精密検査の受診率の向上に向けて、効果的な普及啓発や事後指導の徹底、検診の実施方法の工夫など、受診促進策を講じる。	○がん対策強化推進費 ◆科学的根拠に基づくがん情報普及啓発事業 ○生活習慣病予防総合支援事業費 ◆生活習慣病予防推進指導事業(がん検診の精度管理等:再掲)	1,382 (1,443)	
<b>II 患者本位の安全・安心で質の高いがん医療の提供</b>			
1. 医療機関の機能強化			
地域にかかわらず等しく質の高いがん医療を受けられるよう、がん診療連携拠点病院等の機能を更に充実させるとともに、放射線療法、化学療法、手術療法の変化する充実とチーム医療の推進を図る。	○がん対策強化推進費 ◆がん医療体制整備事業(拠点病院への補助金:再掲) ・がん診療連携拠点病院ネットワーク事業	60,000	
2. 医療連携体制の整備			
切れ目のないがん医療を提供するため、地域連携クリティカルパスの普及や、がん診療連携拠点病院の機能強化等を通じて、医療連携体制の整備を推進する。	○がん対策強化推進費 ◆がん医療体制整備事業(拠点病院への補助金:再掲) ・がん診療連携拠点病院ネットワーク事業	(60,000)	
3. 医療従事者の育成			
がん医療の向上を図るため、がん医療に携わる専門的な医療従事者の育成を推進する。	○がん対策強化推進費 ◆がん医療体制整備事業(拠点病院への補助金:再掲) ・がん医療従事者研修事業	(60,000)	
4. 希少がん・難治性がん対策			
希少がん・難治性がんの患者を適切な医療機関へ繋げるための環境整備や情報提供を行う。	○がん対策強化推進費 ◆がん医療体制整備事業(拠点病院への補助金:再掲) ・がん診療連携拠点病院ネットワーク事業	(60,000)	
5. がん登録の精度向上			
科学的根拠のあるがん対策を推進するため、基礎データとなるがん登録の精度向上を図る。	○がん対策強化推進費 ◆がん登録推進事業(がん情報収集等)	12,859	
<b>III がんになってもお互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会の実現</b>			
1. がんに関する相談支援及び情報提供			
がん患者とその家族の悩みや不安を汲み上げ、患者とその家族にとってより活用しやすい情報提供及び相談支援体制を実現する。	○がん対策強化推進費 ◆がん相談・情報提供支援事業(院内がん患者サロンへの支援等) ◆がん医療体制整備事業(拠点病院への補助金) ・がん相談支援、情報提供事業	2,052 (60,000)	○在宅がん医療推進事業費 ◆患者サロン事業 ・町なかサロン運営補助 4,885
2. 緩和ケア			
がん診断された時から身体的・精神的・社会的苦痛などに対して適切に緩和ケアを受け、苦痛が緩和されるよう、がん診療に携わる医療従事者の知識と技術の修得や、専門的な緩和ケアの提供体制の整備などを図る。	○がん対策強化推進費 ◆緩和ケア普及推進事業(緩和ケアセンターの設置等) ◆がん医療体制整備事業(拠点病院への補助金:再掲) ・がん医療従事者研修事業	3,505 (60,000)	○在宅がん医療推進事業費 ◆在宅緩和ケア体制構築事業 ・在宅緩和ケアコーディネータ養成事業等 12,039
3. 在宅医療の推進			
がん患者が住み慣れた家庭や地域での療養や生活を選択できるよう、在宅医療関係機関の拡充と、在宅療養に必要な関係機関の連携体制の整備を図る。	○がん対策強化推進費 ◆がん医療の地域連携強化事業(コーディネーターの配置等)	14,192	○在宅がん医療推進事業費 ◆在宅緩和ケア体制構築事業 10,046
4. がん患者等の就労を含めた社会的な問題(サブバイバーシップ支援)			
職場における理解の促進、相談支援体制の充実を通じて、がんになっても安心して働き暮らせる社会を構築する。	○がん対策強化推進費 ◆がん相談・情報提供支援事業(就労支援に関する委託事業:再掲) ◆がん医療体制整備事業(拠点病院への補助金:再掲) ・がん患者の就労に関する総合支援事業	(2,052) (60,000)	
5. ライフステージに応じたがん対策(小児・AYA世代、高齢者)			
小児がん患者とその家族が安心して適切な医療や支援を受けられるような環境の整備を図る。	○がん対策強化推進費 ◆若年がん患者在宅療養支援事業 ◆小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業 ○小児慢性特定疾病対策費 ○小児慢性特定疾病児童等自立支援事業	627 1,405 (332,230) (7,993)	
6. がんの教育・普及啓発			
健康教育の中でがん教育を推進するとともに、県民が正しい知識、いのちの大切さについて学び、病気と向き合ううえで必要な情報を得られる機会を提供する。	○がん教育推進事業費【教育委員会保健体育課】 ◆がんに関する教育総合支援事業費(がん教育研修会の開催等)	993	

※がん医療体制整備事業:補助金総額 60,000千円

II.計画を推進するために必要な事項

事項	金額	備考	金額
県は、がん対策推進計画を実効あるものとして総合的に推進するため、がん患者及びその家族、がん医療従事者、学識経験者等で構成する協議の場を設け、毎年、計画の進捗状況の把握に努めるとともに、計画の具体的な推進方法等の協議を行う。(がん対策推進委員会等の設置及び運営)	1,057		
合計	( )は除く ① 99,515	基金事業計 ( )は除く ②	26,970

令和4年度当初予算合計(①+②) 126,485

## 小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業について

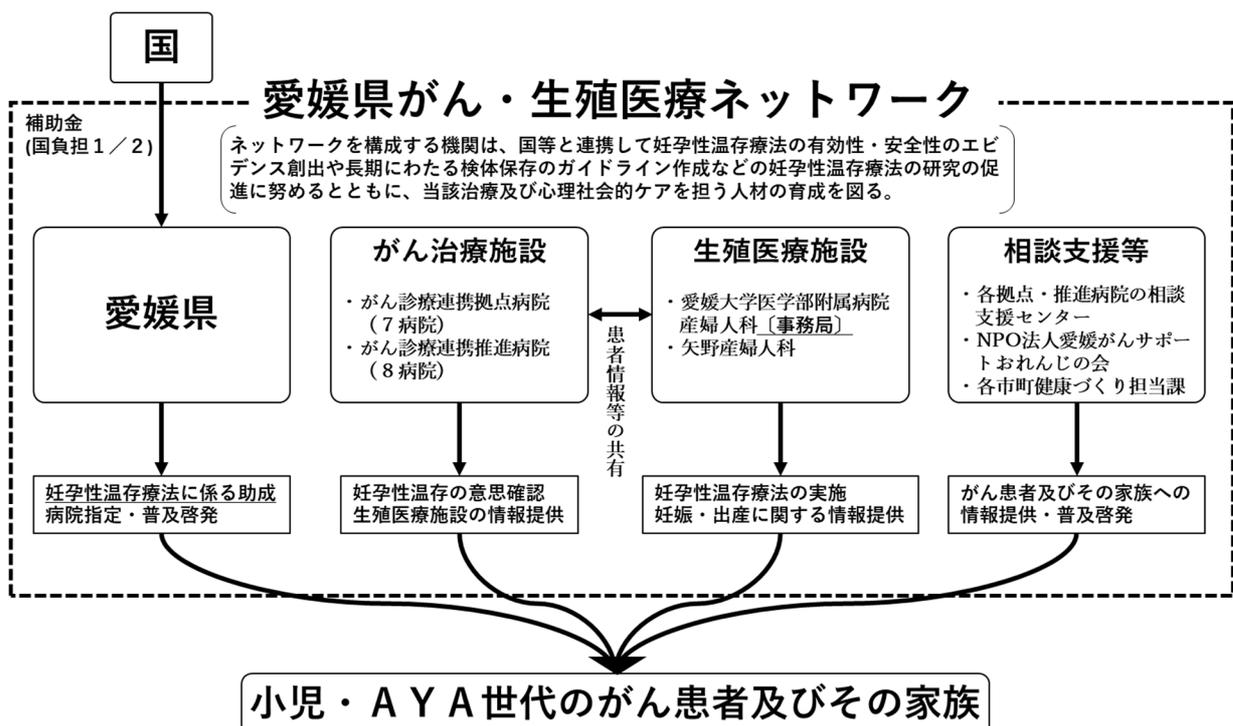
### 1 目的

この事業は、将来子どもを産み育てることを望む小児・AYA世代のがん患者等が希望をもってがん治療等に取り組めるように、将来子どもを出産することができる可能性を温存するための妊孕性温存療法に要する費用の一部を助成し、その経済的負担の軽減を図るとともに、医療機関等において患者からの臨床データ等を収集し、妊孕性温存療法の有効性・安全性のエビデンス創出や長期にわたる検体保存のガイドライン作成などの妊孕性温存療法の研究を促進することを目的とする。

### 2 事業内容

- |                   |                              |                             |
|-------------------|------------------------------|-----------------------------|
| (1)補助対象者          | がん患者で、助成対象となる治療の実施時に43歳未満の者  |                             |
| (2)補助率            | 定額（一般的な治療費の概ね1/2程度）          | 温存後生殖補助医療にはさらに詳細な条件があることに留意 |
| (3)対象となる治療及び助成上限額 | ① 妊孕性温存療法                    |                             |
|                   | ・胚（受精卵）凍結に係る治療               | 35万円                        |
|                   | ・未受精卵凍結に係る治療                 | 20万円                        |
|                   | ・卵巣組織凍結に係る治療                 | 40万円                        |
|                   | ・精子凍結に係る治療                   | 2万5千円                       |
|                   | ・精巣内精子採取術による精子凍結に係る治療        | 35万円                        |
|                   | ② 温存後生殖補助医療                  |                             |
|                   | ・凍結した胚（受精卵）を用いた生殖補助医療        | 10万円                        |
|                   | ・凍結した未受精卵を用いた生殖補助医療          | 25万円                        |
|                   | ・凍結した卵巣組織再移植後の生殖補助医療         | 30万円                        |
|                   | ・凍結した精子を用いた生殖補助医療            | 30万円                        |
| (4)助成回数           | ・妊孕性温存療法は通算2回、温存後生殖補助医療は通算6回 |                             |
| (5)備考             | 県が指定する指定医療機関での治療を対象とする       |                             |

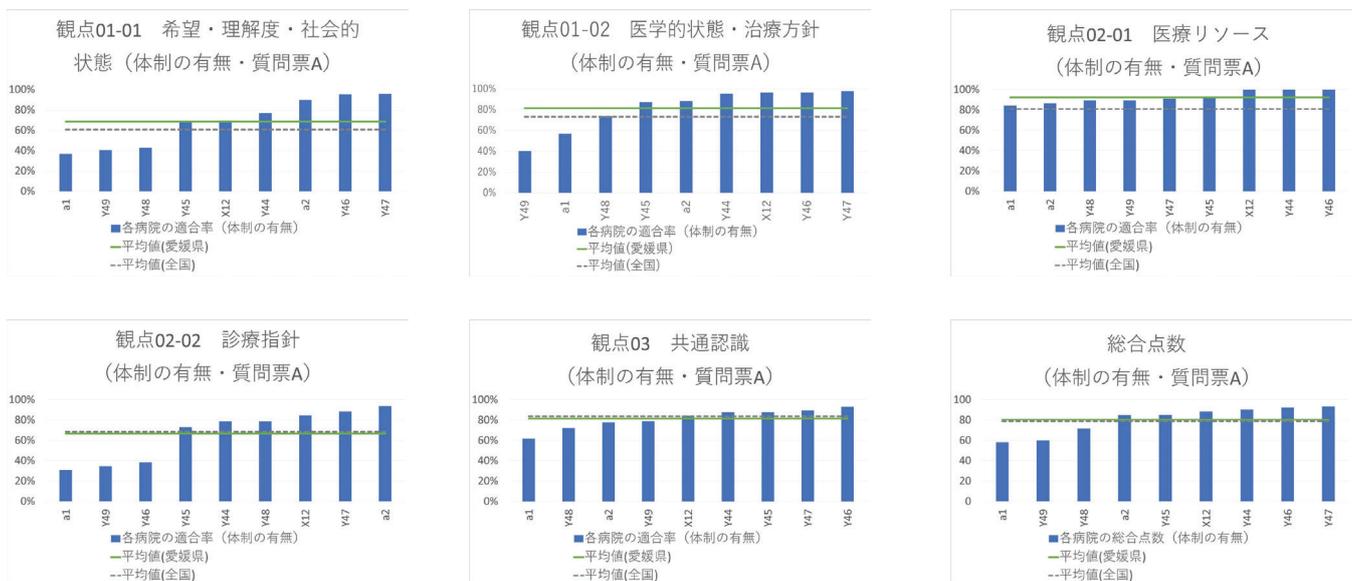
### 3 事業イメージ



令和4年度愛媛県がん診療連携協議会  
第1回幹事会  
「PDCA部会」  
2022/04/21 on WEB

1. PDCA活動：質評価指標調査、QI研究、患者体験調査
2. 相互訪問監査をWEB監査に
3. 連携協議会部会活動周知のためのアンケート調査
4. 通院治療室の運用セミナーのご案内

2020年(R2年)11月愛媛県調査結果  
(大腸がん)



# 協議会共通Quality Indicatorの設定

- 東班QI（院内がん登録 + DPC）
  - 担当者確認・参加確認の時期 対象項目等を設定済み
- 国立病院機構臨床評価指標
  - 共通で利用できる妥当な項目の選定

候補

1. 感染対策  
肺、胃、大腸、乳  
腺などについて

**79** 抗菌薬（消化器系）  
**80** 胃の悪性腫瘍手術施行患者における抗菌薬4日以内中止率・  
手術部位感染予防のための抗菌薬遷延率  
プロセス  
アウトカム  
対象データ 様式1 EFファイル 対象病院 >>> DPC病院

計測対象

**分子** ①分母のうち、手術当日から数えて5日目に、抗菌薬を投与されていない患者数  
②分母のうち、手術当日から数えて5日後以降も7日以上連続して抗菌薬が投与された患者数

**分母** 【①、②共通】  
胃の悪性腫瘍手術を施行された患者数

解説 周術期の予防的抗菌薬投与は、術後感染症を予防するための有効な手段です。しかし、長期にわたる投与は多剤耐性菌の出現を引き起こします。清潔手術においては少なくとも3日以内、準清潔手術においては4日以内に投与を中止していくことが求められます。

# 協議会共通Quality Indicatorの設定2

候補

2.  
リスク管理  
血栓症予防対策実施率

**103** 全体領域  
胃がん、大腸がん、膵臓がんの手術患者に対する静脈血栓塞栓症の予防対策の実施率  
プロセス  
アウトカム  
対象データ 様式1 EFファイル 対象病院 >>> DPC病院

計測対象

**分子** 分母のうち、当該入院中に「B001-6 肺血栓塞栓症予防管理料」が算定された、あるいは抗凝固療法が行われた患者数

**分母** 胃がん、大腸がん、膵臓がん、静脈血栓塞栓症発症のリスクレベルが「中」以上の手術を施行した退院患者数

解説 一般外科手術において、悪性腫瘍等の危険因子を持つ大手術（全ての腹部手術あるいはその他の45分以上要する手術）、40歳以上のがんの大手術は、静脈血栓塞栓症の発生リスクにおいて、それぞれ中リスク、高リスクに該当します。我が国のガイドラインでは、中リスクでは「弾性ストッキングあるいは間歇的空気圧迫法」、高リスクでは「間歇的空気圧迫法あるいは低用量未分画ヘパリン」を行うことが予防としてあげられています<sup>3)</sup>。

**107** チーム医療  
安全管理が必要な医薬品に対する服薬指導の実施率  
プロセス  
アウトカム  
対象データ 様式1 EFファイル 対象病院 >>> 全病院

計測対象

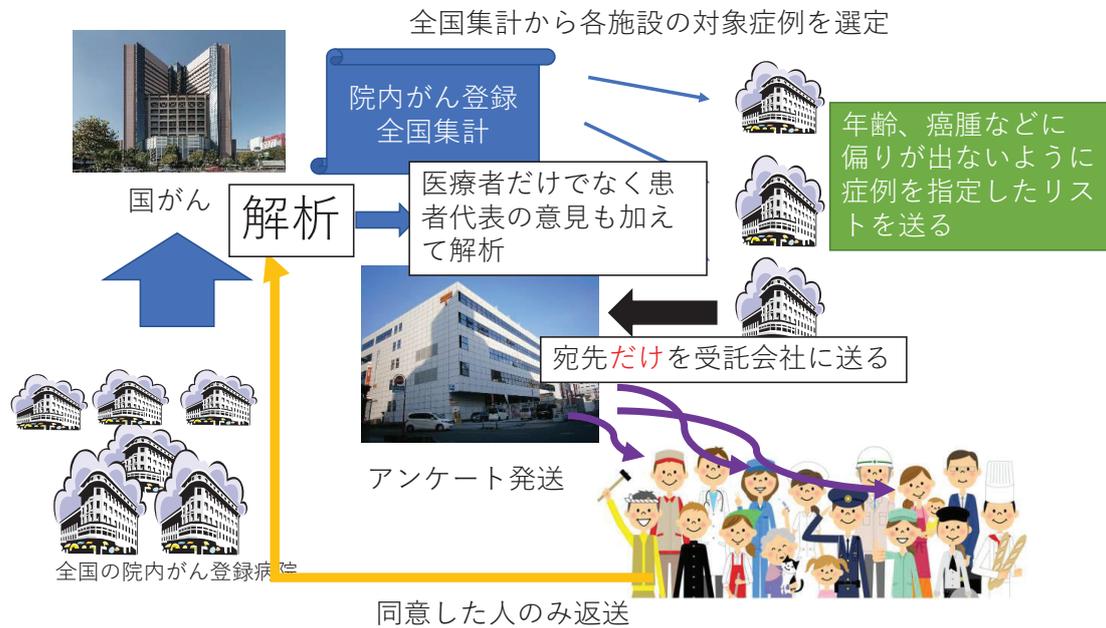
**分子** 分母のうち、「B0081 薬剤管理指導料 特に安全管理が必要な医薬品が投薬又は注射されている患者に対して行う場合」が算定された患者数

**分母** 特に安全管理が必要な医薬品として定められている医薬品のいずれかが投薬又は注射されている患者数

解説 服薬指導により薬物療法に対する安全性や有用性を患者が認識すれば、アドヒアランスの向上（患者が積極的に治療方針の決定に参加し、その決定によって治療を受けること）に繋がると期待されます。診療報酬上の「薬剤管理指導料」の中でも、特に安全管理が必要な医薬品の投与患者に対する指導については別途点数が設定されています。

# 患者体験調査の仕組み

各県毎・施設毎・癌腫毎の偏りが無いよう指定



## 『患者体験調査』を協議会PDCAとする意義

- 症例抽出・集計・考察を厚生労働省・国がんが中心になって行うので、妥当性・公正性・高い精度が期待できる
  - 企画・データ収集・集計を国がんが大部分やってくれる
- 3-4年おきに行われることが期待できる
- がん患者団体が参加した『提言』を参考に重点を把握しやすい
- 住民・患者が関心がある項目について直接愛媛県のがん拠点病院の取り組みを説明できる

問15-1. 「がん治療」を決めるまでの間に、医療スタッフから治療に関する十分な情報を得ることができた。

	粗解析値		補正值		全国値 (補正值)	
	回答数	%	代表数	%	代表数	%
1 そう思わない	11	4.3%	208	3.8%	19340	4.1%
2 どちらともいえない	18	7.1%	359	6.5%	30428	6.5%
3 ややそう思う	34	13.3%	674	12.2%	59891	12.8%
4 ある程度そう思う	108	42.4%	2371	43.0%	202235	43.4%
5 とてもそう思う	64	25.1%	1444	26.2%	126505	27.1%
無回答	20	7.8%	458	8.3%	27929	6.0%
合計	255	100%	5515	100.0%	466327	100.0%

ほぼ全国と同じだが、四がんが7%高いので改善の余地がある

問13 がんの治療が始まる前に、担当医からセカンドオピニオンについて話がありましたか

	粗解析値		補正值		全国値 (補正值)	
	回答数	%	代表数	%	代表数	%
1 話があった	95	37.3%	2132	38.7%	155675	33.4%
2 話はなかった	146	57.3%	3041	55.1%	289885	62.2%
無回答	14	5.5%	342	6.2%	20767	4.5%
合計	255	100%	5515	100.0%	466327	100.0%

全国値より5%も高いが、四がんは全国値以下。  
いずれにしても改善の余地がある

## 病院のがん診療の質を改善していく取り組み

### 1 がん診療評価指標 (Quality Indicator)

国立がん研究センターがん対策情報センターがん臨床情報部

### 2 がん診療体制の質に関する調査

東京大学大学院 PCAPSがん質評価班

### 3 がん相談支援のPDCAサイクル確保の取り組み

国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報提供部

### 4 緩和ケアチームセルフチェックプログラム

日本緩和医療学会

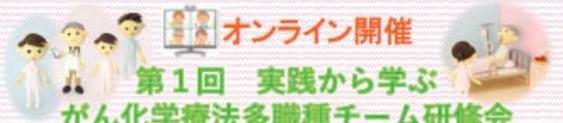
### 5 相互評価 (ピアレビュー)

など

#平成30年度 都道府県がん診療連携拠点病院 PDCAサイクルフォーラム 加藤雅志先生

# 協議会専門部会活動のアンケート調査

- 専門部会活動の外部評価をアンケート調査で行う
  - 目的：各専門部会の活動の認知度や評価を調べ、PDCAにつなげる
  - 対象：各施設幹部（PDCA委員など）と一般職員（非専門部会員）
  - 項目：活動の認知度、期待、活動の効果など
- とりあえず、まず『がん登録専門部会』について、
  - 会の名前の認知度
  - 活動の認知度
    - 『がん登録でみる愛媛県のがん診療』・全国がん登録データ・がんサポートサイトえひめ・研修会など
  - 活動の評価
    - 実際に役に立ったことがあるかないか・利用したことがあるかないか
  - 期待 など



**オンライン開催**  
**第1回 実践から学ぶ**  
**がん化学療法多職種チーム研修会**

**日程** 令和4年7月30日(土) 9:30~17:15

**内容** 「がん化学療法多職種チームの構築方法やチーム医療の取り組みモデルの講義、職種毎や施設毎のグループワークを通して各施設でがん化学療法多職種チームの課題・活動について考える

**目的** がん薬物療法を受ける患者を多職種で支援するためのチーム作りについて学び、多職種で協働した副作用マネジメントを実現できる

**対象** 愛媛県がん診療連携拠点病院の医師・看護師・薬剤師・MSWの相談員  
1施設 4人1チームでの参加が条件となります

**参加条件** Zoomを用いたオンライン研修に参加でき、1人1台のデバイス機器(PC、ヘッドセット等の安定したマイク・スピーカー)と、1人で参加できる個室、安定したネットワーク接続環境(有線LAN接続推奨)が準備できる方

**定員** 6施設 6チーム 24名程度  
締め切り後令和4年6月10日(金)までに受講者決定の通知をいたします

**申込方法** 申込期限：令和4年5月27日(金)12:00  
各施設毎の申込です。代表者(1名)の方は、参加者会員分(参加者会員の氏名・職種・メールアドレス)をまとめて申し込みフォーム(下記URL及びQRコード)よりお申込みください  
<https://forms.gle/XBWp87v9ujiiP4xd6>

**事前アンケート・事前課題及びラーニング**  
受講者決定後にご案内いたします。研修前日までに各自で事前アンケートの回答と各施設で事前課題の作成をお願いします。また、MSWの方はラーニングの受講をお願いします。

**研修終了後の予定**  
(令和5年1月予定) 受講者会員に研修内容の活用度と成果度をアンケート  
(令和5年2月予定) アンケート結果の共有とその後の活動について意見交換会

**受講費 無料**

**お問い合わせ**：四国がんセンター (濱田)  
TEL (098) 999-1111 松山市南梅本町甲160番

主催：四国がんセンター  
共催：愛媛県がん診療連携協議会 集学的治療専門部会

(予定)  
プログラム(タイムスケジュール)

時間	内容
9:30~9:40	1. オリエンテーション
9:40~10:15	2. 参加施設紹介[発表(1グループ5分程度)・質疑応答] ×6チーム
10:15~11:05	3. 講義：「チームの構築方法(仮)」 講師：鳥取大学医学部付属病院 腫瘍内科 診療科長 陶山 久司先生
11:05~11:15	休憩
11:15~12:00	4. 講義：「チーム医療の取り組みについて(仮)」 講師：奈良県立医科大学付属病院 がんゲノム・腫瘍内科学講座 助教 吉井 由美先生
12:00~13:00	昼休憩
13:00~13:45	5. グループワーク[職種別]：チーム内の役割・できることなど
13:45~13:50	休憩
13:50~15:20	6. グループワーク[施設別]：チームの課題明確化・活動計画
15:20~15:30	休憩
15:30~17:00	7. 発表：より良いチーム医療を行うために [発表(1グループ10分程度)・質疑応答(1グループ5分程度)] ×6チーム
17:00~17:15	8. まとめ

## 診療のためのガイドライン一覧

2022年4月19日更新

診療科	ガイドライン
整形外科	軟部腫瘍診療ガイドライン(日本整形外科学会) (Web公開なし)
	骨腫瘍診療ガイドライン(日本整形外科学会) (Web公開なし)
	骨軟部腫瘍診療ガイドライン (日本癌治療学会) <a href="http://www.jsco-cpg.jp/guideline/05.html">http://www.jsco-cpg.jp/guideline/05.html</a>
	がんのリハビリテーション診療ガイドライン (日本リハビリテーション医学会) <a href="https://www.jarm.or.jp/document/cancer_guideline.pdf">https://www.jarm.or.jp/document/cancer_guideline.pdf</a>
	骨転移診療ガイドライン (編集:日本臨床腫瘍学会) <a href="https://minds.jcqh.or.jp/docs/minds/bone_metastasis/bone_metastasis.pdf">https://minds.jcqh.or.jp/docs/minds/bone_metastasis/bone_metastasis.pdf</a>
血液腫瘍内科	日本血液学会 造血器腫瘍診療ガイドライン2018年版補訂版 <a href="http://www.jshem.or.jp/modules/medical/index.php?content_id=2">http://www.jshem.or.jp/modules/medical/index.php?content_id=2</a>
	日本造血細胞移植学会 <a href="https://www.jshct.com/modules/guideline/index.php?content_id=1">https://www.jshct.com/modules/guideline/index.php?content_id=1</a>
	日本臨床腫瘍学会 発熱性好中球減少症(FN)診療ガイドライン(改訂第2版) (会員のみWebで参照可) <a href="https://www.jsmo.or.jp/about/kanko.html">https://www.jsmo.or.jp/about/kanko.html</a>
婦人科	子宮頸がん治療ガイドライン 子宮体がん治療ガイドライン 卵巣がん・卵管癌・腹膜癌治療ガイドライン 外陰がん・膣がん治療ガイドライン ※日本癌治療学会 がん診療ガイドラインの臓器別ガイドラインから閲覧可能 <a href="http://www.jsco-cpg.jp/">http://www.jsco-cpg.jp/</a>
放射線診断科	画像診断ガイドライン2016年版 (公益社団法人日本医学放射線学会) <a href="http://www.jrpa.or.jp/medical_guidelines_2016.pdf">diagnostic_imaging_guidelines_2016.pdf</a> (radiology.jp)
	画像診断ガイドライン2021年版 (公益社団法人日本医学放射線学会) (Web公開なし)
	FDG PET、PET/CT診療ガイドライン2020 (一般社団法人 日本核医学会) <a href="http://jsnm.org/archives/4372/">http://jsnm.org/archives/4372/</a>
放射線治療科	放射線治療計画ガイドライン 2020年版 第5版(Web版なし)
呼吸器科	肺癌診療ガイドライン—悪性胸膜中皮腫・胸腺腫瘍含む 2021年版 (日本肺癌学会) <a href="https://www.haigan.gr.jp/modules/guideline/index.php?content_id=3">https://www.haigan.gr.jp/modules/guideline/index.php?content_id=3</a> ※同ページに各種の診断の手引きも掲載あり
	患者さんのための肺がんガイドブック 2021年版 第2版 悪性胸膜中皮腫・胸腺腫瘍含む (日本肺癌学会) (Web版なし)
	患者さんとご家族のための胸膜中皮腫ハンドブック 第3版 発行元:石綿関連疾患患者を多面的に評価し治療・ケアを提供するチームアプローチの確立 ※現在、Web公開されているものは第2版です <a href="https://www.okayamah.johas.go.jp/asbestoscenter/assets/pdf/handbook_ver2.pdf">https://www.okayamah.johas.go.jp/asbestoscenter/assets/pdf/handbook_ver2.pdf</a>
	COVID-19パンデミックにおける肺癌診療:Expert opinion 日本肺癌学会(医師向け) <a href="https://www.haigan.gr.jp/modules/covid19/index.php?content_id=1">https://www.haigan.gr.jp/modules/covid19/index.php?content_id=1</a>
	新型コロナ感染症関連 日本癌治療学会, 日本癌学会, 日本臨床腫瘍学会(患者さん向け) <a href="https://www.jsmo.or.jp/general/coronavirus-information/qa_3gakkai.html">https://www.jsmo.or.jp/general/coronavirus-information/qa_3gakkai.html</a> 日本癌治療学会, 日本癌学会, 日本臨床腫瘍学会(医療従事者向け) <a href="https://www.jsmo.or.jp/news/coronavirus-information/qa_medical_3gakkai.html">https://www.jsmo.or.jp/news/coronavirus-information/qa_medical_3gakkai.html</a>
	がん患者の呼吸器症状の緩和に関するガイドライン 2016年版 (日本緩和医療学会) <a href="http://www.jspm.ne.jp/guidelines/index.html">http://www.jspm.ne.jp/guidelines/index.html</a>
	NCCNガイドライン(一部)の日本語版が下記サイトから閲覧可能 (少し原文とタイムラグあり) <a href="https://www2.tri-kobe.org/nccn/index.html">https://www2.tri-kobe.org/nccn/index.html</a>
G-CSF支持療法について (日本癌治療学会作成) G-CSF適正使用ガイドライン <a href="http://jsco-cpg.jp/item/30/index.html">http://jsco-cpg.jp/item/30/index.html</a>	
感染症・腫瘍内科	新型コロナウイルス感染症診療の手引き 第7.1版 (厚生労働省) <a href="https://www.mhlw.go.jp/content/000923423.pdf">https://www.mhlw.go.jp/content/000923423.pdf</a>
	抗微生物薬適正使用の手引き 第二版 (厚生労働省) <a href="https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000573655.pdf">https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000573655.pdf</a>
	JAID/JSC感染症治療ガイド2019(日本感染症学会) <a href="http://www.kansensho.or.jp/modules/journal/index.php?content_id=11">http://www.kansensho.or.jp/modules/journal/index.php?content_id=11</a> (Web公開なし)
頭頸科・甲状腺腫瘍科	甲状腺腫瘍診療ガイドライン2018 <a href="http://jaes.umin.jp/pdf/guideline2018.pdf">http://jaes.umin.jp/pdf/guideline2018.pdf</a>
	口腔がん診療ガイドライン <a href="http://www.jsco-cpg.jp/item/04/index.html">http://www.jsco-cpg.jp/item/04/index.html</a>
	頭頸部癌診療ガイドライン <a href="http://www.jsco-cpg.jp/headandneck-cancer/">http://www.jsco-cpg.jp/headandneck-cancer/</a>
	嚥下障害診療ガイドライン 2018年版 (転載禁止) <a href="http://www.jibika.or.jp/members/guidelines/enge_shougai_2018.pdf">http://www.jibika.or.jp/members/guidelines/enge_shougai_2018.pdf</a>

診療のためのガイドライン一覧

2022年4月19日更新

診療科	ガイドライン
形成外科	<p>(日本形成外科学会)  <a href="https://jsprs.or.jp/member/committee/guideline/">https://jsprs.or.jp/member/committee/guideline/</a>診療ガイドラインホームページ公開のお知らせ/                      1.形成外科診療ガイドラインシリーズ                      皮膚疾患                      第Ⅰ編 皮膚軟部腫瘍、第Ⅱ編 母斑・色素性疾患(レーザー治療)                      2.形成外科診療ガイドラインシリーズ                      急性創傷/瘢痕ケロイド                      第Ⅰ編 急性創傷、第Ⅱ編 感染創、第Ⅲ編 ケロイド・肥厚性瘢痕                      3.形成外科診療ガイドラインシリーズ                      慢性創傷                      第Ⅰ編 慢性創傷                      4.形成外科診療ガイドラインシリーズ                      頭蓋顎顔面疾患(主に先天性)                      第Ⅰ編 口唇・顎・口蓋裂・その他の顔面先天異常、第Ⅱ編 耳介先天異常、                      第Ⅲ編 眼瞼、第Ⅳ編 頭蓋(骨)縫合早期癒合症                      5.形成外科診療ガイドラインシリーズ                      頭蓋顎顔面疾患(主に後天性)                      第Ⅰ編 顔面外傷、第Ⅱ編 顔面変形(骨切り手術)                      6.形成外科診療ガイドラインシリーズ                      頭頸部・顔面疾患                      第Ⅰ編 頭頸部再建、第Ⅱ編 顔面神経麻痺、第Ⅲ編 眼瞼下垂症                      7.形成外科診療ガイドラインシリーズ                      体幹・四肢疾患                      第Ⅰ編 乳房再建、第Ⅱ編 腋臭症、第Ⅲ編 漏斗胸、第Ⅳ編 臍ヘルニア・突出症                      第Ⅴ編 四肢先天異常、第Ⅵ編 四肢再建、第Ⅶ編 殿部・外陰部再建</p> <p>リンパ浮腫診療ガイドライン2018年版 (日本リンパ浮腫学会編) (Web版なし)</p> <p>皮膚悪性腫瘍ガイドライン第3版 メラノーマ診療ガイドライン 2019 (日本皮膚科学会)  <a href="https://www.dermatol.or.jp/uploads/uploads/files/guideline/melanoma_GLv2.pdf">https://www.dermatol.or.jp/uploads/uploads/files/guideline/melanoma_GLv2.pdf</a></p> <p>皮膚悪性腫瘍診療ガイドライン第2版 2015  <a href="https://www.dermatol.or.jp/modules/guideline/index.php?content_id=2">https://www.dermatol.or.jp/modules/guideline/index.php?content_id=2</a> (日本皮膚科学会)</p>
消化器外科:胃領域	<p>胃癌治療ガイドライン 医師用 2021年7月改訂【第6版】(日本胃癌学会/編)                      ※現在、日本胃癌学会ホームページで公開されているものは2018年1月改訂【第5版】です  <a href="http://www.jgca.jp/guideline/fifth/index.html">http://www.jgca.jp/guideline/fifth/index.html</a></p> <p>GIST: GIST診療ガイドライン  <a href="http://www.jsco-cpg.jp/item/03/index.html">http://www.jsco-cpg.jp/item/03/index.html</a> (日本癌治療学会)  <a href="https://gist.jp/guideline">https://gist.jp/guideline</a> (GIST研究会)</p>
消化器外科:大腸領域	<p>大腸癌治療ガイドライン 医師用 2022年版 (大腸癌研究会)                      ※現在、大腸癌研究会ホームページで公開されているものは2019年版です  <a href="http://www.jsccr.jp/guideline/2019/index_guide.html">http://www.jsccr.jp/guideline/2019/index_guide.html</a></p> <p>遺伝性大腸癌診療ガイドライン2020年版 (大腸癌研究会編)  <a href="http://www.jsccr.jp/guideline/2020/hereditary_index_guide.html">http://www.jsccr.jp/guideline/2020/hereditary_index_guide.html</a></p> <p>消化器外科SSI予防のための周術期ガイドライン2018 日本外科感染症学会編  <a href="http://www.gekakansen.jp/guideline2018.html">http://www.gekakansen.jp/guideline2018.html</a></p> <p>膵・消化管神経内分泌腫瘍(NEN)診療ガイドライン 2019年(第2版)日本神経内分泌腫瘍研究会編  <a href="http://jnets.umin.jp/guideline.html">http://jnets.umin.jp/guideline.html</a></p> <p>GIST診療ガイドライン 第3版 日本癌治療学会GISTガイドライン委員会  <a href="http://jsco-cpg.jp/item/03/index.html">http://jsco-cpg.jp/item/03/index.html</a></p>
食道外科領域	<p>食道癌:食道癌診療ガイドライン 2017年度版 (日本食道学会)</p>
食道内科領域	<p>胃食道逆流症(GERD)診療ガイドライン2021 (日本消化器病学会)(会員のみWeb閲覧可能)                      ※現在、公開されているものは2015年版です  <a href="https://www.jsge.or.jp/files/uploads/gerd2_re.pdf">https://www.jsge.or.jp/files/uploads/gerd2_re.pdf</a></p>
消化器内科	<p>食道癌診療ガイドライン 2017年版 (日本食道学会) (Web版なし)</p> <p>胃癌治療ガイドライン 医師用 2021年7月改訂【第6版】(日本胃癌学会/編)                      ※現在、日本胃癌学会ホームページで公開されているものは2018年1月改訂【第5版】です  <a href="http://www.jgca.jp/guideline/fifth/index.html">http://www.jgca.jp/guideline/fifth/index.html</a></p> <p>大腸癌治療ガイドライン 医師用 2022年版 (大腸癌研究会)                      ※現在、大腸癌研究会ホームページで公開されているものは2019年版です  <a href="http://www.jsccr.jp/guideline/2019/index_guide.html">http://www.jsccr.jp/guideline/2019/index_guide.html</a></p> <p>遺伝性大腸癌診療ガイドライン2020年版 (大腸癌研究会編)  <a href="http://www.jsccr.jp/guideline/2020/hereditary_index_guide.html">http://www.jsccr.jp/guideline/2020/hereditary_index_guide.html</a></p> <p>大腸がん診療における遺伝子関連検査等のガイダンス 第4版 2019年12月                      (日本臨床腫瘍学会の会員限定でWeb公開)</p> <p>GIST診療ガイドライン 2014年4月改訂 第3版 (日本癌治療学会)  <a href="http://www.jsco-cpg.jp/item/03/index.html">http://www.jsco-cpg.jp/item/03/index.html</a></p>
その他	<p>がん免疫療法ガイドライン 第2版 (日本臨床腫瘍学会の会員限定でWeb公開)</p> <p>成人・小児進行固形がんにおける臓器横断的ゲノム診療のガイドライン 第3版(2022年2月)                      (日本癌治療学会 / 日本臨床腫瘍学会) (Web版なし)</p> <p>制吐薬適正使用ガイドライン 2015年10月 第2版 (日本癌治療学会)  <a href="http://jsco-cpg.jp/item/29/index.html">http://jsco-cpg.jp/item/29/index.html</a></p>

## 診療のためのガイドライン一覧

2022年4月19日更新

診療科	ガイドライン
消化器内科(肝胆膵)	肝臓診療ガイドライン 肝臓学会HP <a href="http://www.jsh.or.jp/medical/guidelines/jsh_guidelines/medical">http://www.jsh.or.jp/medical/guidelines/jsh_guidelines/medical</a>
	膵臓診療ガイドライン 膵臓学会HP <a href="http://suizou.org/gaiyo/guide.htm">http://suizou.org/gaiyo/guide.htm</a>
	膵・消化管 神経内分泌腫瘍ガイドライン2019 <a href="http://jnets.umin.jp/pdf/guideline002_2s.pdf">http://jnets.umin.jp/pdf/guideline002_2s.pdf</a>
	胆道がん診療ガイドライン ※第3版が最新ですが、現在インターネットで閲覧ができませんので購入が必要
	急性胆管炎・胆嚢炎ガイドライン(第3版)2018 <a href="https://minds.jcqh.or.jp/docs/gl_pdf/G0001075/4/acute_cholangitis_and_acute_cholecystitis.pdf">https://minds.jcqh.or.jp/docs/gl_pdf/G0001075/4/acute_cholangitis_and_acute_cholecystitis.pdf</a>
内視鏡科	食道癌に対するESD /EMRガイドライン(日本食道学会) <a href="https://www.jstage.jst.go.jp/article/gee/62/2/62_221/_pdf/-char/ja">https://www.jstage.jst.go.jp/article/gee/62/2/62_221/_pdf/-char/ja</a>
	胃癌に対するESD /EMRガイドライン(第2版)日本消化器内視鏡学会雑誌2020 <a href="https://www.jstage.jst.go.jp/article/gee/62/2/62_273/_pdf/-char/ja">https://www.jstage.jst.go.jp/article/gee/62/2/62_273/_pdf/-char/ja</a>
	大腸ESD /EMRガイドライン(第2版)日本消化器内視鏡学会雑誌2019 <a href="https://www.jstage.jst.go.jp/article/gee/61/6/61_1321/_pdf/-char/ja">https://www.jstage.jst.go.jp/article/gee/61/6/61_1321/_pdf/-char/ja</a>
	日本ヘリコバクター学会ガイドライン2016(日本ヘリコバクター学会) <a href="http://www.jshr.jp/journal/index.html">www.jshr.jp/journal/index.html</a>
	IPMN国際診療ガイドライン2017年度版(日本語版)(Web公開なし)
乳腺科	乳癌診療ガイドライン2018年版 日本乳癌学会 <a href="https://jbcs.xsrv.jp/guideline/2018/index/">https://jbcs.xsrv.jp/guideline/2018/index/</a>
	乳癌患者の妊娠・出産と生殖医療に関する診療ガイドライン 2021年版 第3版(日本がん・生殖医療学会) <a href="https://j-sfp.org/guideline_2021/">https://j-sfp.org/guideline_2021/</a>
	「小児、思春期・若年がん患者の妊孕性温存に関する診療ガイドライン」2017年版 日本癌治療学会 <a href="http://www.jsco-cpg.jp/fertility/">http://www.jsco-cpg.jp/fertility/</a>
遺伝性がん診療科	遺伝性大腸癌診療ガイドライン2020年版(大腸癌研究会編) <a href="http://www.jsccr.jp/guideline/2020/hereditary_index_guide.html">http://www.jsccr.jp/guideline/2020/hereditary_index_guide.html</a>
	遺伝性乳癌卵巣癌(HBOC)診療ガイドライン2021年版(JOHBOC 日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構編) <a href="http://johboc.jp/guidebook_2021/">http://johboc.jp/guidebook_2021/</a>
	フォン・ヒッペル・リンドウ(VHL)病 診療ガイドライン 2017年版 (「多彩な内分泌異常を生じる遺伝性疾患(多発性内分泌腫瘍症およびフォンヒッペル・リンドウ病)の実態把握と診療標準化の研究」班) <a href="http://www.kochi-u.ac.jp/kms/hs_urol/pdf/vhl_2017ver.pdf">http://www.kochi-u.ac.jp/kms/hs_urol/pdf/vhl_2017ver.pdf</a>
	成人・小児進行固形がんにおける臓器横断的ゲノム診療のガイドライン 第3版(2022年2月) (日本癌治療学会 / 日本臨床腫瘍学会) (Web版なし)
	小児・成人のためのPeutz-Jeghers症候群診療ガイドライン(2020年版) <a href="https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsht/20/2/20_59/_pdf/-char/ja">https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsht/20/2/20_59/_pdf/-char/ja</a>
	小児・成人のためのCowden症候群/PTEN過誤腫症候群診療ガイドライン(2020年版) <a href="https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsht/20/2/20_93/_pdf">https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsht/20/2/20_93/_pdf</a>
	小児・成人のための若年性ポリポージス症候群診療ガイドライン(2020年版) <a href="https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsht/20/2/20_79/_pdf/-char/ja">https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsht/20/2/20_79/_pdf/-char/ja</a>
リー・フラウメニ症候群の診療ガイドライン(2019年版) <a href="http://jsht.umin.jp/news/download/2020032404.pdf">http://jsht.umin.jp/news/download/2020032404.pdf</a>	
緩和ケア内科	がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2020年版(日本緩和医療学会) <a href="http://www.jspm.ne.jp/guidelines/pain/2020/pdf/pain2020.pdf">http://www.jspm.ne.jp/guidelines/pain/2020/pdf/pain2020.pdf</a>
	終末期がん患者の輸液療法に関するガイドライン 2013年版(日本緩和医療学会) <a href="https://www.jspm.ne.jp/guidelines/glhyd/2013/pdf/glhyd2013.pdf">https://www.jspm.ne.jp/guidelines/glhyd/2013/pdf/glhyd2013.pdf</a>
	がん患者の呼吸器症状の緩和に関するガイドライン 2016年版(日本緩和医療学会) <a href="https://www.jspm.ne.jp/guidelines/respira/2016/pdf/respira01.pdf">https://www.jspm.ne.jp/guidelines/respira/2016/pdf/respira01.pdf</a>
	がん患者の消化器症状の緩和に関するガイドライン 2017年版(日本緩和医療学会) <a href="https://www.jspm.ne.jp/guidelines/gastro/2017/pdf/gastro2017.pdf">https://www.jspm.ne.jp/guidelines/gastro/2017/pdf/gastro2017.pdf</a>
	がんの補完代替療法クリニカル・エビデンス 2016年版(日本緩和医療学会) <a href="https://www.jspm.ne.jp/guidelines/cam/2016/pdf/cam01.pdf">https://www.jspm.ne.jp/guidelines/cam/2016/pdf/cam01.pdf</a>
	がん患者の泌尿器症状の緩和に関するガイドライン 2016年版(日本緩和医療学会) <a href="https://www.jspm.ne.jp/guidelines/urology/2016/pdf/urology01.pdf">https://www.jspm.ne.jp/guidelines/urology/2016/pdf/urology01.pdf</a>
	がん患者におけるせん妄ガイドライン 2019年版(日本サイコオンコロジー学会) <a href="https://jpos-society.org/pdf/gl/delirium/all_jpos-guideline-delirium.pdf">https://jpos-society.org/pdf/gl/delirium/all_jpos-guideline-delirium.pdf</a>
	睡眠薬の適正な使用と休薬のための診療ガイドライン 2013年版(日本睡眠学会) <a href="http://jsr.jp/data/pdf/suiminyaku-guideline.pdf">http://jsr.jp/data/pdf/suiminyaku-guideline.pdf</a>
	がん患者の治療抵抗性の苦痛に関する基本的な考え方の手引き 2018年版(日本緩和医療学会) <a href="https://www.jspm.ne.jp/guidelines/sedation/2018/pdf/sedation2018.pdf">https://www.jspm.ne.jp/guidelines/sedation/2018/pdf/sedation2018.pdf</a>
精神腫瘍科	日本サイコオンコロジー学会 がん患者におけるせん妄ガイドライン2019年版 <a href="https://jpos-society.org/guideline/delirium/">https://jpos-society.org/guideline/delirium/</a>

## 診療のためのガイドライン一覧

2022年4月19日更新

診療科	ガイドライン
泌尿器科	陰茎癌診療ガイドライン2021年版 編集:日本泌尿器科学会 (Web公開なし、会員のみ閲覧可能)
	泌尿器腹腔鏡手術ガイドライン2020年版 編集:日本泌尿器内視鏡学会 <a href="https://www.jsee.jp/wordpress/wp-content/themes/jsee/assets/pdf/guideline_2020.pdf">https://www.jsee.jp/wordpress/wp-content/themes/jsee/assets/pdf/guideline_2020.pdf</a>
	膀胱癌診療ガイドライン2019年版 編集:日本泌尿器科学会 (会員のみ) <a href="https://jua.members-web.com/topics1/uploads/attach/topics_20160401403139_190924144754.pdf">https://jua.members-web.com/topics1/uploads/attach/topics_20160401403139_190924144754.pdf</a> 2020年アップデート内容: <a href="https://www.urol.or.jp/lib/files/other/guideline/39_bladder_cancer_2019_rev2020_info.pdf">https://www.urol.or.jp/lib/files/other/guideline/39_bladder_cancer_2019_rev2020_info.pdf</a> 2021年アップデート内容: <a href="https://www.urol.or.jp/lib/files/other/guideline/39_bladder_cancer_2019_rev2021_info.pdf">https://www.urol.or.jp/lib/files/other/guideline/39_bladder_cancer_2019_rev2021_info.pdf</a>
	前立腺がん検診ガイドライン2018年版 編集:日本泌尿器科学会 (会員のみ) <a href="https://jua.members-web.com/topics1/uploads/attach/topics_20160401403139_180219145943.pdf">https://jua.members-web.com/topics1/uploads/attach/topics_20160401403139_180219145943.pdf</a>
	腎癌診療ガイドライン2017年版 編集:日本泌尿器科学会 (会員のみ) <a href="https://jua.members-web.com/topics1/uploads/attach/topics_20160401403139_200626101343.pdf">https://jua.members-web.com/topics1/uploads/attach/topics_20160401403139_200626101343.pdf</a> 2019年アップデート内容: <a href="https://jua.members-web.com/topics1/uploads/attach/topics_20160401403139_190521135711.pdf">https://jua.members-web.com/topics1/uploads/attach/topics_20160401403139_190521135711.pdf</a> 2020年アップデート内容: <a href="https://jua.members-web.com/topics1/uploads/attach/topics_20160401403139_200626101356.pdf">https://jua.members-web.com/topics1/uploads/attach/topics_20160401403139_200626101356.pdf</a>
	前立腺癌診療ガイドライン2016年版 編集:日本泌尿器科学会 (会員のみ) <a href="https://jua.members-web.com/topics1/uploads/attach/topics_20160401403139_180914115354.pdf">https://jua.members-web.com/topics1/uploads/attach/topics_20160401403139_180914115354.pdf</a> 2018年アップデート内容: <a href="https://jua.members-web.com/topics1/uploads/attach/topics_20160401403139_180914115443.pdf">https://jua.members-web.com/topics1/uploads/attach/topics_20160401403139_180914115443.pdf</a>
	泌尿器科領域における周術期感染予防ガイドライン2015 編集:日本泌尿器科学会 (会員のみ) <a href="https://www.urol.or.jp/lib/files/other/guideline/18_ssi_2015.pdf">https://www.urol.or.jp/lib/files/other/guideline/18_ssi_2015.pdf</a>
	精巣腫瘍診療ガイドライン2015年版 編集:日本泌尿器科学会 (会員のみ) <a href="https://www.urol.or.jp/lib/files/other/guideline/22_testicular_tumor_2015.pdf">https://www.urol.or.jp/lib/files/other/guideline/22_testicular_tumor_2015.pdf</a>
	腎盂・尿管癌診療ガイドライン2014年版 日本泌尿器科学会編 (会員のみ) <a href="https://www.urol.or.jp/lib/files/other/guideline/05_renal_ureter_cancer.pdf">https://www.urol.or.jp/lib/files/other/guideline/05_renal_ureter_cancer.pdf</a>
	血尿診断ガイドライン2013 編集:日本腎臓学会、日本泌尿器科学会、日本小児腎臓病学会、日本臨床検査医学会、日本臨床衛生検査技師会 <a href="https://www.urol.or.jp/lib/files/other/guideline/04_hematuria_2013.pdf">https://www.urol.or.jp/lib/files/other/guideline/04_hematuria_2013.pdf</a>
歯科	口腔癌診療ガイドライン 2019年版 第3版 日本口腔腫瘍学会・日本口腔外科学会 (Web公開なし)
	顎骨壊死のポジションペーパー (骨吸収抑制薬関連顎骨壊死の病態と管理:顎骨壊死検討委員会ポジションペーパー2016) <a href="http://jsbmr.umin.jp/guide/pdf/bppositionpaper2016.pdf">http://jsbmr.umin.jp/guide/pdf/bppositionpaper2016.pdf</a>

※色付きのガイドラインは異なる診療科の同じガイドラインを示しています。



令和4年度 第1回愛媛県がん診療連携協議会 がん地域連携専門部会

2021年度活動報告

ウェブ会議：2021.7.5 と 2021.11.5

新型コロナの感染状況に左右された活動であった。以下の項目について情報共有

I. 緩和ケアに関する内容

1. 緩和病棟あるいはそれに代わる病棟（病室）について
2. 緩和病棟を閉鎖あるいはコロナ病床へ転用したか
3. 転用はどのような時期（タイミング）だったか
4. 転用した場合に情報は公表したか
5. 公表した場合はその方法、公表しなかった場合はどのような対応を行ったか
6. 終末期患者の面会制限
7. 看取りの場面での制限
8. 自院の対策を振り返り評価は行ったか

II. 情報

1. 面会禁止など感染対策の情報はどのように発信したか（患者・医療機関への対応）
2. 発信した情報は伝わったと思われるか
3. 情報発信に対する意見について

III. リモートカンファレンスの今後の活用予定

IV. ネットワーク連携の新たな取り組みや状況

V. 医科歯科連携の取り組み

I. 緩和ケア病棟について4施設から状況を確認した。

済生会今治病院

一般病棟から一番離れた場所にありコロナ病床に転用しやすかった。スタッフは希望者を募って対応した。転用当初は混乱したが、患者数が多くなかったため混乱は一時的であった。緩和の患者は一般病棟で対応し、トラブルはなかった。転用後の問い合わせも一時的であった。来週から緩和ケア病棟を再開する。

HITO 病院

緩和ケア病棟の病床数が少なくコロナ病床に転用しやすかった。スタッフは希望者を募って対応した。患者は一般病棟に移動してもらい緩和病棟のスタッフも一般病棟にも移動している。転用後の問い合わせは一時的に煩雑になっていた。緩和ケア病棟でなくケア病棟への問い合わせもあった。

住友別子病院

10月から緩和ケア病棟を開設した。開設直後は満床であったが現在は少し空床がある。コロナ病床に転用はしていない。

四国がんセンター

コロナ病床の転用はなく緩和病床として維持できていた。第6波の感染が第5波以上になれば転用も考えなければいけないと考える。

## II. 面会状況の現状・情報

### 1. 面会について

愛媛大学病院：面会禁止から制限に変わった。

愛媛県立中央病院：面会禁止

済生会松山病院：1～2回/週 14時～16時 荷物の受け渡しは可能

松山市民病院：月・水・金 14時～16時 家族限定で面会可能

松山赤十字病院：面会禁止 荷物の受け渡し等で可能な部分はある。

四国がんセンター：面会禁止 緩和の看取りは家族限定で4名までとしている。

済生会今治病院：面会禁止 主治医の許可で15分程度の面会許可が下りる場合もある。

HITO病院：先週から一患者に対し2人15分まで 平日の14時～16時 大部屋は一組のみ面会可能になった。

住友別子病院：一般病棟は、面会禁止 荷物の受け渡しで2～3回/週 15分程度  
緩和病棟は、家族限定で2～3名まで交代で病室に入る。

感染拡大地域からの方はzoomでの面会

済生会西条病院：面会禁止 主治医の判断で一部許可になる。

市立八幡浜総合病院：面会禁止

市立宇和島病院：11/1から一部面会制限に変更 市内在住者は、2名まで1回15分 南予以外の方は問診票で確認している。

四国中央病院：面会禁止 主治医の判断で一部許可になる。

※面会については、面会制限になった施設もあるが、どの施設も全面解除には至っていない。制限を緩めるにあたっては、コロナ会議等で決定されている。

### 2. 情報の周知

- ・各施設、ホームページやポスター掲示で情報提供を行っている。愛媛県立中央病院は、面会禁止の記事が愛媛新聞に2回掲載された。情報の周知は難しいが、部会を通じての情報提供もお願いする。
- ・愛媛大学病院から自施設のホームページに協議会の連携パス関連のページにリンクを貼りたいと連絡をもらった。自施設のホームページにリンクは自由に張って貰ってよい。また、協議会のホームページを利用し、県民へのアピールとして行きたい。コロナの情報も掲示し、協議会のホームページも改定していきたいので、協力をお願いする。

## III. リモートカンファレンス

### 1. リモートカンファレンスの実施がなかった施設の状況

市立宇和島病院

在宅関係者に院内に来てもらい広い会議場でカンファレンスを実施した。ケアマネジャーも当院に来ることに抵抗はなかったようである。当院のリモートカンファレンスを行う環境自体は整っている。

済生会松山病院

1階で場所を確保し対面でカンファレンスは実施している。

#### 松山市民病院

1階で場所を確保し対面でカンファレンスは実施したが、患者は病室からオンライン端末で参加した。

緩和目的で岡山へ帰る患者をリモートカンファレンスする予定になっている。

### 2. リモートカンファレンスが多い施設の状況

#### 愛媛大学病院

退院前カンファレンスの情報提供に1~2件/月実施 会議を行うため場所の確保やWi-Fi環境が使用できる場所の確保に苦勞することはあるが、会議が開けなかったことはない。

#### 愛媛県立中央病院

個人のカンファレンスは行っていないが、各部署で必要な場合は場所を確保し実施できている。

#### 四国がんセンター

件数は多くないが、遠方地域の患者が多いため今後も活用して行きたい。課題は、ネット環境が悪い点である。

## IV. ネットワーク連携の新たな取り組みや状況

#### 県立中央病院

11/1/から「姫さくらネット」を開始したが、登録までには至っていない。病名・検査データ画像・処方内容などが見ることができ、専任の担当者がいる。

#### 宇和島市立病院

見せ方が大事である。Drがどういった説明を行っているのかを一番知りたいため、Drの記載が見られるようになるのがよい。見られているということでDrの記載も変わってくる。また、専任の担当者が出向いて設定を行い、時間外の対応の応じられるとよいと思う。

カルテ記録内容も含め開示していくことで普及は格段にすすむものと思われる。

#### 愛媛大学病院

ネットワーク同意患者は、約1000人で今後も増えていく。

事務局から、既に各施設間のネットワークも繋がって良い時代だと思う。協議会を通じて働きかけが必要

## V. 医科歯科連携の取り組み

四国がんセンター新任の歯科医師から緩和の患者だけでなく、抗がん剤や顎骨壊死の患者についても医科歯科連携の強化を行いたい意向があるため、今後も協力をお願いする。まだ準備が不十分であるが、進行があれば連絡する。

## VI. その他の取組みについて

愛媛大学病院：連携ネットワークシステムにヒューマンブリッジ機能がついているためSNSを活用している。薬薬連携では副作用モニター、WOC認定看護師のケアにはストーマ写真をSNSで見られるようにして活用している。

年度末までに紹介患者については、WEB予約システムを稼働させる予定である。

愛媛県立中央病院：患者がLINE登録をすると待ち時間の表示ができるようにした。

済生会松山病院：面会など、情報が変更になった時に伝わりにくいため、スムーズな情報伝達に取り組んでいきたい。

松山市民病院：ネットワーク連携が広がり開業医さんと連携の輪が広がっていけばよいと思う。

松山赤十字病院：乳癌ホルモン治療連携パスについて、5年から10年に対応できるように改定し、運用を始めている。

済生会今治病院：コロナで培ったWEBでの病診連携を広げていきたい。

HITO病院：オンライン診療の患者を増やしていきたい。現在、オンライン診療をしていた患者は、来院している。

住友別子病院：10月から開設した緩和ケア病棟の稼働をしっかりとやっていく。11月緩和研修会を予定している。

済生会西条病院：緩和病床はないが、緩和ケア外来で対応している。

市立八幡浜病院：連携ネットワークシステムが始められる。在宅や訪問看護に広げられると良いと思っている。連携ネットワークは、どこか音頭を取って一気に横に繋げて双方向にできるとよいと思う。

市立宇和島病院：東・南宇和などの連携を発展させたい。

四国中央病院：面会制限を緩めるのは難しいが、アンケートを参考に患者面会も考えていきたい。

愛媛県薬剤師会（コスモ薬局）：県医師会の薬薬連携で副作用報告、レジメンや検査データも見られるが、細かな点も連携ネットワークで閲覧できるとよいと思う。

## まとめ

コロナで影響を受けて大変な時期を共有しましたが、情報の伝達、SNS、LINEなど新しいツールを手に入れている。ネットワークシステムが普及するともっと楽になるため連携部会として積極的に取り入れていきたい。医科歯科連携、薬薬連携やパスの改定も引き続き、協力をお願いする。

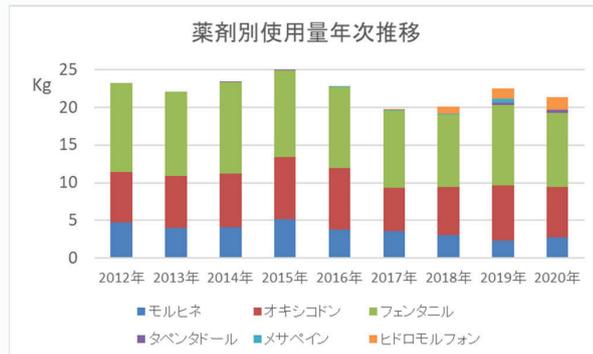
# がん診療連携協議会

## 緩和ケア専門部会

### タイムテーブル

1. 日時 2021年11月17日（水） 18:00～19:20
2. 場所 四国がんセンター Web開催（Webex）
3. 司会 成本部会長（四国がんセンター）  
書記 中平（済生会松山病院）
4. タイムスケジュール  
18:00～18:02 成本部会長挨拶（2分）  
18:05～18:20 設のコロナ禍における現状報告  
（各施設代表者1分）  
18:20～18:30 愛媛県医療用麻薬使用実態調査の報告  
中橋先生（10分）  
18:30～19:10 テーマ「今さら聞けないオピオイドの使用  
方法 あなたの施設はどうしていますか？」  
5施設発表 質疑応答（40分）  
19:10～19:20 まとめ（成本部会長）

## 愛媛県医療用 麻薬使用状況



## まとめ

質問1 初回オピオイド導入時使用頻度の高い薬剤は？

①オキシコンチン②トラマドール③その他の薬剤の3つに分けられ、オキシコドンが多く使用されている傾向がある。

質問2 タイトレーションの方法

持続皮下注、内服ではレスキューの使用状況でおこなう施設が多い。

持続皮下注射はタイトレーションを早く細かく調整できる。

質問3 難治性疼痛

ブロックや放射線治療の選択肢がある。

メサドンは使用できる施設が限られている、今後使用できる施設が多くなると連携しやすくなる。

疼痛に対するセデーションも難治性の場合は使用を検討する。

非がん患者のオピオイド使用が少しずつ増えている。

# 参考資料

事務連絡  
令和3年8月4日  
特定非営利活動法人  
日本緩和医療学会 理事長殿  
厚生労働省健康局がん・疾病対策課

新型コロナウイルス感染症の流行等を踏まえた  
がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会の開催について

緩和ケア研修会については、「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会の開催指針について」（平成29年12月1日付け健発1201第2号厚生労働省健康局通知）の別添「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会の開催指針」（以下「開催指針」という。）に基づき実施して頂いている。

また、令和3年2月9日付け事務連絡「新型コロナウイルス感染症の流行下におけるがん診療連携拠点病院等の指定要件の留意事項等について」（以下「令和3年2月9日付け事務連絡」という。）において、がん診療連携拠点病院等における、緩和ケア研修の開催に関する指定要件について、新型コロナウイルス感染症が発生している状況を踏まえ、令和3年度の要件の充足状況の確認については、講義とグループ演習をwebで開催すれば、拠点病院の指定要件は充足したとされる一方で、緩和ケア研修会については、ロールプレイングも含めた集合研修を行った場合にのみ修了とする取扱いを変更しないとする方針をお示ししたところである。

その際、ロールプレイングをwebで行うことを含めた集合研修の開催方法については、検討課題としていたところであるが、今般、下記の方針とすることとしたため、趣旨をご理解のうえ、関係機関に周知の上、引き続き緩和ケア研修の実施に取り組んでいただきたい。

記

- 1 集合研修は、開催指針において、「所定の場所に集合」のうえ開催すると定めているが、新型コロナウイルス感染症の発生状況その他の状況を踏まえて、実地での開催が困難である場合としていれば、ロールプレイングを含めてweb上で実施する研修会であっても他の要件を満たしていれば、開催指針を満たした研修会とみなすこととする。  
ただし、厚生労働省委託事業「がん等における新たな緩和ケア研修等事業」における、「医師に対する緩和ケア教育プログラム（PEACEプロジェクト）」が作成した「集合研修ファシリテーターマニュアル（Web 開催用）」及び「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会における集合研修をweb上で開催するための運営マニュアル」に準拠した研修会に限るものとする。  
従って、開催に当たっては、事前にこれらを熟読のうえ、入念な準備を行い、院内における研修開催の体制を整えた上で実施いただきたい。

なお、web上での開催については、対面での研修と比較し、特にロールプレイングの学習効果がある可能性があることから、対面での集合研修を原則とするとは異なっており、実地での集合研修の開催が困難である場合の開催方法であることに留意し、様々な状況を考慮して、適宜web上での開催と実地での集合研修を組み合わせた工夫をして、十分に研修の質を確保できる形での開催をお願いしたい。

また、web上で開催する場合には、確認依頼書および集合研修進捗表にその旨を記載すること。

- 2 開催指針では、e-learningの修了後2年以内に集合研修を受講することとされているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、緩和ケア研修会の中止・延期が続いたことから、e-learningを修了したものの、緩和ケア研修会の受講機会が得られなかった受講者が存在するため、その取扱いとして、令和5年3月末までに集合研修を受講する場合に限り、e-learningの修了日から集合研修を受講するまでの期間を3年以内とする。  
(例えば、令和2年6月にe-learningを修了した場合は令和5年3月末を集合研修の期限とする。)

- 3 前述のとおり、令和3年2月9日付け事務連絡において、集合研修のうち、講義とグループ演習をwebで開催すれば、拠点病院の要件は充足したとする一方、ロールプレイングも含めた集合研修を行った場合にのみ緩和ケア研修会を修了とする取扱いは変更しない方針を示したところである。

元来、集合研修の部分的な受講は認めないことから、講義、グループ演習、ロールプレイングを含めた集合研修の一連のプログラム全てを受講した場合に、緩和ケア研修会の修了証書を出すことを原則とする取扱いは変更しない。

ただし、令和3年2月9日付け事務連絡の取扱いを受け、講義とグループ演習をwebで開催した研修会を受講した者が、講義とグループ演習の質も含めて担保したうえで、当該研修の主催者により実施されるロールプレイングのみの研修を、令和5年3月末までに受講した場合については、当該受講者は緩和ケア研修会を修了したものとす。そのため、研修の主催者は、講義、グループ演習、ロールプレイングも含めたプログラムを含む研修の詳細について書面で提出していただくことを条件とする。また、この場合におけるロールプレイングについては、1のただし書きを満たしたweb上での研修又は従来通り実地で開催される集合研修のロールプレイングとする。

なお、この形でロールプレイングのみを追加受講する際、e-learningの受講より時間が長いという場合には、e-learningのコミュニケーションのプログラムを復習のうえ臨むことが望ましい。

〇本件に係る関係先  
厚生労働省健康局がん・疾病対策課  
加賀谷 晶中  
Email: [kagaya-yuusuke\\_ajd@hhlw.go.jp](mailto:kagaya-yuusuke_ajd@hhlw.go.jp)  
[hutanaka-koumuko@hhlw.go.jp](mailto:hutanaka-koumuko@hhlw.go.jp)

(資料11)

愛媛県がん診療連携協議会 相談支援部会 幹事会報告

1.がん相談支援専門部会議事録(2021年11月11日)(資料1)

- 1)各4WGからの報告。
- 2)AYA世代支援活動アンケート実施について。
- 3)ピアサポーター養成研修。

2.愛媛県がん相談員研修会報告(2021年10月23日)(資料2)

受講者21名(県内12名参加、県外9名参加)

3.がんサポートブックえひめ改訂検討会(2021年12月17日)(資料3、4)

4.がん相談員フォーラム in 四国(2022年1月22日)(資料5、6、7)

受講者65名(県内21名参加)

5. AYA世代支援活動アンケート報告(資料8)

各施設でのがん相談対応や AYA 世代患者支援の活動に活かすことを目的として、拠点・推進病院での活動状況を共有しました。

6.チェックリストWG報告(2022年3月15日)(資料9、10)

- 1)がん相談支援センター活動のPDCAサイクルを確保するために、チェックリストを作成。
- 2)毎年、チェックリストに記入し、課題の抽出を行い、チェックリストの見直しも行っています。
- 3)抽出した課題の改善に向けて課題を絞って取り組んでいく予定です。

7.今年度の予定 :原則、オンラインによる活動。

1)災害WG WGとしての活動は終了。

- ①「自然災害発生時における研修会等の取り扱いについて」が完成。
- ②5月に災害時連絡シミュレーションの実施。

2)広報WG

- ①「がんサポートブックえひめ」の第4版改訂が終了。

今月、改訂版発行予定。注文を募ります。この冊子を使用して、広報を行うことを予定していますので、たくさんの注文をお願いいたします。また、がんの告知をしたときに、医師から直接、手渡していただきたいので、その協力もお願いいたします。

- ②出張相談会はコロナのため見送り予定。

3)がん相談員研修WG

- ①がん相談員フォーラム in 四国(2022年10月22日)(愛媛でオンライン開催)

テーマは、両立支援について

四国ブロックファシリテーターと参加者の協力をお願いいたします。

4)チェックリストWG

例年通りに実施予定。

オンラインフォームを活用し、入力・集計作業負担の軽減をはかる方針。

令和3年度第2回愛媛県がん診療連携協議会 がん相談支援専門部会

(Web 会議) 議事録

令和3年11月11日(木) 13:30~14:30

出席者 (45名)	NPO 法人愛媛がんサ ポートおれんじの会	松本	愛媛県立中央病院	大矢根、濱田、村 上、季羽、渋谷、石 山、小笠原、武田、 外山、赤澤
	愛媛県庁健康増進課	三宅 担当係長		
	愛媛大学医学部附属 病院	塩見、小野		
	済生会今治病院	松岡、池田、斉藤	松山赤十字病院	三好、佐伯、石川
	住友別子病院	和田、山地、高橋	市立宇和島病院	黒田、川中、沼田
	松山市民病院	三谷	四国中央病院	古川、高木、森下
	HITO 病院	守屋	十全総合病院	向井
	済生会西条病院	大谷	済生会松山病院	平岡、藤原
	市立八幡浜総合病院	高橋	四国がんセンター	灘野 (部会長) 羽藤 (副部会長) 藤山 (副部会長) 福島、大西、関木 篠原
	愛媛労災病院	田中		
事務局	四国がんセンター	安宅 (事務担当)		

挨拶

がん相談支援専門部会 部会長 灘野 成人  
 がん相談支援専門部会 副部会長 藤山 幹子  
 実務担当代表 四国がんセンター 福島 美幸  
 済生会今治病院 松岡 誠子  
 愛媛県健康増進課 三宅 宏和  
 おれんじの会 松本 陽子

I. 報告・協議事項

1. 各ワーキングからの報告

1) 相談員研修 WG WG リーダー 篠原瞳 (四国がんセンター)

・今年度がん相談員研修会オンライン開催報告

令和3年10月23日(土) 13時~17時15分 Zoom によるオンライン研修

内容「積極的治療の限界を告げられたがん患者・家族の支援」

### 講義、グループディスカッション

対象者：がん診療連携拠点病院・推進病院の支援センターの相談員など  
参加者：21名（県内12名、県外9名）拠点病院が8割を占める  
看護師、心理士、ソーシャルワーカーと多職種の視点から各職種の強みを生かした支援方法を検討していくことができた研修会であった。  
オンラインでのグループディスカッションの課題あり。  
活動報告書とアンケート調査の集計は協議会のHPに掲載。  
○アンケート調査より  
参加者全員が満足。  
対象者理解について振り返ることができた。  
全体像を捉えながら今後の相談支援に活かしていきたい。

### 2) 広報活動 WG WG リーダー 大西明子（四国がんセンター）

- ・がんサポートブックえひめ改訂の活動報告  
各施設から担当ページの修正案を送っていただき改定案をまとめた。  
12月中旬にオンラインWGにて意見交換を行い、今年度内に改訂案を完成していきたい。

### 3) 災害 WG WG リーダー 関木裕美（四国がんセンター）

- ・災害時の被災地周辺地域受入れ体制調査フォーマットを情報提供する際の『院内確認ルート』に関するアンケート集計結果報告  
院内での確認方法については相談支援センターより各部署の責任者や災害対策本部に確認するとしている施設がほとんどだった。  
その他災害時の情報共有についての意見もいくつかあった。日頃の備えとしてできるところは行いながら、専門部会として検討が必要なところは今後の課題としておく。
- ・災害発生時の部会活動中止や延期に関する取り決めについて  
集合研修でもオンライン研修でも災害時の判断は大きく変化ないため、災害時の部会活動開催の取り決めが必要。  
活動方法として、判断基準となる原案を作成し検討・完成していくので協力をお願いしたい。

### 4) チェックリスト WG WG リーダー 松岡誠子（済生会今治病院）

- ・各施設内におけるチェックリスト回収中。  
未提出の施設は、11月30日17時までに愛媛大学 塩見氏までメールにて提出を。

令和4年1月までにWGで集計し課題の抽出と来年度の検討を行う。

年度末までに結果を配信する。

前年度からリストの変更や評価指標を使用してもらい、回答し難い事項は提出時に書き添えて欲しい。

## 2. AYA世代支援活動のアンケート実施について

福島美幸(四国がんセンター)

○目的：第3期がん対策推進計画にAYA世代のがん対策が盛り込まれている。

各施設での対応の限界や苦慮していること、他施設の取り組みの情報共有  
ゆくゆくは各施設のチーム活動の活性化に繋げていく。

○12月末までに案内、回答を終え来年1.2月で集計しメーリングリストで共有する。

・(おれんじの会 松本氏)

AYA世代の支援は実際難しいところ。課題を明確にすることで改善策を見出せば。サポートサイトにもAYA枠があり、各施設の取り組みが出せるようになることが理想。先日、在宅生活希望のAYA世代の方で若年がん患者在宅療養支援事業の制度が煩雑で利用に至らず旅立たれた。制度を紹介する難しさがあれば自由記載に書いてもらえるとありがたい。

若年がん患者在宅療養支援事業はどれくらい利用されているのか？

→愛媛県健康増進課 三宅氏

昨年は1件。今年度は予定も含めると申請は3件という状況。

## II.その他

### 1.ピアサポーター養成研修

おれんじの会 松本氏

【令和3年11月23日(祝) 10時～16:30 会場：コムズ 対面開催】定員10名

この基礎研修修了者を対象に、12月12日に継続研修を行なう。

ピアサポートと病院の連携について済生会今治病院 松岡氏が講義予定。案内を各施設に送っている所以周知をお願いしたい。

### 2.地域相談支援フォーラム in 四国 Web 開催

福島美幸(四国がんセンター)

(徳島県・高知県主催)【令和4年1月22日(土) 13時～17時20分】

講義+グループワーク予定(後日、案内予定)

### 3.地域相談支援フォーラム in 四国 開催について

今後(来年度)の開催について実務担当代表者等で検討する。

4.都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会情報提供・相談支援部会予定

第 17 回 令和 3 年 11 月 26 日オンライン開催（内容については後日国がん HP に掲載  
さ  
れる予定）

5.その他

・（済生会今治病院）

コロナ患者受け入れの影響で緩和ケア病棟を閉鎖していたが 11 月 15 日以降再開する  
予定。

・（おれんじの会 松本氏）

拠点病院の指定要件の見直しが来年度行われる。そのための検討会が厚生労働省で立  
ち上がり今月末から議論が始まる。現在の要件の中で、患者の立場に立った時に実態  
に合っていない物、工夫してほしいところがあれば意見をいただきたい。現状に合っ  
た指定要件の見直しができればと考えている。

・（愛媛県健康増進課）

妊孕性温存療法研究促進事業についての県の動向

令和 4 年度から事業開始するように予算の中に盛り込んで進めていく予定。今後進捗  
状況について情報提供予定。

以上

議事録担当：市立八幡浜総合病院（次回は、四国がんセンター）

## 活動報告書

記載者:篠原 瞳

### I.活動区分

医療者向け研修支援

### II.企画概要

#### 1. 企画名

令和3年度第1回愛媛県がん相談員研修会

#### 2. 主催

愛媛県がん診療連携協議会 がん相談支援専門部会

#### 3. 目的

積極的治療の限界を告げられた患者とその家族の全体像を的確にとらえ多角的な支援について学ぶ

これらの学びを明日からの支援に活かす

#### 4. 日時

令和3年10月23日(土)13:00~16:50(入室12:10~12:50)

#### 5. 対象

がん診療連携拠点・推進病院のがん相談支援センター相談員  
がん相談に従事する相談員(医師、看護師、MSW、心理士等)

#### 6. 場所

Zoomを用いたオンライン研修

(発信ホスト会場)四国がんセンター 患者・家族総合支援センター3階

#### 7. 内容

〈学習目標〉

1. 積極的治療の限界が伝えられた患者とその家族の全体像を理解、アセスメントができ、必要な支援を考える
2. グループワークでより良い相談支援を行うために、日頃の相談支援を振り返り、気づきを得ることができる。

1) オリエンテーション、スタッフ紹介

2) アイスブレイク

3) 講義①「がん相談支援場面で患者・家族を理解する視点」

愛媛大学医学部附属病院 がん看護専門看護師 塩見美幸氏

講義②「積極的治療が限界になった時の患者・家族への支援

愛媛県立中央病院 がん看護専門看護師 武田千津氏

4) グループディスカッション:

- ① からだ・こころ・くらしの観点から全体像を捉え、対象者の課題を挙げる。
- ② 対象者の全体像、課題を見直し、必要な支援を考える。日頃の相談支援の振り返りを行う。
  - ・グループディスカッション①と②で検討する事項を明確にし、各職種における多角的視点から意見交換できるようファシリテーションした。
  - ・各グループにファシリテーターのサポートとしてサブファシリテーターを配置した。
  - ・司会進行はファシリテーターが行い、発表者、タイムキーパー、書記はグループメンバーから選出した。書記はサブファシリテーターが担っても良いこととした。
  - ・ファシリテーターやサブファシリテーターは、発表者の発言の補足や、全体共有での質疑応答がない場合に積極的に質問や意見を述べる。
- 5) 全体共有:各グループ発表と質疑応答
  - ・各グループにおいてからだ、こころ、くらしの観点から対象者の全体像を話し合った。「家庭や仕事を頑張り続けてきた人」、「家族に迷惑をかけずにストレングスのある人」等の意見が上がった。
  - ・課題、支援策としてとして、病状の認識、家族とのコミュニケーション、経済的問題、仕事、制度の情報提供など多くの意見がでたが、まずは治療を長年続けてきた労いの言葉や共感の言葉がけをすることで信頼関係を構築し、本人や家族の意向を言語化することで残された時間の過ごし方を確認していく等の意見があがった。また1度だけの支援ではなく、継続的支援が重要であることを共有した。
  - ・多職種でかかわることで、多角的視点から支援ができる。アセスメントを深めることでより対象者の全体像を把握し、今この場ですべき支援と、もう少し先に行う支援、誰が行ったらよい支援なのかなど整理できると良いとの意見もあった。
  - ・本人と家族の病状認識のギャップから個別の面談を設定することの提案もあがった。
- 6) 振り返り:各グループで日頃の相談支援を振り返った。
- 7) アンケート調査:WEBにて実施。研修会の2日後までに入力を依頼し、参加者21名(回答率100%)回収できた。

### Ⅲ. ワーキングの振り返り会

#### 1. 運営について

- ・当日1名欠席あり。連絡先の電話番号に電話するが、職場の電話番号であった為、連絡つかず。その後、当日メールで欠席連絡があったことが判明した。急遽グループメンバーの変更をした。
- ・メインホストのPCネットワークが落ちた為、急遽別の共同ホストPCを利用した。(回線の早い外部ネットワークと分配器使用をしていた。原因不明)
- ・運営のミスにより、進行中に全員がメインルームからアウトブレイクルームに移動する事態

があった。

・終了時刻 16 時 50 分までの予定だったが、オリエンテーション、講義、全体共有各々で少しずつ超過し、17 時 15 分までの延長となった。受講者には超過する旨声かけを行い了承を得ていた為、全受講者最後まで受講した。

## 2. グループディスカッションについて

・支援について、今できる支援に焦点がいき、長期的支援、支援の優先順位についての話し合いができなかった。

⇒「講義②を聞いて新しく気が付いたことはありましたか」などファシリから言葉かけをすると議論が深まる場合がある。

・各グループに看護師、MSW、心理士の多職種でメンバー構成できたため、多角的視点からお互いに気づきを与える話し合いができた。

・記録について、発表の際には記録があった方が整理もでき、皆に伝わりやすいとの意見あり。

・記録者は記録に追われてしまう点でグループディスカッションに十分な参加が難しいと思われたが、逆に記録をとりながらの方が整理できるという受講者もいた。

・記録者(受講者)が職種の強みも引き出しつつ、共有しながら記録した。記録者(受講者)の力量や記録の仕方もディスカッションの流れに大きく影響すると思われる。

・サブファシリテーターが記録をした場合、言語化やアセスメント、課題等の表現をサブファシリテーターがリードして行ってしまうことになるがそれで良いのか。

⇒記録の取り方については今後検討が必要と思われる。

・グループディスカッション①で、「からだ、こころ、くらしのあてはめ作業にならない」ことにこだわりすぎてしまい、アセスメントを深めるような話し合いができていなかった。

⇒各職種の強みを引き出すようにしてみようか。

・グループメンバーを変更したグループもあったが特に問題なく、スムーズにグループディスカッションに移ることができた。

・今回、愛媛県ではオンライン初となるグループディスカッションを含む研修会であり、ファシリテーターの負担が大きかった。⇒次回はファシリテーターが困ったときに参考になる文言などをもう少し具体的に入れ込んだファシリテーターマニュアルを作成する。

・県外の参加者もなごみムードで居心地よく参加してくれていた印象である。

・タブレットの参加者がおり、記録の入力ができないとのことだった。

・たまたまがん化学療法認定看護師2名を含むグループあり。メンバーの感性が良かった為、有意義な話し合いができた。

## IV. アンケート調査集計 ※添付資料参照

### 1. 参加者背景

・県内 57.1%、県外 42.9%

・看護師 28.1%、MSW47.6%、臨床心理士 19%、精神保健福祉士 9.5%

- ・認定がん専門相談員 28.6%
- ・参加理由として「テーマに興味があった」が 95.2%で最も多く、「自己研鑽」85.7%、「職務上必要と感じた」が 61.9%「認定がん専門相談員の認定取得」57.1%だった。

## 2. 研修目的の理解・満足度

- ・講義①「がん相談支援場面で患者・家族を理解する視点」の理解度  
「とても理解できた」52.4%、「理解できた」47.6%
- ・講義②積極的治療が限界になった時の患者・家族への支援  
「とても理解できた」52.4%、「理解できた」47.6%
- ・本日の研修内容の満足度について  
「大変満足した」66.7%、「満足した」33.3%

## 3. 今後の取り上げてほしい研修テーマ

- ・意思決定支援
- ・がん相談支援のプロセス
- ・AYA 世代の支援
- ・生活困窮者の支援

## V. 今後の展望

今年度 1 回の研修会は「積極的治療の限界を告げられたがん患者・家族の支援」をテーマに、愛媛県では初めてのオンライン研修での事例検討、グループディスカッションを含めた研修会を行った。

県外からも数多く参加していただき、オンライン研修ならではの他県相談員との交流も深めつつ、活発な意見交換を行うことができた。また今回の研修では心理士の参加が多く、看護師、MSW を含めた多職種の視点から各職種の強みを生かした支援方法を検討していくことができた。

今回の研修でオンライン研修会のメリット、デメリット、運営やグループディスカッションにおける記録等課題も挙げた。来年度、オンライン研修になるか集合研修になるかは未定だが、課題における改善策を検討し、がん相談員の質向上を目指したより有意義な研修会を実施していきたい。

がんサポートブックえひめ改訂検討会 議事録

作成日：2021年12月28日

日時	2021年12月17日（金）14:00～17:00	司会	大西
場所	Zoom を利用したオンライン会議	書記	高木
参加者	愛媛県庁健康推進課：三宅 愛媛大学医学部附属病院：小野 済生会松山病院：藤原 四国中央病院：高木 市立宇和島病院：沼田 住友別子病院：山地 松山市民病院：三谷	愛媛県立中央病院：渋谷、井上、外山 済生会今治病院：松岡、斉藤 四国がんセンター：大西、福島 十全総合病院：向井 市立八幡浜病院：高橋 HITO 病院：守屋 松山赤十字病院：三好	50 音順
協議内容	<p>1. 改訂版全体について</p> <p><b>サポートブック P3～最終ページまでの見出し文字について</b></p> <p>白抜き文字だと見えにくいとの意見があった。文字か背景色を濃くしてはどうか。 →多数決の結果、見出し文字を影ありの白抜き文字とし、背景色は従来通りの淡色とする。</p> <p><b>表紙のデザインについて</b></p> <p>階段式の名残である見出しタイトルを削除し、改訂ごとに表紙の色を変えてはどうか。 →多数決により、階段式の見出しを削除する。色の変更はなし。</p> <p><b>目次タイトル案について</b></p> <p>第1回の会議にて「〇〇したい」とタイトル統一してはどうかと意見があった。 内容により、できる所とできない所がある。統一するのは難しいとの意見あり。 ショックを受けていたり、辛い気持ちのなか冊子を手にする方もいると思う。〇〇したいで揃えるよりも、シンプルでわかりやすい方がいいと思う。 →項目タイトルは、項目ごとに分かりやすい言葉で表記する。</p> <p>2. 各項目について意見交換</p> <p><b>はじめに（編集担当；四国がんセンター）</b></p> <p>第3版は、困りごとを抱えている人のイラストを使用していたが、他県の冊子では空や海、花など和やかさ、安心感を与えるイラストを使用しているところもある。 段落間隔が広く、読みにくい。 →段落間隔を詰める。空いたスペースは「みきゃん」等のイラストを挿入する。</p> <p><b>1. えひめのがん医療</b></p> <p><b>○がん診療連携拠点病院・推進病院</b></p> <p>タイトル変更なし。愛媛大学病院名が途切れており修正。</p> <p><b>○がん相談支援センター</b></p> <p>タイトル、内容変更なし。現在公認心理士もいるが、「心理療法士等」で統一。 済生会松山病院の対応時間について第1・3土曜日の12:00を12:30までに修正。</p>		

## 2.がんと向き合う

### ○正しい情報をおつめましょう

タイトル変更なし。文章構成・イラスト変更点なし。

### ○参考になるサイトや冊子

「がんと診断されて間もないための冊子」は来年3月頃発行予定。発行されたら掲載する。

### ○セカンドオピニオン

タイトル変更なし。文章構成・イラスト変更点なし。

### ○痛みやつらさを和らげたい～緩和ケア（編集担当；済生会今治病院・HITO 病院）

治療中でも緩和ケアが受けられることを強調したいので、「治療中につらい症状があれば…」と記載してはどうかと意見があったが、全ての患者さんが治療を受けているわけではないので、「少しでもつらい症状があれば、いつでも主治医やがん相談センターに相談ください」に変更する。

緩和ケア病棟の説明文内の「おかけりの病院」を「かかりつけの病院」に変更。

HITO 病院の連絡先を「0896-29-5320」に変更。

掲載イラストは、HITO 病院広報部オリジナルのイラストで使用許可済。

掲載写真は済生会今治病院の病室画像で使用許可済。

### ○がんゲノム医療とは（編集担当；愛媛県立中央病院）

ページ内イラストはフリー画像使用。

松山赤十字病院の連絡先「089-926-9516」から「089-926-9630」へ変更。

「愛媛大学医学部附属病院」を「愛媛大学医学部附属病院」へ変更。

### ○妊孕性について（編集担当；愛媛大学医学部附属病院）

「がん治療の影響によって妊孕性が失われたり～あります」を「妊孕性が低下したり失われたりすることがあります」と変更。

EON 図内の行政の取り組み「里親・養子縁組制度」について、妊孕性のページに掲載されるのは違和感があると感じる人もいるのではないかと。

愛媛県より代替案の提示あり。来年度「妊孕性温存助成制度」を開始できるよう予算の折衝中。行政の取り組みの里親養子縁組制度の文言を残すかどうかは別途議論が必要だが、助成制度の予算がとれれば「妊孕性温存にかかる助成制度」として文言を追加してはどうか。県でION図の修正案を検討し四国がんセンターへメールする。

愛媛大学がん・生殖医療相談外来の外来曜日について、原則金曜日のみとなっているが、他の曜日も可能か。また相談費用は税込価格か確認し四国がんセンターへメールする。

## 3.自分らしい療養生活を考える

### ○治療を受けながら働きたい（編集担当；市立宇和島病院）

内容は第3版からの踏襲ではあるが、退職のネガティブなイメージが印象に残る。治療と就労の両立支援も行っているため、もう少し前向きなメッセージが必要ではないかと。

イラスト吹き出し欄の「みんなにどう思われるんだろうか」は「会社に迷惑をかけないだろうか」と似た意味なので削除。

「一度辞めれば再就職は容易ではありません」を「一人で結論を急がず、まずは相談しま

しょう」へ変更する。

相談先一覧表内の追加、修正。

愛媛県立中央病院：情報追加。就労支援コーディネーターによる就労相談。毎週月～金：  
8:30～17:00

済生会今治病院：月1回（予約制）時間 11:00～15:00 を追加

愛媛大学医学部附属病院：（予約制）を追加

松山市民病院：情報追加。ハローワーク松山就労支援ナビゲータによる就労相談。第三木  
曜日 10:00～15:00

○外見ケアについて（編集担当；松山赤十字病院）

タイトルを外見ケア（アピアランスケア）に変更とする。

文章内「人からどう見られているのか気になったり」を「人からどう見られているのか気  
になり」に変更。

購入費助成制度があるのは西条市だけなので西条市と明記してはどうかという意見があっ  
たが、変更なく「お住いの市町にご確認下さい」とする。

アピアランスケア用品の展示・相談実施施設 一覧表内の追加、修正

「開催日・連絡先」としたことでアピアランスケアの相談会の開催日を記載した施設や問  
い合わせ先を記載した施設があったため「問合せ先・連絡先」へ変更し記載内容を統一。  
一覧表内の追加、修正点

県立中央病院；「コロナ禍のため」を削除。「ウィッグの試着可○」を削除。

「補正下着」を「補整下着」に変更。

HITO 病院；「化学療法室」→「外来化学療法室」へ変更。

問合せ先について、各病院で再確認し、年内までに四国がんセンターへメールする。

○住み慣れた自宅で生活するために（編集担当；十全総合病院、住友別子病院）

第3版と大きな変更点なし。「若年がん患者在宅療養支援事業」を追加した。

文章内「主治医とかかりつけ医などが」を「今かかっている病院の主治医と在宅医」へ変  
更。「おかかりの病院～」を「かかりつけの病院」へ変更。

「在宅緩和ケアコーディネーター」について。西予市、新居浜市も来年度の整備にむけて  
準備中。この冊子発行時点で他の地区同等に体制が整っているかは不透明なため「他地区  
でも準備中です」と記載するにとどめる。

参照情報として「愛媛県在宅緩和ケア推進協議会サイト参照」と追加。

制度・サービス欄 訪問診療・訪問看護の説明文について。「医療的処置が必要な」を「医  
療的処置を含めて」に変更。

緩和ケアからこの項目を参照しやすいように、緩和ケアのページに「P13 参照」と追加。

参考になるサイト欄「愛媛県在宅緩和ケア推進協議会」運営を愛媛県に修正。

○療養中の上手な食事のとり方（編集担当；済生会松山病院）

文字ばかりなのでみきゃんのイラストを入れる。

○家族と一緒に過ごしたい（編集担当；市立八幡浜総合病院）

保育所の「一時預かり」を「保育所への一時預け」に変更。

タイトル「家族と一緒に過ごしたい」と本文の内容とあっていないのではないかという意

	<p>見あり。家族がいない方も増えているため「家族」に限定しないでもよいのではないか。 タイトル「家族と一緒に過ごしたい」から「患者さんを支える方のために」に変更。</p> <p>○同じ経験をもつ人と話をしてみたい（患者サロン、患者会）（編集担当；オレンジの会） 「孤独感が緩和されたり」を「緩和されることがあります」に変更。 「知恵や工夫を知ることができます」を「知恵や工夫を共有することができます」に変更。 サロン写真が未提出の施設、写真の修整・再提出がある場合は年内に四国がんセンターまで提出する。</p> <p><b>4.気になるお金のこと</b></p> <p>○医療費の負担を減らしたい、療養生活で役立つ制度を知りたい（編集担当；松山市民病院） 肝がん・重度肝硬変医療費助成事業と、アスベスト関連の制度情報を追加した。 文字量が多いため、みきゃんのイラストを挿入する。 身体障害者手帳に「人工肛門の手術や喉頭摘出手術を受けた方も対象になります」を追加。 「おかかりの医療機関のがん相談支援センター」を「お近くの～」に変更。</p> <p>○愛媛県内の保健所、ねんきん事務所（編集担当；四国中央病院） 変更ないが、念の為、愛媛県三宅様にチェックしていただく。</p> <p>3. がんサポートブック発行時期について 年度内に内容を決定し来年度発行予定。各施設に購入いただくことになるが、購入予算は来年度で予定いただくようお願いします。 金額が決まったら後日お知らせします。</p> <p>4. がんサポートブックの配布方法について 2021年11月26日都道府県診療連携拠点病院連絡協議会の中で、地域の療養冊子の配布方法について提言があった。 がんと診断されて間もない方のための冊子と併せて地域の療養情報冊子を、できれば主治医から渡せる体制づくりを進めるよう提言があった。積極的に患者さんに渡せるような体制づくりをする方向になることを情報共有した。</p>
配布資料	<p>資料1) がんサポートブックえひめ第4版改訂案 資料2) 都道府県診療連携拠点病院連絡協議会第17回情報提供・相談支援部会より抜粋</p>

議事録担当：四国中央病院



愛媛県イメージアップキャラクター  
みぎやん 《新装版》1-2601004

患者必携  
地域の  
療養情報

第4版

## はじめに

病名を告げられた時、ショックを受け、気持ちが動揺するのも無理はありません。

そんなときは一人で抱え込まず家族や友人、がん相談支援センターに相談し、ゆっくり気持ちを整理しましょう。

この「がんサポートブックえひめ」は、がんと向き合うときに必要な情報にたどり着くためのガイドブックです。

不安や悩みを相談できる窓口や、生活・療養に関すること、支援制度など活用できる情報をまとめています。

療養中の患者さんやご家族、支える方々に少しでも役立つことができれば幸いです。ぜひご利用ください。



1

## もくじ

### 1. えひめのがん医療

- がん診療連携拠点病院・推進病院 ..... P 3
- がん相談支援センター ..... P 4

### 2. がんと向き合う

- 正しい情報をつめましょう ..... P 5
- 参考になるサイトや冊子 ..... P 6
- セカンドオピニオン ..... P 7
- 痛みやつらさを和らげたい～緩和ケア～ ..... P 8
- がんゲノム医療とは ..... P 9
- 妊孕性について（将来子供を望む方へ） ..... P10

### 3. 自分らしい療養生活を考える

- 治療を受けながら働きたい ..... P11
- 外見ケアについて ..... P12
- 住み慣れた自宅での生活をつづけるために ..... P13
- 在宅療養生活を支える制度、サービス ..... P14
- 療養中の上手な食事のとりかた ..... P15
- 大切なひとたちと過ごすために ..... P16
- 同じ経験をもつ人と話をしてみたい ..... P17

### 4. 気になるお金のこと

- 医療費の負担を減らしたい ..... P19
- 療養生活で役立つ制度を知りたい ..... P20

2

## 1. えひめのがん医療

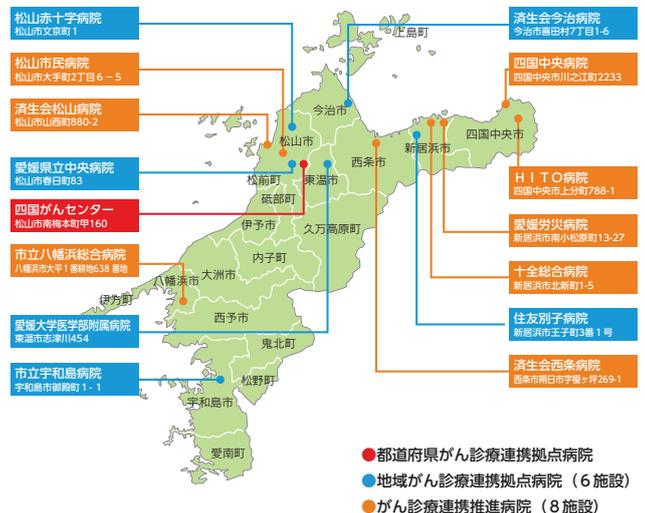
### ● がん診療連携拠点病院・推進病院

#### がん診療連携拠点病院とは ●●

全国どこでも質の高いがん医療が提供できるよう国が指定した病院です。専門的ながん医療の提供や患者さんに対する相談支援・情報提供などを行っています。

#### がん診療連携推進病院とは ●

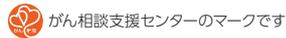
がん診療連携拠点病院と連携しながら、専門的ながん医療の提供や地域のがん診療の連携協力体制の構築などの役割を担っています。愛媛県が独自に指定した病院です。



3

## 2. がん向き合う

### ●がん相談支援センター



がん診療連携拠点病院・推進病院に設置されている「がんに関する相談窓口」です。医療ソーシャルワーカー、看護師、心理療法士等、さまざまな職種がお答えします。ほかの病院にかかっている方でも、どなたでもご相談いただけます。お気軽にご相談ください。相談料は無料です。

	病院名・相談窓口名	対応時間	電話
がん診療連携拠点病院	四国がんセンター 「がん相談支援センター」	平日 8:30～17:15	089-999-1114
	住友別子病院 「相談支援センター」	平日 8:30～17:30	0897-37-7133
	済生会今治病院 「総合医療支援室」	平日 8:30～17:00 第1・3・5土 8:30～12:30	0898-47-6048
	愛媛大学医学部附属病院 「総合診療サポートセンター」	平日 8:30～17:00	089-960-5918 089-960-5261
	松山赤十字病院 「がん相談支援センター」	平日 9:00～16:00	089-926-9630
	愛媛県立中央病院 「地域医療連携室」	平日 8:30～17:15	089-947-1165
	市立宇和島病院 「がん相談支援センター」	平日 9:00～16:30	0895-25-1111(代)
	四国中央病院 「患者相談支援室」	平日 8:30～17:15	0896-58-2118
がん診療連携推進病院	HITO病院 「がん相談支援センター」	平日 9:00～17:00 第1・3・5土 9:00～12:00	0896-29-5320
	愛媛労災病院 「地域医療連携室」	平日 8:30～17:00	0897-33-6199
	十全総合病院 「入退院支援センター」	平日 8:45～17:30 第1・3・5土 8:45～12:30	0897-33-1818(代)
	済生会西条病院 「社会福祉課」	平日 8:30～17:00 第1・3土 8:30～12:30	0897-55-5392
	松山市民病院 「地域医療連携室」	平日 8:30～16:30 土 8:30～12:00	089-913-0081
	済生会松山病院 「地域医療連携室」がん相談支援センター	平日 8:30～17:00 第1・3土 8:30～12:30	089-951-6111
	市立八幡浜総合病院 「地域医療連携室」	平日 8:30～17:15	0894-24-2568

4

### ●正しい情報をおつめしましょう

がんに対する不安を少なくし、納得のいく治療を受けるために、情報を集めて正しい知識を持つことは大切です。さまざまな情報があふれている中、情報をさがすときのポイントをおさえておきましょう。

#### ～がん情報をさがすときの5つのポイント～

##### ○今、必要な情報は何か、考える

状況によって、必要となる情報はさまざまです。あなたにとって、いま必要な情報は何か、考えてみましょう。メモに書き出すことで、頭の中を整理し、人に伝えることのきっかけとなり、情報のありかを探すことにつながるかもしれません。

##### ○インターネットを活用する

インターネットを活用すると、たくさんの情報を簡単に入手できます。自分で使えなければ家族など周囲の人に調べてもらいましょう。

##### ○がん相談支援センターを利用する

情報の探し方がわからないときには、がん診療連携拠点病院のがん相談支援センターを利用してみましょう。相談員と話すうちに、問題が整理できることもあります。

##### ○信頼できる情報が、考える

情報の正しさと、その情報が自分に当てはまるかどうかを判断するときには、情報の信頼性が大切です。複数の情報を照らし合わせ、担当医に確認して判断しましょう。健康食品やサプリメントなどの補完代替療法のうち、がんへの効果が証明されたものはありません。中には有害なものもありますので注意しましょう。

##### ○行動する前に、周囲の意見を聞く

得られた情報をもとに行動する前に、担当医や家族、また患者仲間などに意見を求めましょう。あなたの判断の助けになります。

出典：国立がん研究センター がん情報サービス

5

### ●参考になるサイトや冊子

参考情報	内容	
がん情報サービス 運営：国立がん研究センター	がんに関する基礎知識や治療、生活情報まで、さまざまな情報を網羅したがん情報の総合サイトです。情報さがしはまずこのサイトから。	
がんサポートサイトえひめ 運営：愛媛県がん診療連携協議会	愛媛県内のがん診療連携拠点病院・推進病院の治療実績や治療体制などをまとめた愛媛のがん情報がわかるサイトです。	
がんと診断されたあなたに知ってほしいこと 発行：国立がん研究センター	診断されて間もない方が、治療に臨むために知っておくといふ情報がまとめられています。がん相談支援センターで入手または、がん情報サービスから閲覧・印刷できます。	
各種がんシリーズ 発行：国立がん研究センター	病種ごとに、診療の流れや標準的な治療法をまとめた冊子です。がん相談支援センターで入手または、がん情報サービスから閲覧・印刷できます。	
患者必携 がんになったら手に取るガイド	がんに関する悩みや困りごとの解消のヒントをまとめた冊子です。書店等で購入または、がん情報サービスから閲覧・印刷もできます。	
別冊：私の療養手帳 発行：国立がん研究センター	がんになったら手に取るガイドの別冊付録です。診断、治療の段階ごとに大事なことを書き留めて整理することができます。	
みんなの質問ノート ～がん向き合うときに聞いておきたいこと 発行：NPO法人おれんじの会	医療者に質問するときのポイントや具体的な質問の仕方を例示して紹介しています。がん相談支援センターで入手できます。	
家族必携 ～あなたの大切な人を支えるために 発行：NPO法人おれんじの会	“第二の患者”といわれるご家族のための情報をまとめた冊子です。がん相談支援センターで入手できます。	

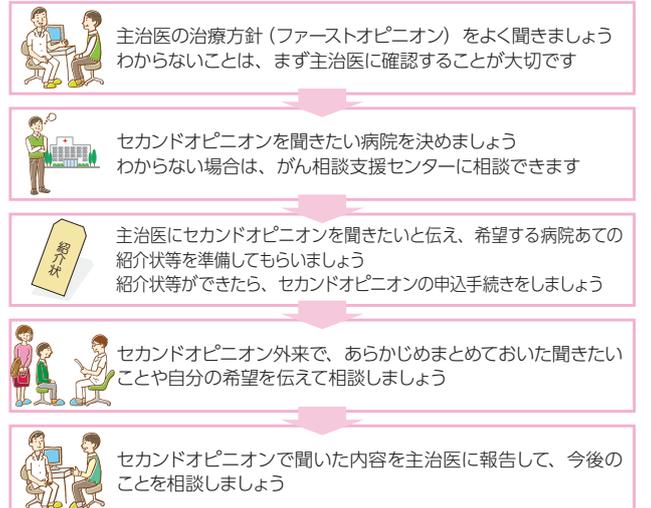
6

### ●セカンドオピニオン

主治医の治療方針を十分に理解したうえで、別の病院の医師に「第二の意見」を求めることがセカンドオピニオンです。セカンドオピニオンを聞き、主治医と同じ意見であれば、理解がより深まり、納得して治療に取り組むことができます。一方、別の治療方針が提案された場合は、選択の幅が広がります。セカンドオピニオンを聞いた後、再度主治医とよく話しあいましょう。

※セカンドオピニオンは病院をかわるものではありません。  
※主治医から提供される診療情報の範囲内で相談します。新たな検査や治療は行いません。  
※費用は保険適用外で病院によって異なります。県内では5,000～20,000円程度です。

#### セカンドオピニオンを受ける時の流れ



7

●痛みやつらさを和らげたい～緩和ケア～

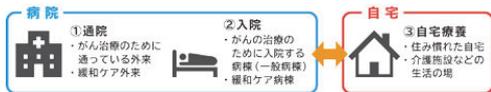
緩和ケアの治療について

病気や治療の影響で痛み、吐き気、だるさなどの症状、こころのつらさなどを感じることがあります。  
がんと診断された時から「患者さんの生活のしやすさ」に焦点を当て、心身の苦しみを和らげていくこと全てが緩和ケアになります。少しでもつらい症状があれば、いつでも主治医やがん相談支援センターに相談ください。  
医師・看護師をはじめ各専門スタッフが生活や仕事のしづらさを改善できるように一緒に考えます。

参考情報	内容	QRコード
緩和ケア.net 運営：日本緩和医療学会	緩和ケアについて基礎知識を学ぶことができます。	

緩和ケア治療を受けられる場所

病院（通院・入院）だけでなく、自宅や居住施設等、住み慣れた場所で訪問診療・訪問看護などを利用し緩和ケアを受けることができます。(P13～P14参照)



緩和ケア病棟

緩和ケアを専門に行う入院施設です。症状が緩和され体調が落ち着いたら退院することもできます。かかりつけの病院に緩和ケア病棟がない場合は、希望により緩和ケア病棟のある病院に入院・転院の相談をすることもできます。愛媛県内には以下の病院に緩和ケア病棟があります。

四国がんセンター	松山市	089-999-1114	
松山パテル病院	松山市	089-996-6430	
済生会今治病院	今治市	0898-47-6048	
住友別子病院	新居浜市	0897-37-7133	
西条愛寿会病院	西条市	0897-55-2300	
HITO病院	四国中央市	0896-29-5320	

\*入院基準や面会等は各病院で異なります

●がんゲノム医療とは



ゲノムとは？  
遺伝子と染色体から合成された言葉で、染色体に含まれるすべての遺伝子と遺伝情報のことです

がんの組織や血液を用いて、多数の遺伝子を同時に調べられる「がん遺伝子パネル検査」で、がんに関わる遺伝子変異\*を特定し、1人1人の体質や病気のタイプに合わせて治療を行う医療です。\*細胞中の遺伝子の後天的な変化や生まれもった遺伝子の違い  
がん遺伝子パネル検査の結果、遺伝子変異が見つかり、それに適した薬があれば、臨床試験などで薬の使用を検討でき、新たな治療法の開発などにつながる可能性があります。  
ただし遺伝子変異が見つからない場合もあります。遺伝子変異が見つかって自分にも自分に合う薬の使用に結びつく人は全体の10%程度といわれています。  
がんゲノム医療を受けたいときは主治医とよく相談しましょう。



がん遺伝子パネル検査の対象、費用について

希少がんや原発不明がん、標準治療が効かなくなった再発・進行した固形がんの患者さんが対象です。全身状態の条件もあります。条件をみれば検査費用は健康保険が適用されます。

がん遺伝子パネル検査を受けられる病院

厚生労働省より指定された「がんゲノム医療中核拠点病院」「がんゲノム医療拠点病院」「がんゲノム医療連携病院」で受けられます。愛媛県内では以下の病院で検査が受けられます。

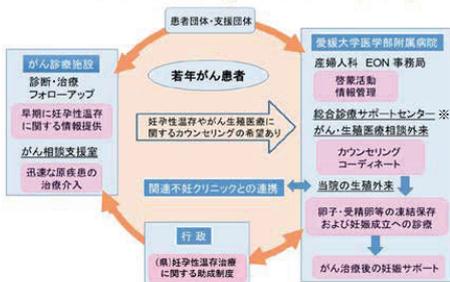
がんゲノム医療拠点病院	四国がんセンター	089-999-1114
	愛媛大学医学部附属病院	089-960-5918
がんゲノム医療連携病院	愛媛県立中央病院	089-947-1111
	松山赤十字病院	089-926-9630

●妊孕性について（将来子供を望むかたへ）

妊孕性（にんようせい）とは「妊娠する力」のことを意味します。がん治療の影響によって妊孕性が失われたり、低下したりすることがあります。妊孕性を残す方法として、生殖補助医療を用いた妊孕性温存方法があります。

2018年より『愛媛県がん・生殖医療ネットワーク』が始まりました。この診療ネットワークは、がん治療を実施する病院と、高度生殖補助医療実施施設（体外受精や卵子や精子、受精卵の凍結保存を行う病院）が連携して治療を行えるように協力しています。

愛媛県がん生殖医療ネットワーク  
Ehime Oncofertility Network (EON)



\*愛媛大学医学部附属病院【がん・生殖医療相談外来】

若年がん患者さんの相談窓口として、カウンセリングならびに妊孕性、生殖機能を温存する方法の提案・受精卵や精子の凍結保存を行っています。卵巣組織や未受精卵の凍結も実施可能です。  
相談をご希望の方は紹介状が必要です。主治医に相談しましょう。  
【外来日】原則として毎週金曜日 午後2時～（祝日は除く）  
【費用】60分まで5,000円、60分以上10,000円（税抜き・自費診療）

3. 自分らしい療養生活を考える

●治療を受けながら働きたい

がんになって仕事を続けるか辞めるかの決断は、本人の価値観や「生活の質（QOL）」に大きく関わる難しい問題です。一人で結論をいそがず、まずは相談しましょう。



治療しながら仕事を続けられるのだろうか  
体力がついていけるだろうか  
会社に迷惑をかけないだろうか  
辞めさせられるんじゃないか

治療と仕事について「がん相談支援センター」に相談することができます。また就労支援の専門家による以下のような取り組みをしている病院等もあります。いずれも相談料は無料です。

施設名	取り組み内容	開催日時
四国がんセンター	愛媛産業保健総合支援センター両立支援促進員(社会保険労務士)による就労相談 ハローワーク松山就職支援ナビゲーターによる就職相談	第1金曜 第3水曜 (予約制) 10:00～13:00 毎週水曜 (予約制) 10:00～15:00
愛媛大学医学部附属病院	社会保険労務士による就労相談	毎週水曜 (予約制) 9:00～15:00
愛媛県立中央病院	愛媛産業保健総合支援センター両立支援促進員(社会保険労務士)による就労相談	月～金曜 (予約制) 11:30～17:00
松山赤十字病院	キャリアコンサルタントによる就労支援相談	毎月第4金曜 10:00～12:30
松山市民病院	ハローワーク松山就職支援ナビゲーターによる就職相談	第3木曜 10:00～15:00
済生会今治病院	社会保険労務士またはキャリアコンサルタントによる相談支援	月1回 (予約制) 11:00～15:00
愛媛労災病院	ハローワーク新居浜就職支援ナビゲーターによる就職相談	毎週月曜日 10:00～15:00
市立宇和島病院	キャリアコンサルタントによる就労支援相談	第4木曜 11:00～15:00
町なかサロン	キャリアコンサルタントによる就労支援相談	毎月第3日曜 平日13:00～15:00
愛媛産業保健総合支援センター	治療と仕事の両立支援電話相談 089-915-1911 (社会保険労務士の対応は要予約)	平日8:30～17:15

### ●外見ケアについて(アピランスケア)

治療によって脱毛、肌荒れ、爪の変化など、外見の変化が起こることがあり、人からどう見られているのかが気になり、外出を控えてしまうなど悩むこともあると思います。外見ケア(アピランスケア)は、単に外見を美しくするのではなく、その人らしく生きることをサポートし、社会と繋ごうというものです。

もし、外見の変化により辛い思いをしている場合は、がん相談支援センターにご相談ください。対応方法などを一緒に考えます。

※ウィッグや補整具の購入費助成を行っている自治体もあります。お住いの市町にご確認下さい。

#### 【アピランスケア用品の展示・相談実施施設】

施設名 展示場所	問い合わせ先	ウィッグ 展示	補整下着 展示	自由記載
四国がんセンター 患者・家族総合支援センター暖だん /院内美容室	平日9:00~16:00 ※急病相談支援センター暖だん 089-999-1299	○ 試着可	○	人工乳房・乳首・パッド等の展示あり。ウィッグ・補整下着のメーカーアドバイザー定期訪問あり。
愛媛大学医学部附属病院 がん相談支援センター・総合診療サポ ートセンター/院内美容室	平日9:00~17:00 089-960-5261 089-960-5918	○ 試着可	×	ウィッグの無料レンタル不可。施設し使用できない時間ありスタッフへの声掛け要。
愛媛県立中央病院 外来化学療法室	平日9:00~17:00 がん相談支援センター 089-947-1165	○ 試着可	×	補整下着はサンプルが病棟にあり。院内コンビニで販売あり。
松山赤十字病院 がん相談支援センター/ 化学療法センター/院内美容室	平日9:00~16:00 がん相談支援センター 089-926-9630	○ 試着可	×	ケアパンフレット、ウィッグマップあり。補整下着、帽子は院内販売あり。
市立宇和島病院 化学療法室/院内ヘアサロン	平日9:00~16:30 がん相談支援センター 0899-25-1111(代表)	○ 試着可	×	ウィッグの展示・試着、カタログあり。補整下着のカタログあり。相談対応可能。
住友別子病院 相談支援センター/外来・化学療法セン ター/病棟	平日8:30~17:30 相談支援センター 0897-37-7133	○ 試着可	×	補整下着の試着は病後病棟で希望者に対応しています。定期的にウィッグアドバイザーの訪問があります。
愛媛労災病院 医療相談室	平日9:00~17:00 地域医療連携室 0897-33-6199	○ 試着可	×	ウィッグ、補整下着のパンフレットがご用意です。ケア帽子、ケアキャップを展示、売店で販売しております。
済生会今治病院 外来化学療法室	平日8:30~17:00 0898-47-6048	○ 試着可	×	希望者は事前連絡要。ケア帽子展示あり
済生会松山病院 外来化学療法室/院内売店	平日8:30~17:00 089-951-6111	○ 試着可	×	化学療法室にパンフレットあり。売店でケア帽子・ケアキャップ販売
HITO病院 外来化学療法室/院内売店	平日9:00~17:00 第1・3・5土9:00~12:00 0896-29-5320	化学療法室、サポートセンターにパンフレットあり。売店でケア帽子・ケアキャップ販売。毛付き帽子ラビスは注文販売		
市立八幡浜総合病院 外来化学療法室	月火水9:00~16:00 0894-24-2568	外来化学療法室にパンフレットとウィッグ・補整下着カタログあり。必要時がん化学療法看護認定看護師が相談対応。		
十全総合病院 入院支援センター	平日8:45~17:30 第1・3・5土8:45~12:30 0897-33-1818 (TEL)	商品展示はないがサンプル品の試着可能。パンフレットを用いたの情報提供は可能。		
NPO法人愛媛がんサポート おれんじの 町なかサロン	平日10:00~16:00 089-997-7638	ウィッグの無料レンタル可能。 (できれば事前予約をお願いします)		

12

### ●住み慣れた自宅での生活をつづけるために

がんになってもあなたらしく暮らせるよう、住み慣れた自宅での療養生活を支えてくれる医療スタッフや福祉サービスがあります。在宅での治療や療養生活に移行する場合、今かかっている病院の主治医と在宅医などが患者さんの情報を共有し、連携しながら患者さんやご家族を支えます。

お住まいの地域によっては在宅緩和ケアコーディネーター\*が地域の医療機関などの連携調整を行います。(愛媛県在宅緩和ケア推進協議会サイト参照)

かかりつけの病院の医療スタッフやがん相談支援センターにご相談ください。お住まいの地域に合わせて、自宅療養を支える体制を一緒に考えます。

※在宅緩和ケアコーディネーターとは  
大洲、八幡浜、宇和島、今治、西条地区において、がん治療を実施する病院と地域の在宅医、訪問看護師、ケアマネジャーなどと連携を図り、療養生活をサポートしてくれる人です。(※他地区においても準備中です)

親子でこんなに沢山話ができ、一緒に過ごす事が初めて出来ました。(70代患者の子供)



大きな医療機関と地域の診療所が連携してくれて自宅療養ができました。とても安心して自宅で過ごせています。(50代患者)

13

### ●在宅療養生活を支える制度、サービス

介護保険	在宅療養で、身の回りの世話や入浴の介助、ベッドや車イスなどの福祉用具が必要になった時、介護保険認定を申請できます。40歳以上の方で介護保険の認定を受けると、介護度に応じて介護サービスを総費用の1~3割の自己負担で利用することができます。
若年がん患者在宅療養支援事業	20歳以上40歳未満の患者さんで、助成対象に該当する方は介護サービスや福祉用具利用など、在宅療養に必要な費用の一部助成が受けられます。※一部実施していない市町もあります。
訪問診療 訪問看護	痛みのコントロールや点滴などの医療的処置を含めて、医師や看護師がご自宅まで訪問し療養生活を支援してくれます。病院の主治医とも連絡を取り合ってくれるので安心です。
訪問リハビリテーション	理学療法士や作業療法士などがご自宅に訪問し、日常生活の自立を助けるためのリハビリや、自宅の環境を整えるアドバイスを受けることができます。
民間サービスによるサポート	介護保険などの公的サービスで不足する部分を補うことができます。車イスやストレッチャーのまま移動できる介護タクシーや身の回りの世話や家事援助、食事の宅配などがあります。

14

参考情報	内容	QRコード
えひめ医療情報ネット 運営:愛媛県	愛媛県内の医療機関を探すことができます	
愛媛県在宅緩和ケア推進協議会 運営:愛媛県	愛媛県内の在宅緩和ケア推進地域の在宅医療、療養サポート情報を検索できます	
介護サービス情報公表システム 運営:厚生労働省	介護保険サービスを提供している事業所やサービス内容などの検索ができます	

### ●療養中の上手な食事のとりかた

食事は「楽しく、おいしく」が基本です。がんばりすぎず「食べられそうなときに」「食べられるもの」から食べましょう。食べる時間や量、栄養バランスを守ること、あまり神経質にならなくても大丈夫です。医師から特別な指示があるとき以外は、無理をしないで体調に合わせて食事をとりましょう。市販の栄養補助食品や配食サービスなどを利用したり、食べやすい献立や調理方法など栄養士に相談したりするのもよいでしょう。体に良いものをとりたて、病気に悪いものを避けたいと思うあまり、特定の食品ばかり摂取したり、避けたりする極端な食事療法はお勧めできません。食事の内容によってがんが進行したり、治療経過に影響したりすることはほとんどありません。バランスのよい食事を心がけましょう。



#### 民間療法について

現代西洋医学ではまだ科学的に検証されていない医療や療法の総称です。氣功や鍼灸などの東洋医学、アロマセラピー、食事療法など多くあります。残念ながら、現時点では「がんが治る」など効果を示したものは1つもありませんが、気分が落ち着き、体調がよくなるなど自分に合うものが見つかることもあります。利用するときは、十分正しい情報を集め、どのように向き合い、利用したら良いのかを冷静によく考えた上で、主治医に事前に相談しましょう。

参考情報	内容	QRコード
統合医療情報発信サイトEJIM 運営:厚生労働省	民間療法をはじめとする相補(補完)代替療法と、どのように向き合い、利用したらよいのかどうかを考えるために、エビデンス(根拠)に基づいた情報を紹介しています。	

15

●大切な人たちと過ごすために

患者さんを支える方のために

がんは患者本人だけでなく、患者さんを支える方にとっても大変つらい体験です。

患者さんを支えることに一生懸命になり、自分自身をいたわることを忘れて心や体の疲れが出ることがあります。

つらい時は1人で抱え込まず周囲に相談してみましょう。サロンに参加したり、がん相談支援センターに相談したりするのもいいでしょう。

子どもへ病気を伝えるとき

『病気のことを子どもに話すべきか』『どう伝えたらいいだろうか』など、子どもへの対応は誰もが悩みを抱えています。

親が病気のことを伝えていなくても、子どもはいつもと違う何かが起こっていることに気づき、不安を感じてしまうこともあります。

子どもの年齢や状況によりますが、事実を共有することでお互いに安心する場合があります。以下のサイトが参考になります。

参考情報	内容	QRコード
ホープツリー 運営：NPO法人Hope Tree	がんになった親をもつ子ども、その患者さんや家族のサポートサイトです。	

子どもの世話をする人がいないとき

外来受診や入院、治療後の療養生活において子育てのサポートも必要です。

子どもの世話ができず面倒をみってくれる人もいない場合、保育所への一時預けやファミリーサポートセンター、入所では児童養護施設、乳児院などの支援制度があります。無理をしないで相談してみましょう。



●同じ経験をもつ人と話をしてみたい～患者サロン、患者会～

病気に向き合うとき、同じ経験をした人と話しをすることで、孤独感が緩和されることがあります。また療養生活を助ける知恵や工夫を共有することが出来ます。いろいろな交流の場を利用するのも、自分らしく病気に向き合うことを助けてくれる一つの方法です。

患者サロン	患者会・家族会
同じ経験をした人同士で交流する場です。患者さん・ご家族等が無料で参加できます。医療関係者、ピアサポーター（患者や家族としての経験があり、一定の研修を受けた人）が中心になって活動しています。	同じ疾患をもつ患者さんが集まる会や、家族の会などがあります。がん診療連携拠点病院などでは「患者・家族会」の活動情報を持っている場合がありますのでお問い合わせください。

＜患者さんの交流の場＞ ※開催日は変更する場合があります。お問い合わせください。

**患者・家族総合支援センター**  (だんだん)

(四国がんセンター内)

☎089-999-1209 月曜～金曜9:00～16:00



暖だんのゆるキャラ  
だんだんちゃん



愛媛県在宅がん医療推進事業により整備された、愛媛県の患者さん・ご家族のための交流や情報収集のためのセンターです。患者サロンや各種イベントの開催、図書コーナーなどがあります。どなたでも自由に無料でご利用できます。

＜地域で開催されているサロン＞

**がんと向き合う人のための町なかサロン**

松山市末広町17-9

運営：NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会

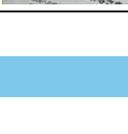
☎089-997-7638 月曜～金曜10:00～15:00



いつでも立ち寄ることができる院外のサロンで、ピアサポーターが対応しています。病気への不安や副作用対策など経験者同士で語り合える場です。週末には部位ごとの集まりや、家族の会、仕事の相談なども実施。若年世代の会「EAYAN (い～やん)」も活動中。愛媛県の補助金を受け運営しています。

＜がん診療連携拠点病院・推進病院で開催されているサロン＞

※開催日時に変更する場合があります。お問い合わせください

四国がんセンター 089-999-1209		愛媛大学 医学部附属病院 089-960-5261	
ひまわりサロン 第3 木曜13:30～15:00		あいほっとふれあいサロン 第2 金曜13:00～14:30	
がん啓発外来棟の上の暖だんカフェ 毎月1回13:30～15:00		あいほっと学びあいサロン 不定期17:00～18:00	
松山赤十字病院 089-926-9630		愛媛県立中央病院 089-947-1165	
クロス・ステーション 第4 金曜14:00～15:30		みきゃんサロン 第2 水曜14:00～14:45	
済生会松山病院 089-951-6111		済生会今治病院 0898-47-6048	
コスモスの会 奇数月第4 木曜13:30～15:00		なでしこサロン 第4 木曜13:30～15:30	
住友別子病院 0897-37-7133		四国中央病院 0896-58-3515 (代表)	
患者サロンさくらの会 第3 金曜14:00～16:00		顔晴れサロン 偶数月第4 金曜14:00～16:00	
愛媛労災病院 0897-33-6191		HITO 病院 0896-29-5320	
あいろんサロン (疾患別) 毎週金曜14:00～15:00		HITO サロン 偶数月第2 月曜14:00～15:00	
市立宇和島病院 0895-25-1111 (代表)		市立八幡浜総合病院 0894-24-2568	
さくらサロン 第4 水曜13:30～15:30		八幡浜おれんじサロン 偶数月第1 金曜13:30～15:00	

4. 気になるお金のこと

●医療費の負担を減らしたい

制度	概要	窓口
高額療養費制度 限度額適用認定証	1カ月間に支払った医療費が自己負担限度額を超えた時、公的医療保険から払い戻される制度です。事前に「限度額適用認定証」を医療機関に提示すると、自己負担限度額までの負担ですみます。	加入している公的医療保険
高額医療・高額介護合算療養費制度	世帯における1年間に支払った医療費と介護費の合計が、所得区分に応じた基準額を超えた場合、申請により戻ってきます。	市町介護保険担当窓口 加入している公的医療保険
ひとり親家庭医療費助成	18歳(障害がある場合は20歳)までの子がいるひとり親家庭の、親と子の医療費負担を軽減する制度です。所得条件があります。	市町ひとり親家庭医療担当窓口
小児慢性特定疾病の医療費助成制度	小児がんを含む特定疾病治療にかかった費用を助成する制度です。所得に応じて一部自己負担金があります。	居住地保健所
肝がん・重度肝硬変治療研修促進事業	B型、C型肝炎ウイルスによる肝がん・重度肝硬変の治療にかかった費用を助成する制度です。所得に応じて一部自己負担金があります。	居住地保健所
労働者災害補償制度	病気の発症が業務に起因するものと認定された場合、医療費や生活補償などのさまざまな給付をうけることができます。	労働基準監督署
石綿健康被害救済制度	石綿による病気を発症した方で労災補償の対象にならない方の救済を目的とした制度です。医療費や療養手当などが支給されます。	居住地保健所 又は (独)環境再生保全機構

●療養生活で役立つ制度を知りたい

制度	概要	窓口
基本手当 (失業給付)	雇用保険の被保険者が離職した場合、条件はありますが求職活動中に経済的な支援を受けることができます。体調により、すぐに働けない場合は受給期間を延長できます。	住所地の職業安定所(ハローワーク)
身体障害者手帳	身体に障害がある方の日常生活の不自由を補うための制度です。 人工肛門の手術や喉頭部摘出手術を受けた方も対象になります。 手帳を提示することで各種控除や福祉サービスが受けられます。	市町の障害福祉担当窓口
重度心身障害者(児)医療費助成制度	心身に重度の障害がある方(概ね身体障害者手帳1・2級)の医療費の負担を軽くする制度です。自治体により条件が異なる場合があります。	市町の障害福祉担当窓口
障害年金	病気や治療で障害が残った方に年金を支給する制度です。 人工肛門の手術や喉頭部摘出手術を受けた方、日常生活や仕事に制限がある場合に受給できることがあります。	障害基礎年金：市町年金窓口 障害厚生年金：年金事務所 障害共済年金：加入共済組合
確定申告による医療費控除	本人または家族が1年間に支払った医療費の合計が一定の金額を越えた場合、申告すれば税金が還付されます。 申告には医療費などの領収証が必要です。	住居地の税務署



20

制度	概要	窓口
生活福祉資金貸付事業	療養に必要な経費や生活費など必要な経費として貸付が受けられます。対象は低所得世帯、障がい者世帯、65歳以上の高齢者の属する世帯等です。	住所地の社会福祉協議会
生活保護制度	治療のため働くことができず、他の制度を活用しても経済的に困難な状況になった場合、申請をすることも選択肢の一つです。制度利用には様々な条件があります。	市町の生活保護担当窓口

ここに挙げた制度以外にも、もしかしら利用できる制度があるかもしれません。お近くのがん相談支援センターまでお気軽にお尋ねください。

★愛媛県内の年金事務所

名称	住所	電話
新居浜年金事務所	新居浜市庄内町1-9-7	0897-35-1300
今治年金事務所	今治市別宮町6-4-5	0898-32-6141
松山東年金事務所	松山市朝生田町1-1-23	089-946-2146
松山西年金事務所	松山市南江戸3-4-8	089-925-5105
宇和島年金事務所	宇和島市天神町4-43	0895-22-5440

★愛媛県内の保健所

名称	住所	電話
四国中央保健所	四国中央市三島宮川4-6-55	0896-23-3360
西条保健所	西条市喜多川1796-1	0897-56-1300
今治保健所	今治市旭町1丁目4-9	0898-23-2500
松山市保健所	松山市萱町6丁目30-5	089-911-1800
中予保健所	松山市北持田町132	089-941-1111
八幡浜保健所	八幡浜市北浜1-3-37	0894-22-4111
宇和島保健所	宇和島市天神町7-1	0895-22-5211

21

患者必携 地域の療養情報  
**がんサポートブックえひめ**  
発行日：2014年3月(第1版)  
2016年3月(第2版)  
2019年3月(第3版)  
2022年4月(第4版)  
編著・発行：愛媛県がん診療連携協議会



愛媛県がん診療連携協議会

「認定がん専門相談員」認定事業におけるⅢ群研修

## 地域相談支援フォーラムin四国

～みんなどうしてる？コロナ禍での相談支援～



## 新型コロナウイルスの感染拡大による相談支援の変化や取り組み事例の共有

01

## 各県の取り組み発表

コロナのために2019年愛媛開催、2020年高知開催が流れ、3年ぶりに四国の皆様とお会いできます。この間に变化したこと、特にコロナ下でどのように相談支援やサロン運営に取り組んでこられたのか、お互いの経験を共有しましょう。

02

## 全国の取り組みから学ぶ

皆さんおなじみの国立がん研究センターの高山智子先生をお招きし、新型コロナウイルスの流行拡大により相談支援の提供方法や患者さん・ご家族にどのような変化が起きたか、全国の状況や取り組み、そしてアフターコロナでのがん相談支援センターの課題等についてお話し頂きます。

03

## 岡山での取り組みから学ぶ

四国のお隣、岡山大学病院 総合患者支援センターの石橋京子先生にもコロナ下での取り組みについてお話し頂きます。オンライン面談、カンファレンスなど、実際に取り組んでこられたことと通じて、現状や課題、今後のことについてお話し頂きます。

2022年1月22(土) 13:00-17:20

開催方法：Web (zoom)

主催：徳島県がん診療連携協議会 高知がん診療連携協議会

後援：国立がん研究センター 愛媛県がん診療連携協議会 香川県がん診療連携協議会

受講対象：がん相談に従事する専門職

※四国以外からの受講にも応じる予定ですが人数制限を行います。

募集人数：40名〔申し込み多数の場合は主催者にて調整をさせていただきます〕

※フォーラム当日はグループワークの準備上、おひとり1台ずつのPCでご参加ください。

申込方法：以下のURLもしくはQRコードにて、施設ごとにとりまとめて申し込みください。

開催概要)

[https://ganjoho.jp/med\\_pro/vod/training\\_tdfk/forum/chugoku\\_shikoku/shikoku\\_20220122.html](https://ganjoho.jp/med_pro/vod/training_tdfk/forum/chugoku_shikoku/shikoku_20220122.html)

申込フォーム)

<https://contact.ganjoho.jp/form/pub/ganjoho/shikoku>

開催概要



申込フォーム



本フォーラムに関する問い合わせ先)

地域相談支援フォーラム in 四国 事務局 (徳島大学病院 がん相談支援センター)

担当：福田 E-mail : fukuda.naoya@tokushima-u.ac.jp

## 令和3年度 地域相談支援フォーラム in 四国「みんなどうしてる?コロナ禍での相談支援」アンケート結果

参加者:49名

修了者:48名

アンケート回答数:41名

### 1. 所属する機関について

[詳細](#)

[Insights](#)

● 都道府県がん診療連携拠点病院	8
● 地域がん診療連携拠点病院	29
● 地域がん診療病院	1
● 都道府県指定がん診療連携推...	3
● その他	0

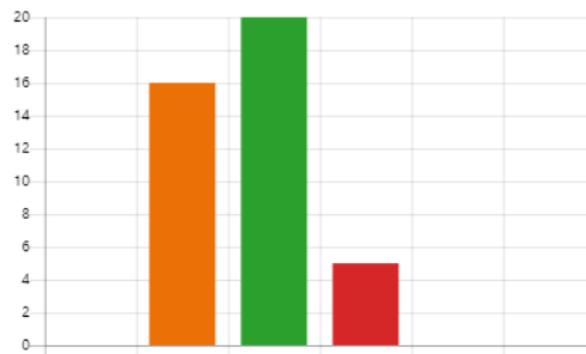


### 2. 職種

[詳細](#)

[Insights](#)

● 医師	0
● 看護師	16
● 医療ソーシャルワーカー(社会福祉士)	20
● 心理士(公認心理士)	5
● 行政担当者	0
● その他	0



### 3. 都道府県

[詳細](#)

● 愛媛県	16
● 香川県	9
● 高知県	4
● 徳島県	5
● 四国ブロック外	7



### 4. ご年齢

[詳細](#)

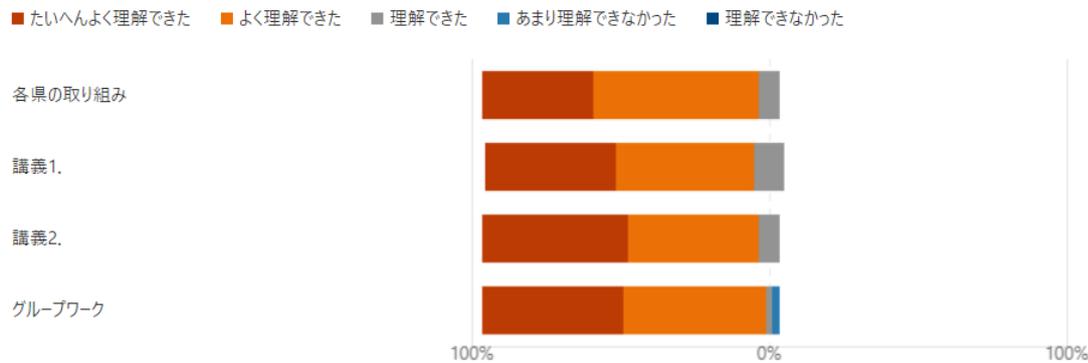
[Insights](#)

● 20歳代	6
● 30歳代	6
● 40歳代	18
● 50歳代	10
● 60歳以上	1



5. 各県の取り組み発表および講義、グループワークについて評価をしてください。

[詳細](#)



6. 講義1.『新型コロナウイルス感染症による患者や家族の苦悩と相談支援への影響～アフターコロナに向けて私たちは、何にどう対応していけばよいのか～』についてのご意見

- アンケート結果から全国的な傾向や意見を知ることができた。新たなコミュニケーションのポイントや積極的に介入していくことなど、相談員としてできること／やれるといいことを、あらためて認識できた。
- アフターコロナに向けた対応について、組織内でどう対応していくかが、次年度の課題であると思いました。
- アンケートに基づいたデータなども交えてご公演いただいていた、とてもわかり易く拝聴させていただきました。われわれががん相談員の今後の目指すものなどを含め大切な示唆をたくさん頂いた気がします。
- コロナ感染第6波の中1波の時をしのげる相談支援に取り組む必要がある。
- コロナ禍による患者の孤立を防ぐために、医療者側が積極的に行動していくことの大切さを学びました。
- アフターコロナを考えた際に想定されることは、コロナ禍でなくとも今後必要になることだと感じた。地域性なども考慮すると、がん相談だけではないが対面式ではない対応も今後は当然になると思われた。様々な場面を想定して検討を重ねたいと改めて感じた。
- 相談件数は減少しているとの報告であったが、複数回利用している方もあるようであり、その状況はどんなのかなと感じました。継続的な支援が必要な方やケースの件数はコロナ前とコロナ後に変化はあるのかな、と思いました。
- 「相談支援センターは社会と1番つながりやすい場所」という言葉が印象的でした。先生のおっしゃる通り、現在の状況に柔軟に向き合い、アイデアを出しあって、より良い患者支援を模索していかなければならないと感じました。ありがとうございました。
- 相談内容や状況の変化についてデータに基づいた説明をいただき、通常の業務で感じる現状の困難さについて、理解を深めることができたと思います。
- アンケート結果を踏まえて、各県の取り組みや課題について講義いただき、大変参考になった。
- 各県の発表内容を踏まえて、より深い内容のお話を聞かせていただいた。患者・家族が孤立しないようにするにはどうしたらいいのか、時代背景も影響する中で、考え、行動を起こし続けていく必要があると感じた。
- 自分自身はコロナによる影響はあまり感じていないのが現状ですが、周りの状況がよくわかり、その対応についてもとても参考になりました。

- 各県の情報や講義内容を聞いてが困難に思っている事は、同じように感じている事がわかった。その中でも、できる事から取り組みを行っていく事の大切さを学んだ
- コロナ感染症の影響により、業務では柔軟な対応が必要となっています。具体例を知り、様々な課題や対応について考えることができ、視野の広がる学びを得ることができました。
- コロナの影響で変化した相談内容、相談支援業務を行う上での課題、アフターコロナへ向けた対応など情報をいただき、考える機会をいただきました。
- 分かりやすかったです
- 情報が氾濫し、正確な情報源をもとに情報提供するために、今後どのように対応すべきか検討したいと思った。
- がん相談の内容にコロナのことが絡んでいる。病院職員として私たちの対応の仕方が変わり混乱しているだけでなく、患者さん自身も受診しづらくなった、経済的問題に陥るなど、改めて感じた。
- 現状だけでなく、コロナ終息後も見据えて動けるように考えなければならない必要性を強く感じました。
- コロナウイルス感染症拡大に鑑み、感染への注意を喚起するあまり、がん検診や常日頃からの「がん」に対する患者・家族の見解が少なからず薄くなっている現状が聞いてとれました。コロナ禍でのがん検診や早期受診を促すためにも、引き続き私たちが周知・啓発・情報発信していく必要があると改めて感じました。
- 患者・家族と医療者、医療者同士の話し合いや情報共有について、コミュニケーションが十分取りにくいことを感じつつも、改善に向けての取り組みがあまりできていなかったが、部署として、病院としての体制など、自分達ができることを工夫して少しずつでも取り組んでいくことが必要だということ学ぶことができました
- ピアサポート、患者サロンの中止、受診控えなど、どこも感染予防が第一となっている状況だということわかりました。できることを少しずつしていくしかないのかなと思いました。
- コロナ禍における相談支援の助言が得られよかった。
- 勉強になりました。ありがとうございました。
- 事例も紹介していただき分かりやすかったです。
- コロナウイルスの流行により、患者・家族だけでなく支援者側にも制限が加わり、これまで当たり前でできていたことが思うようにできなくなったもどかしさやしんどさがありましたが、アフターコロナに向けて今こそ支援者のネットワークを広げておくことが重要と学ぶことができ、勉強になりました。
- アンケート結果が参考になりました。
- がん相談においてコロナ禍での患者の不安が増している（仕事のことや治療継続について・家族との情報共有が困難になっていることなど）が理解できた。また面会制限に伴う患者の家族の不安も強まっていることなど、当院で起こっている状況と似ていると感じた。患者・家族自施設でどのような対策を進めていくか積極的な介入が必要になってくることが理解できた。当院ではオンラインに関して全く進んでいない状況のため当院で工夫して何の対策が取れるか考えていきたいと思った。
- コロナ前後で相談内容の違いを実感していますが、データとしてわかることで、よりニーズに則した具体的な対応をしていかないといけないと感じました。
- コロナ禍において患者・家族がどのような不安や悩みを抱えているのか、それに対してどのような支援が必要になるのか、とても分かりやすく興味深い講義でした。

- 患者さん、家族の会えない気持ちに寄り添い、出来る限り伝わりやすい方法で伝える。
- どの病院もコロナ禍となり、悩んでいることは同様なことだと思いました私はコロナ禍となる以前の対応は経験していないが、考え方として「あれもできない、これもできなくなった」と思っているだけだった。高山先生のおっしゃるコロナだからできること、新しいスキルの習得など感銘をところがいくつもあり、考え続けていくことが大切だと思いました。
- コロナの影響による本人、家族の生の声を聞いてとても参考になった。
- 丁度、当院でも悩んでいたため、現状が知れてよかったです。
- コロナ禍で起きている患者、家族、相談支援の場での苦悩や問題がよくわかった。またこれからの課題も見えてきた。
- 国立がん研究センターが得た全国の情報がわかり、自施設だけの問題ではないことを確認できた。
- 今困っている内容がきけて有意義だった
- 新型コロナウイルス感染症により世の中が一変した。しかし、悪影響ばかりではなく新たな取り組みに目を向けるきっかけにもなった。
- 感染症対策が日常となる覚悟で業務を組み立てていく覚悟が必要なことがすごく腑に落ちました。
- 総括的にまとめられた研究結果をもとにした非常にわかりやすい講義でした。
- この2年間で起きた変化、これから考えるべきことなど、わかりやすく、熱意を持ってお話しくださり、色々と参考になりました。
- 相談員はアイデアを出す場面が多く他のスタッフとの交渉や調整を求められているとおっしゃっていたことに共感しました。患者達が孤立化しないためのアプローチ、待ちの姿勢でなく積極的な介入も SWとして大事な部分であるため再確認することができました。そのあたりもグループワークで少し議論できたので良かったです。
- 全国のがん拠点病院向けのアンケート結果をご報告していただいて、全国的な現状や課題が分かって良かった。また、それに対しての向き合い方等もご提案いただいて参考になった。
- コロナ感染者が増加し、面会制限が強化されている現状に適した講義をお聞きできたこと感謝します。患者さんと家族の孤独感をうめられる支援ができればと思いました。
- 新型コロナウイルス感染症による影響と今後の対応について、きれいにまとめていただき、相談対応全体の整理ができた。
- 待ちではなく積極的に動くこと。コロナ禍だから積極的に動いてみることを力強く押ししていただけの感じがあり、消極的になっていた気持ちに気がつきました。
- 新しい感染症の対応に医療者も苦慮している中で、患者さんやそのご家族がもっと不安やストレスを感じていることが、アンケートからよく分かりました。今ある資源の活用や、相談員が新しくアイデアを出して、相談者と一緒に不安や苦痛を少しでも減らしていけるように活動しようと、自身を振り返れる貴重な講義でした。ありがとうございました。
- infodemic という言葉を初めて耳にした。最終的に信頼できる情報を得ようとしたときに行政機関や医療機関のホームページなどの情報媒体であると聞き、より一層正しい情報を見ただけのようにしていきたい。
- 相談業務の実態や課題、解決策まで広い視点で解説して下さり、大変参考になりました。
- 日々現場で感じていたコロナ禍での支援の困難さを、がん情報サービスの状況を材料に説明、その上

で、具体的な課題や対応策などをお話いただき、自分の中でごちゃごちゃしていた部分が整理できました。

- アフターコロナ禍において、患者の孤立化が進み、情報不足などから治療や生活への不安が増している状況であると再認識することができました。相談窓口へ相談がない患者さんや家族の中で本来は支援を必要としている人がいないかどうか拾い上げる為の行動が必要と気付かされました。
- 適正な情報発信をしていくことが大切で、普段対応できているかの振り返りにもなった。

## 7. 講義2.『コロナ禍におけるがん相談支援の取り組み』についてのご意見

- オンラインでのカンファレンスの取り組みについて、事例を通して院内多職種と協働して丁寧に準備・実施・評価をされていることがわかった。誰がどんな役割を担うのか（連絡調整や環境準備など）、事後評価もマニュアルに入れ込むこと等が特に参考になった。部会としての広報活動や相互評価の取り組みについても、もう少し具体的に聞きたかった。
- コロナ禍における取り組みについてご講演いただき、とても参考になりました。
- がん相談員の実際の支援や院内での混乱の中築き上げてこられた様々な取り組みやオンライン実施時の症例などの話も、どれも興味深くお聞きすることができました。
- がん患者サロンが開催できない中、オンライン、ニュースレターなど参考になる内容だった。
- 面会制限のため、家族が患者の状態を理解しづらいことへの配慮について この状況だからこそご家族と密に連絡をとることの重要性を学びました。
- がん相談の広報の仕方、来院できない方への対応など現状や今後の対応を考える上で参考になった。
- オンラインの活用に丁寧な準備と評価があり、よく理解できました。やってみたことでの評価など、次につながるがあると思います。コロナ禍でできることとして前進していかなければならないと思いました。
- マニュアルの作成などの取り組みが素晴らしいと思いました。目まぐるしく変わる状況の中、相談支援でできることについて日々考えていかなければならないと思い、勉強になりました。
- オンラインカンファについて、十分に準備して取り組みをされていることを伺い、今後の参考になりました。
- コロナ禍での退院支援、退院前カンファレンスについてわかりやすく講義いただき、大変参考になった。
- 色々な取り決めなどを、待っていても作ってはくれない、自分たちで厚労省のガイドラインを参考にしながら作成した、との話が印象的でした。待つのではなく、自ら動いていく姿勢が必要だと感じました。
- コロナ禍の中でもできる取り組みがあることがわかり、今後いろいろな状況に応じた取り組みを検討していく必要性を痛感した。
- 今後、コロナ感染は継続していくと思われる。患者、家族の思いを大切にしつつ、また相談の質は落とさないように、新たな取り組みも自部署や病院全体で検討していく必要があると感じた。
- オンラインを活用した相談支援の取り組みについて知ることができ、とても参考になりました。実際の業務に繋がる、課題について考える貴重な機会となりました。
- オンラインを活用した相談支援の実践を知ることが出来た。
- 分かりやすかったです
- 退院前カンファレンスをオンラインで行うにあたって、準備した内容がとても勉強になった。
- WEB でカンファレンスできたら…と簡単に考えていたが、個人情報の取り扱い、同意についてのカルテ

記載、カンファレンス当日に向けての情報収集など、集まって行うカンファレンスとは違った対応が必要になることが分かった。

- 岡山大学病院の取り組みがとてもよく理解できました。オンラインについて、周知を含め患者さんにとって医療や相談にアクセスするための身近なものになるように働きかけを行う必要性を感じました。
- ついつい多忙ということ言い訳にして、普段のがん相談についても、アセスメントや課題確認ができないまま、いつもの常態化した相談対応になっている現状があります。がん患者・家族へ「個別化の原則」をしっかりと捉えた上での相談支援に取り組むたいと考えました。
- オンラインカンファレンスの取り組みについて具体的に示して頂けたので、参考になりました。
- オンラインでできることはオンラインでという方針であり、オンラインのやり方をマスターしていかなければならないなと感じました。
- 具体的な事例で学びが得られた。
- 勉強になりました。ありがとうございました。
- 取り組みを丁寧に教えていただき参考になりました。
- MSW の視点から取り組みを聞かせていただけたのはありがたかったです。
- コロナ禍においても図書館との連携展示を拡大したり積極的に広報活動を継続していて驚いた。
- 岡山大学のがん相談支援センターで起こっている問題や取り組みに関して理解ができた。オンラインによるマニュアルの整備やや関係機関のケースカンファレンスなどが実施されており、当院でも導入ができないかと考えている。コロナ禍が過ぎてもオンラインに関しては生き残っていくと考えられ、その整備に取り組んでいけるよう関係機関と協力していきたいと思った。
- がんサロンやピアサポートなど対面での相談ができないことや、退院支援でも課題を共感することが多くありました。広報活動などの取り組みを、当院にも持ち帰り参考にしたいと思いました。
- コロナ禍でカンファレンス等をどのように実施していくか、実際の対応も交えての講義でとても勉強になりました。
- 離職や、休職の就労支援の適宜介入。コロナ禍での受診控え者や、訪問サービスの未介入者へ正しい情報提供。
- 石橋さんの講義では、相談員が直面している問題、それをどのように解決したのかを話していただき、自分が後ろ向きな行動ばかりしていたことに気づきました。「今できることを、前向きに、柔軟に考え、実践することが次に繋がる」このことを常に頭の中に入れて考えたいと思いました。
- 本人、家族に対する支援の方法は10人いれば10通りのやり方がある。「今できることを、前向きに、柔軟に考え、実践することが次に繋がる」というフレーズが印象に残りました。
- 具体事例が聞いて勉強になりました。
- コロナ禍での病院、相談支援センターの現状と取り組みがわかり参考となった。
- コロナ禍であってもできることから取り組んでいることを紹介いただけ、自施設でもやっという気持ちになれた。
- 実践例が聞いてよかった
- 施設内で新たな取り組みを円滑に行うための方法を知ることができました。
- できるできないではなく、必要なことをどう実践していくのか教えてもらったと思います。
- オンラインを用いた実践など参考になりました。

- 患者や家族が話をする機会が減っていること、だからこそオンラインでの面談は対面よりもさらに丁寧な事前準備が必要であることなど、これからの実臨床でも気をつけたいと思いました。
- これまでの2年間で得たものはアフターコロナにつながるとお話し頂いたことを励みに頑張れそうです。ありがとうございます。
- オンラインでの相談支援や、患者活動支援を積極的に導入されていて、参考になった。
- オンラインカンファレンスの運用マニュアルについては、大きな学びとなりました。コロナ禍でもできる方法を模索したいと思います。
- 対応の具体例の報告があり、参考になった。
- オンラインでの面談、説明には時間をかけて準備調整に取り組まれていることに、積極性を感じ頭が下がる思いでいっぱいになりました。
- コロナ禍において、オンラインの需要の高まりがあり、その中でカンファレンスを行うために働きかけを行ったのは、まさにソーシャルワーカーの実践だと感じました。オンラインに不慣れな人や、設備がない施設等もあると思いますので、その課題もとても共感できる内容でした。実践に役立つとても良い講義でした。ありがとうございます。
- 図書館と連携した展示会などの取り組みをされており、今後の事業の参考になった。
- がん相談の現場における新型コロナの影響やその苦勞、解決に向けた取り組みをわかりやすく説明していただき、各病院の相談に携わる担当者には共感や、今後の業務に取り組んでいく上での示唆が得られたのではないかと思います。
- オンラインカンファレンスの準備・事前調整・振り返りなどを詳細にお聞きする事が出来、今後の業務の参考になります。家族や患者を含んだオンラインでのカンファレンスは、自分の中でハードルが高かったのですが、きちんと対応すれば有効であることもよくわかったので、今後機会があれば挑戦したいと思います。
- 困りごとを院内の多職種と共有できるよう発信していくことが大事ということに気付くことができました。動き始めるきっかけとして、困りごとの発信・共有はすぐに取り組むことのできる必要なことと感じました。
- コロナ禍の相談支援の実状や工夫されていることを学ぶことができた。

## 8. グループワークについてのご意見

- 活発な意見交換ができていてよかったと思う。オブザーバー（県の方）の立場からも意見が聞けた。
- ファシリテーターの方のスムーズな進行により、活発な意見交換を行うことができ、貴重な経験ができました。
- さまざまなご施設の実情に関してお話を聞かせていただくことができてとても参考になりました。やっぱり相談印鑑で行うワークって大事だなぁって思います。四国ブロックがいからのさんかにも関わらず、ウェルカムなご姿勢で受け入れてくださったチームの皆様に感謝申し上げます。
- 各施設、コロナ下の入院患者さんの状況はほぼ変わらないということがわかった。
- 地域は違いますがどの病院もコロナの影響を受けていて抱える悩みは同じであるということが分かり、また課題に向け一緒に相談できたことがとても心強かったです。
- 県外施設の現状を知ることができた。どの施設もそれぞれに苦悩しながら相談対応をされていることがわかった。大変な状況でも患者家族に真摯に向き合う姿勢が感じられ、今後の励みになると感じた。

- 他県の状況や経験年数の長い方のご意見など、様々な情報収集でき有意義であった。
- 大変参考になりました。コロナ禍とはいえ、患者と家族、医療とつながり続ける支援の大切さを学ぶことができました。また相談支援センターだけでは対応しきれない社会状況の中、病院だけでなく、患者さんや他の機関、業界と連携、共同作業しながら、ハード面、ソフト面を整備していく必要があると気付くことができました。今後もっと視野を広げて相談支援に取り組んでいきたいと思えます。
- たくさんご意見を伺えて参考になりました。
- 各県のがんサロン開催の現状や退院支援について積極的に意見交換ができたのでよかった。
- 他県や他病院での取り組みを色々伺うことが出来、とても参考になると感じた。また、悩みも共通であることも感じられ、共により良いものを作れたらと思った。
- ファシリテーターの方がとても上手く関わって頂いたおかげで、苦手なグループワークですが、発言もしやすく緊張せずディスカッションできました。皆さんのご意見が参考になりました。
- 各病院の現状を聞き、共感するとともにこれから取り組む事について情報をいただくことができた
- 各施設の状況や課題について話し合い、考えることができました。新たな発見もあり、実際の業務に生かせるグループワークでした。ファシリテーターの方が温かい雰囲気でもまとめて下さり、話しやすかったです。
- 現場での状況や課題を共有できた。
- 様々な機関の取り組み状況や、アイデアも聞くことができ有意義でした。
- 各県の取り組みや課題について話を聞くことができて良かった。
- WEB 対応については各病院でもなかなかうまく行かない事情も聞け、それに対して何をしていけるかを共有できた。
- オンラインの活用について、他院の方の意見が聞けてとても参考になりました。ありがとうございました。
- 他院または他県のがん相談の取り組みについて活発な意見交換が行えました。また、MSW、看護師、県行政といった多方面からの意見について考える時間となりました。
- 他施設の現状と取り組み状況などを聞くことができました。
- 活発に意見交換ができました。他施設の取り組みが参考になり、今後役に立てそうです。
- Web でのグループワークは初めてだったので、とても緊張しましたが皆さんのサポートで少しずつ慣れて発現できました。
- 業務では対面でのやりとりが難しい場面が増えましたが、みなさんがMSWならではの視点で取り組んでいることを知れて刺激をいただきました。
- 四国外から参加された方もいらっしゃいましたが、コロナ禍になってから苦勞していることや悩んでいることはほとんどの施設で変わらないことを知り、少し心が軽くなったように感じます。サロンの再開や開催方法について悩んでいたのも、各施設で工夫されていることをうかがえたのは大きな収穫でした。
- 今更ながらですが、オンラインでの研修参加は初めてだったため不安でしたが、ファシリテーターの方が発言しやすい雰囲気や参加したことのある方への役割分担を提案されグループワークが円滑に進んでいたと感じました。また発表者・記録の方がグループ内で議事録を共有しながら進めてくださいました。他施設の状況がよくわかり同じような問題でジレンマを感じていることも理解できました。とても有意義だと感じました。
- コロナ禍での退院支援において、家族が患者の状態がわからないことなど、様々な同じ課題をみなさん

抱えていることがわかりました。ただ、このような状況だからそこオンラインや環境を工夫している取り組みを聞くことができ、参考になることがたくさんありました。

- コロナ禍において、相談支援の現場ではどのような困りごとがあるのか、それをどのように解決していけばよいのか、皆さんのご意見を聞くことができとても良かったです。
- 地域、病院ごとで対応の仕方の違いや、地域性によりサロンや情報提供の方法の工夫が直接聞けて良かった。
- 今回初めてグループワークに参加させていただき、皆さんの病院ごとの特色や取り組みを聞くことができました。皆さんできないことよりもできることに着目していました。
- 本人、家族とコミュニケーションが取りにくい状況下で、相談員だけでなく医師や看護師も意向を読み取る力が必要だと改めて感じました。
- 各施設からの意見で今につながりましたにつながりました
- 各県の取り組みを知れて勉強になりました。コロナ禍においても患者さんと家族をつなぐ工夫や気づきが得られました。

9. フォーラムの内容は期待していたものと一致していましたか。

詳細

Insights

● 一致していた	40
● どちらでもない	1
● 一致していなかった	0



10. フォーラムのプログラム内容についてはいかがでしたか。

詳細

Insights

● 多すぎる	0
● 多い	6
● ちょうどよい	35
● 少ない	0
● 少なすぎる	0



11. フォーラムの内容に比べて時間はいかがでしたか。



12. フォーラムのプログラムについて難易度はいかがでしたか。



13. 今後の業務に活かせる情報が得られましたか



14. 今回のフォーラムについての全般的なご意見

- 各県の発表は参考になったが、もっとコンパクトにしてもよいと思う。講演に現状のアンケート結果が示されていたこと、グループワークで現場の困りごとを具体的に話し合う機会があったため。
- 休憩時間に、動画を流すアイデアは、とても良かったです。徳島県の魅力満載で、素敵な動画でした。
- 各県の実情をわかりやすくまとめていただいた後に、ワークではそれぞれの施設での状況も把握できるような構成でとても満足できる内容でした。発表のことなども考えると、終了間際は途中ワークに身が入らない瞬間もありましたが……。ワークの時間はもう少し長くても良いなと感じましたがそうすると全体の時間が長くなりますし、難しいなあと感じる次第です。
- 開催県徳島の皆さんお疲れさまでした。徳島の動画とても良かったです。司会の福田さん、事務局の担当の皆さん本当にお疲れさまでした。
- コロナ拡大の状況でフォーラムの企画運営は大変だったと思います。実りある研修でした、運営スタッフ・講師・ファシリテーターの皆さま、ありがとうございました。
- 他県の状況がよくわかり有意義でした。高山先生の講義の中に「信頼できる医療提供者がいることが重要」とのお話がありましたが、このような状況だからこそ、よりその必要性を感じます。サロン開催など、難しいこともたくさんありますが、こちらからの一方通行の発信でも発信し続けることも必要なことだと感じました。
- このようなテーマの研修は初めてですが、他機関との意見交換を通して、状況や対応を知ることができ、

大変勉強になりました。コロナ禍という過去に例をみない状況の中、皆さんが試行錯誤しながら相談支援に取り組んでいることを知る貴重な機会でした。参考になりました。ありがとうございました。

- 合間でのPR動画も含めて主催者の方々ご準備が大変であったと思いますが、とても勉強になりました。
- WEB 開催となり、事前準備等大変だったかと思いますが、滞りなく研修会を開催していただきありがとうございました。
- 司会の方がソフトな感じで進行が良かった。が、新たに学びを得る…という感じではなかった。
- やや長いと感じた。
- オンラインに関するマニュアルや個人情報に関する取り決めの重要性がわかり、当院でも早急に対応する必要があると感じました。進行は休憩も適宜とって頂き、その間に流して頂く画像も興味深くとても良かったです。
- 半日でしたが、情報共有する事ができ、またグループワークを通して具体的な内容の話し合いや今後の取り組みの参考にもなったのでよかった
- 休憩中の動画も楽しませて頂きました。
- 今、身近に起こっている問題がテーマで、講義内容・グループワークで得た情報などすぐに取り組みに活かせる内容にイメージしながら研修を受講でき時間を短く感じました。開催準備など、大変だったと思います。ありがとうございました。
- このコロナ禍での運営、ご準備ありがとうございました。グループの方以外にもぜひお話ししたいところですがWEBだとなかなか難しいですよ。はやくコロナが落ち着いて以前のように皆様とお会いできる日が来ることを祈っています。ありがとうございました。
- 四国以外の多職種の方とも情報交換できたため、貴重な機会だった。
- 各県の対応や、各病院での対応が知れて良かった。
- とても参考になりました。オンラインとなったことで地域制関係なく、取り組みを考えやすくなっているので、今後の業務に取り入れたいと思います。途中、ネットワークの不具合でご迷惑をおかけして、申し訳ございませんでした。ご対応ありがとうございました。
- コロナ禍にてオンライン研修会となりましたが、オンライン研修はそれはそれで、集合研修よりもメリット：（移動がない、全国の方とコミュニケーションが取れる、接触がないことで感染リスクの減少等）あると思います。事前の準備、運営をありがとうございました。
- コロナ禍での相談に関して、相談支援センターとして院内関係部署との連携や体制整備について考える機会となりました
- グループワークは活発に意見交換ができたが、その後の全体共有の時間をもっととっていただけたら、同じグループ以外のことももっとしることができたのに残念でした。
- コロナ禍で調整が難しいなか、このような研修を開催くださりありがとうございました。グループワークでもファシリテーターの方が話しやすく進めてくださいました。
- Web での開催となり、音声のトラブル等はありませんでしたが比較的スムーズに進行したのではないかと思います。運営の方々是对面でのフォーラム開催とはまた違った苦労があったと思いますが、会が中断することなく終わることができたのは運営の方々のおかげだと思います。
- 先に形をつくってからしか動き出せないことが多いが、みんなが手探りのこの状況下では、とりあえずや

ってみる、という姿勢も大切だということに気づきがありました。

- 会議までも申し込みや接続テストでも適切な助言をくださり当日の研修にのぞむことができました。休憩中に流されていた徳島の紹介もとても温かみのある内容で素晴らしいと思いました。本当にありがとうございます。
- 四国ブロックのみなさんの様々な取り組みを知ることができ本当に学ぶことがたくさんありました。コロナ禍だからこそ新たな取り組みもあるので、うまく付き合いながら継続できればと思います。フォーラムで得た学びを、相談支援に活かしていきたいです。
- 各県の取り組み発表、講義、グループワークと充実した内容で、とても勉強になりました。
- オンラインセカンドオピニオンの利用の知識が無かったので、これからの業務にいかしたい。
- 今回初めてフォーラムに参加させていただき、本当に有意義な時間になりました。今回聞いたことを念頭に自分の相談支援を見直します
- 準備等、お世話になりました。リモートでしたが、グループワークもあり、具体的なやりとりができてよかったです。

#### 15. 今後のフォーラムで取り上げて欲しいテーマや内容

- がんゲノム医療とがん相談支援
- ウイズ、アフターコロナ 相談支援の状況
- 積極的な治療をしない、緩和ケアのみの患者への支援。外来患者へのフォロー。両立支援について。
- 企画・準備お疲れ様でした。自己の相談業務の振り返り、学びに繋がる手応えのある研修を希望します。
- 両立支援が施策の中に盛り込まれている中、患者さんの中には両立を望まれていない方もおられます。また自営業の方や特殊な職業の場合、よい支援が提供できていないと感じ、悩んでいます。施策については理解していますが患者さんのニーズに沿っていない場合、どのような支援が提供できるのかご教示いただける機会がありましたら幸甚でございます。よろしくお願いいたします。
- 就労支援や患者サロンやネットワークづくりのノウハウを知りたいです。
- 南海トラフ地震が叫ばれる中、災害ソーシャルワーク、災害下にて求められる相談支援技術を、中国・四国地域で一緒に考えてみたいです。
- コロナ、その後という続編をお願いします。
- 意思決定支援や ACP について AYA 世代の相談支援について
- 在宅医療機器の管理など

## 令和3年度 地域相談支援フォーラム in 四国 ~みんなどうしてる?コロナ禍での相談支援~ 実行委員・ファシリテーター・オブザーバー用アンケート

回答数:19名

### 1. 所属する機関について

[詳細](#)

Insights

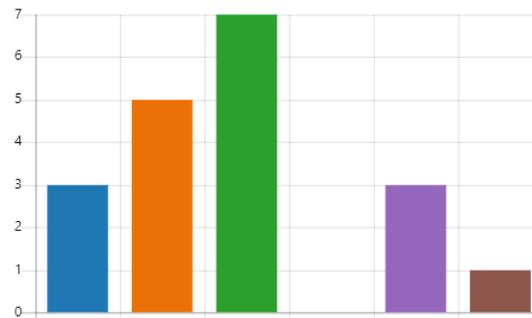
● 都道府県がん診療連携拠点病院	10
● 地域がん診療連携拠点病院	5
● 地域がん診療病院	0
● 都道府県指定がん診療連携推...	0
● その他	4



### 2. 職種

[詳細](#)

● 医師	3
● 看護師	5
● 医療ソーシャルワーカー(社会福祉士)	7
● 心理士(公認心理士)	0
● 行政担当者	3
● その他	1



### 3. 都道府県

[詳細](#)

● 愛媛県	5
● 香川県	5
● 高知県	4
● 徳島県	5
● 四国ブロック外	0



### 4. 各県の取り組み発表および講義、グループワークについて評価をしてください。

[詳細](#)

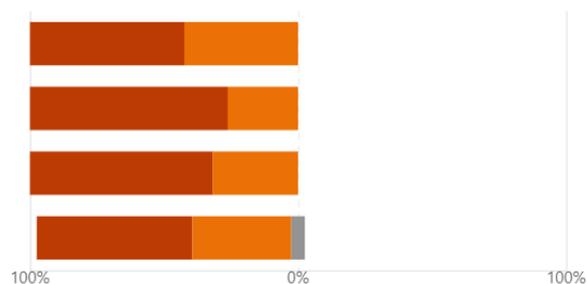
■ たいへんよく理解できた ■ よく理解できた ■ 理解できた ■ あまり理解できなかった ■ 理解できなかった

各県の取り組み

講義1.

講義2.

グループワーク



## 5. 講義1. についてのご意見

- コロナ禍で起きている患者、家族、相談支援の場での苦悩や問題がよくわかった。またこれからの課題も見えてきた。
- 国立がん研究センターが得た全国の情報がわかり、自施設だけの問題ではないことを確認できた。
- 今困っている内容がきけて有意義だった
- 新型コロナウイルス感染症により世の中が一変した。しかし、悪影響ばかりではなく新たな取り組みに目を向けるきっかけにもなった。
- 感染症対策が日常となる覚悟で業務を組み立てていく覚悟が必要なことがすごく腑に落ちました。
- 総括的にまとめられた研究結果をもとにした非常にわかりやすい講義でした。
- この2年間で起きた変化、これから考えるべきことなど、わかりやすく、熱意を持ってお話ししてくださり、色々と参考になりました。
- 相談員はアイデアを出す場面が多く他のスタッフとの交渉や調整を求められているとおっしゃっていたことに共感しました。患者達が孤立化しないためのアプローチ、待ちの姿勢でなく積極的な介入も SWとして大事な部分であるため再確認することができました。そのあたりもグループワークで少し議論できたので良かったです。
- 全国のがん拠点病院向けのアンケート結果をご報告していただいて、全国的な現状や課題が分かって良かった。また、それに対しての向き合い方等もご提案いただいて参考になった。
- コロナ感染者が増加し、面会制限が強化されている現状に適した講義をお聞きできたこと感謝します。患者さんと家族の孤独感をうめられる支援ができればと思いました。
- 新型コロナウイルス感染症による影響と今後の対応について、きれいにまとめていただき、相談対応全体の整理ができた。
- 待ちではなく積極的に動くこと。コロナ禍だから積極的に動いてみることを力強く押ししていただけの感じがあり、消極的になっていた気持ちに気がつきました。
- 新しい感染症の対応に医療者も苦慮している中で、患者さんやそのご家族がもっと不安やストレスを感じていることが、アンケートからよく分かりました。今ある資源の活用や、相談員が新しくアイデアを出して、相談者と一緒に不安や苦痛を少しでも減らしていけるように活動しようと、自身を振り返れる貴重な講義でした。ありがとうございました。
- infodemic という言葉を初めて耳にした。最終的に信頼できる情報を得ようとしたときに行政機関や医療機関のホームページなどの情報媒体であると聞き、より一層正しい情報を見ただけのようにしていきたい。
- 相談業務の実態や課題、解決策まで広い視点で解説してくださり、大変参考になりました。
- 日々現場で感じていたコロナ禍での支援の困難さを、がん情報サービスの状況を材料に説明、その上で、具体的な課題や対応策などをお話しいただき、自分の中でごちゃごちゃしていた部分が整理できました。
- アフターコロナ禍において、患者の孤立化が進み、情報不足などから治療や生活への不安が増している状況であると再認識することができました。相談窓口へ相談がない患者さんや家族の中で本来は支援を必要としている人がいないかどうか拾い上げる為の行動が必要と気付かされました。
- 適正な情報発信をしていくことが大切で、普段対応できているかの振り返りにもなった。

## 6. 講義2. についてのご意見

- コロナ禍での病院、相談支援センターの現状と取り組みがわかり参考となった。
- コロナ禍であってもできることから取り組んでいることを紹介いただけ、自施設でもやっていこうという気持ちになれた。
- 実践例が聞けてよかった
- 施設内で新たな取り組みを円滑に行うための方法を知ることができました。
- できるできないではなく、必要なことをどう実践していくのか教えてもらったと思います。
- オンラインを用いた実践など参考になりました。
- 患者や家族が話をする機会が減っていること、だからこそオンラインでの面談は対面よりもさらに丁寧な事前準備が必要であることなど、これからの実臨床でも気をつけたいと思いました。
- これまでの2年間で得たものはアフターコロナにつながるとお話頂いたことを励みに頑張れそうです。ありがとうございました。
- オンラインでの相談支援や、患者活動支援を積極的に導入されていて、参考になった。
- オンラインカンファレンスの運用マニュアルについては、大きな学びとなりました。コロナ禍でもできる方法を模索したいと思います。
- 対応の具体例の報告があり、参考になった。
- オンラインでの面談、説明には時間をかけて準備調整に取り組まれていることに、積極性を感じ頭が下がる思いでいっぱいになりました。
- コロナ禍において、オンラインの需要の高まりがあり、その中でカンファレンスを行うために働きかけを行ったのは、まさにソーシャルワーカーの実践だと感じました。オンラインに不慣れな人や、設備がない施設等もあると思いますので、その課題もとても共感できる内容でした。実践に役立つとても良い講義でした。ありがとうございました。
- 図書館と連携した展示会などの取り組みをされており、今後の事業の参考になった。
- がん相談の現場における新型コロナの影響やその苦勞、解決に向けた取り組みをわかりやすく説明していただき、各病院の相談に携わる担当者には共感や、今後の業務に取り組んでいく上での示唆が得られたのではないかと思います。
- オンラインカンファレンスの準備・事前調整・振り返りなどを詳細にお聞きする事が出来、今後の業務の参考になります。家族や患者を含んだオンラインでのカンファレンスは、自分の中でハードルが高かったのですが、きちんと対応すれば有効であることもよくわかったので、今後機会があれば挑戦したいと思います。
- 困りごとを院内の多職種と共有できるよう発信していくことが大事ということに気付くことができました。動き始めるきっかけとして、困りごとの発信・共有はすぐに取り組むことのできる必要なことと感じました。
- コロナ禍の相談支援の実状や工夫されていることを学ぶことができた。

## 7. グループワークについてのご意見

- Web環境で場の雰囲気がかめにくく最初は意見も少なかった。もう少し活発なディスカッションができればより楽しかったと感じた。
- グループワークは、コロナ禍にともなう相談員の苦悩について広く話し合える問いかけであったので招

集がつかなくなるのではないかと心配したが、参加者の皆さんは個々の困りごとをグループ内で共有し、先駆的な取り組みを参考にする機会ももっているようでよかった。

- 活発に意見交換ができた。参加者名簿にふりがなが欲しかった。
- 参加者が問題意識をもっていたので、活発な意見交換になった。
- タイムリーな話題での GW だったので、もっと時間をかけて話し合いたかった。
- 各施設の成功例や取り組み例が自施設にも参考になりました。
- 私が皆さんのお役に立つことはできませんでしたが、オブザーバーという立場で皆さんの話をお聞きてきて、どのようなことが問題になっているのかがよくわかりました。
- 時間は短かったですが、楽しく意見交換ができたと思います。始めにオンラインでグループワークの経験のある方を確認して盛り上げ隊（ファシリが落ちた時の進行）や発表者を自薦他薦で決めて進めたので良かったです。人数も丁度よくみなさん発言でき、聞きたい内容もシェアできたように感じました。
- コロナ禍で様々な事が制限され、がん相談支援にも大きな影響を受けているが、他県の他病院さんも同じように悩まれ、コロナ禍でできることを模索していることが分かり、良かった。また、他病院さんの取り組みをグループワークの中で聞いて参考になることも多くあったので、今後院内でも検討していきたい。
- ファシリテーターが全員から上手く意見を聞いてくれて、全員が考えを述べる事ができた。
- グループワークの中で、サロンとカンファレンス（入退院）についての話題が出ていましたが、サロンに関わっていない方やオンラインカンファレンスを実施していない施設の方から「話題に入りづらかった」と発言がありました。共通するテーマがあればと思いますが、難しさを感じます。
- オブザーバーとして参加しましたが、ファシリテーターの方の進行や、ベテランの方々からの発信でスムーズにワークが進んでいきました。やはり、他施設での取り組みがどうなっているのか、直接意見交換ができる良い機会になったと思います。
- 積極的な発言があり、みなさんが同じような悩みを抱えていることがわかった。行政という立場からどのような支援をすることができるのか考えていきたい。
- 前段となる講義時間が少し長かったせいか、少し、みなさん疲れていたように感じましたが、ファシリテーターの方が上手に皆さんの意見を引き出しておりました。オブザーバーの存在についてはあまり必要性を感じなかったのが反省点です。（当然、オブザーバーの立場としては皆さんの議論がおおいに参考にはなりました。）
- 他県・他施設との情報交換は、刺激にもなりますし、自施設で固まっている概念や視点を変化する好機になると思いました。コロナだからできないではなく今できることに目をむけていこうと再認識できました。皆さんが積極的に意見交換いただきファシリとしては助けられました。ただ、最初、県外の方のマイクトラブルで焦りました。ヘルプボタンはどこかわからず、チャットでと思ったら事務局宛先に送れず（共同ホストにしていたら送れたのでしょうか？）、時間がタイトで焦ってしまい、電話の緊急連絡先も見つからず・・・で。打ち合わせの時もしくはワーク前のオリエンテーションで参加者全員に、トラブル時の対応を確認して頂けたら良かったです（私が WEB に疎いのが一番いけないのですが。）あと、ワークの終了時間は開始時に明示しておいていただき良かったです。発表のかたが困ったらいけないのでプログラムの終了時間に合わせてまとめをしたので、（最初のマイクトラブルでも時間を使っていたので）本題のワークの時間が短くなったにもかかわらず、最後に時間があまり雑談になってしまいました。メンバーの方は不消化だったのではないかと心配です。

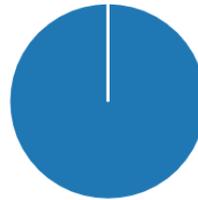
- オンライン上であり、積極的なやりとりが難しい中で、ファシリテーターからの促しも適宜あり、スムーズに進行されていたと思われました。当院ではこうした対応から始めているという代替方法なども情報共有することができ、各自持ち帰り活用を検討できる意見を得られる時間になったと思われました。
- 各県の実状について知り、情報交換ができてよかった。ファシリテーターの方が、スムーズに進行して下さったので和やかに意見交換ができたように思う。

8. フォーラムの内容は期待していたものと一致していましたか。

詳細

Insights

● 一致していた	19
● どちらでもない	0
● 一致していなかった	0



9. フォーラムのプログラム内容についてはいかがでしたか。

詳細

Insights

● 多すぎる	0
● 多い	3
● ちょうどよい	15
● 少ない	1
● 少なすぎる	0



10. フォーラムの内容に比べて時間はいかがでしたか。

詳細

Insights

● 長すぎる	0
● 長い	1
● ちょうどよい	14
● 短い	4
● 短すぎる	0



11. フォーラムのプログラムについて難易度はいかがでしたか。

詳細

Insights

● 難しすぎる	0
● 難しい	0
● ちょうどよい	17
● 易しい	1
● 易しすぎる	0



12. 今後の業務に活かせる情報が得られましたか

詳細

Insights

● とても得られた	8
● 得られた	11
● どちらでもない	0
● あまり得られなかった	0
● 全く得られなかった	0



### 13. 今回のフォーラムについての全般的なご意見

- 現在の状況に即したテーマで興味が持てたと思う。
- 現状にあったテーマ、グループワークの内容であったように思う。がん相談部門に限らず相談対応にあたる医療従事者に参加してもらいたい、そんな印象をもった。
- 時間がタイトだったが、学びの多い研修会でした。
- Web 開催でしたが、活発な意見交換ができたと思います。主催者は大変だと思いますが、もう少し募集定員を増やしていただけるとありがたかったです。
- 徳島の皆さんありがとうございました😊
- オンライン開催の準備から打ち合わせ会振り返り会、本番まで色々とお世話になりました。徳島の PR 映像もとても楽しく休憩を取ることができましたので、最後まで気持ちを落とさず参加することができたと思います。ありがとうございました。そして、事務局、実行委員のみなさまお疲れ様でした。
- タイムリーなテーマで良かった。コロナ禍で様々な事が制限され、がん相談支援にも大きな影響を受けているが、他県の他病院さんも同じように悩まれ、コロナ禍でできることを模索していることが分かり、良かった。また、他病院さんの取り組みをグループワークの中で聞いて参考になることも多くあったので、今後院内でも検討していきたい。
- 事前準備と打ち合わせや当日運営についても、大変お世話になりました。企画・運営の実行委員の方々の事前準備や無事終了するまでの大変な作業は、知れば知るほど頭が下がります。本当にお世話になりました。福田さんだからこそ、できる研修だと思います。ありがとうございました。
- みんなが Web に慣れてきて、Web でもできることを再度実感しました。しかし、対面の方が、顔が見られて雰囲気はわかって良いのですが。
- 時間管理の難しさを感じました。発表約 2 分というアナウンスをしていただきましたが、発表者の多くは 2 分経過したことが分からず発表を続けてしまっていました。30 秒前に「ピピッ」とタイマーを鳴らしてお知らせするなどの工夫があれば時間管理がスムーズになるのかなと考えました。
- 初めてのオンライン開催で企画・運営準備大変だったと思います。こちらでも、もう少し開催前の事前準備やお手伝い出来ていれば、主催者側の負担軽減が図れたのではないかと思います。開催側の負担が大きいと思いますので、フォーラムに限らず、四国内での運営体制も検討していければと思います。また、今後は中国地方も含めて検討していければいいと思います。あと、休憩時間中の徳島紹介動画が素敵でした。本当にお疲れ様でした。
- 各県での取り組みを担当者から聞くことができ、コロナ禍だからこそいろいろな機会をとらえてがん検診の啓発を実施していかなければならないと再確認することができた。
- 各県の取り組みの説明者については、普段の業務に加えて資料の取りまとめや説明などいただき、大変ありがたい一方で、少し負担が重いのではと感じました。
- 準備からいろいろとお世話になりました。私自身が、中々落ち着いて打ち合わせに参加できなかったり、内容や資料を確認する時間を取れなかったのが、反省しています。テーマはちょうどタイムリーで、課題や困りごとなど他施設と共感できる部分が多かったのが、Web のわりに全体的に一体感が感じられたように思います。また、徳島の PR 動画や穏やかな司会進行などのおかげで、タイトなスケジュールを感じさせず、参加していただいたのではないかと思います。アンケートの結果はどうでしょうか…●
- 県をまたいでのオンライン研修ということで事前打ち合わせを含め、大変なことも多かったと思いますが、

徳島の事務局の皆様のお陰様で、スムーズに進行できたと思います。本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。全体のスケジュールでいうと接続トラブルや画面共有の際のアクシデントがあることを考慮して、休憩時間を予め多めに取っておいて、時間がおした場合は休憩時間を少し削って調整する方法も検討してもよいかと感じました。

- コロナ流行の大変な状況の中、貴重な機会をいただき感謝申し上げます。コロナの事情もありましたが、webでの開催は参加しやすかったです。

#### 14. 今後のフォーラムで取り上げて欲しいテーマや内容

- 就労 AYA 世代
- AYA 世代への相談支援
- アピアランスケア
- 外見ケア、AYA 世代支援・制度、妊孕性温存関連
- コロナ感染症の影響が様々なところで出ていますので、サロン、後方支援など、絞って、コロナ感染症の影響と対策を考えていくのが良いと思います。
- アフターコロナにおける就労支援、相談対応
- がんサバイバーの方の支援ニーズについて(例 お金、アピアランスケア、就労支援などなど)
- 来年度は愛媛で頑張ります。今回の経験を運営に活かしたいと思います。今後ご指導、ご協力どうぞよろしくお願い致します。

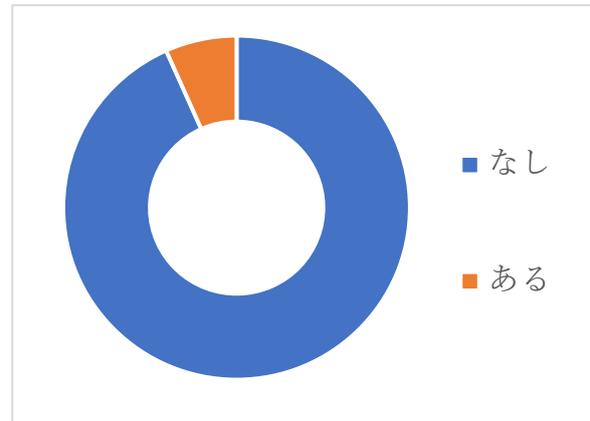
#### 【考察】

- オンライン研修ならではのトラブルは想定していたが、事務局でも対処できないトラブルもあり、結果 1名途中退室となってしまい修了要件を満たすことができなかった。オンラインミーティングのシステム等により詳しい専門職種のサポートがあればトラブル対処できた可能性もあるのかもしれない。
- ファシリテーターだけでなく参加者にも事務局とコミュニケーションを取る手段等を案内しておく必要性があると感じた。チャット機能やヘルプボタンの案内など、口頭での案内を失念した失敗もあるが、事前に手元資料としてトラブル対処法などをまとめた物を送付しておいても良かった。
- 集合研修よりもオンライン特有の操作に時間を要することなどは想定して時間設定をしていたが、結果的に時間が超過してしまった。より長めに時間を確保しておき、休憩時間で調整したり早めに終了するなどして時間調整をする方が良いのかもしれない。
- ミーティング入室時に名前変更をアナウンスしていたが変更されていない方の判別が難しい。名前変更されていなければ出欠確認に影響する。個別にチャットしてもチャットのメッセージを見ていなければ修正されない。
- スマホやタブレット端末からの参加者は接続の不安定さや音声・画面表示などのトラブルが生じやすい。

※Web アンケート質問項目番号をそのまま表記しております。

### 3. 院内 AYA 支援チームはありますか

- ある 1 施設（愛媛県立中央病院）
- なし 14 施設



「ある」と答えた方へ

（愛媛県立中央病院）

#### ① 具体的な活動内容を教えてください

##### •当院の AYA 世代がん患者の現状把握

がん登録およびスクリーニングからの現状把握・共有

院内外の就労・学習支援、妊孕性温存の現状および課題の共有。必要時、課題に対する取り組み。

例)緩和ケアチームと共に「緩和ケアスクリーニング用紙」を AYA 世代も考慮して改訂。

##### •AYA 世代支援に課する情報発信（AYA 世代対応ネットワーク、妊孕性ネットワークセミナー）

#### ② リーダー・メンバーの部門・職種を教えてください

•リーダー：医師

•メンバー：医師（小児科、婦人科、乳腺内分泌外科、泌尿器科、脳外科、血液内科、呼吸器内科）、看護師（看護長、がん看護専門看護師、がん化学療法看護認定看護師、乳がん看護認定看護師）、臨床心理士、医療社会福祉士、事務

#### ③ 頻度、開催時間を教えてください

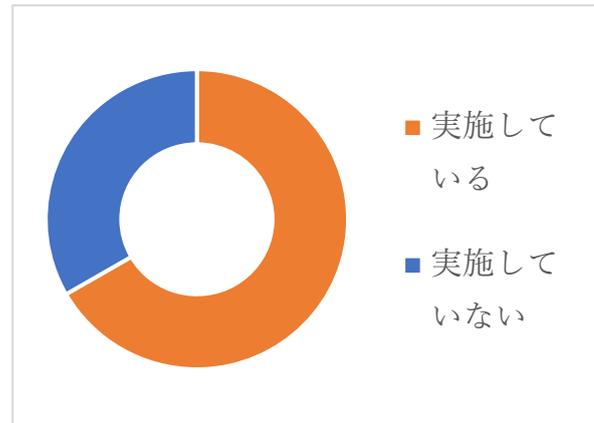
•1～2 回／年、1 時間程度の話し合い、情報共有を行っている。

#### ④ 現在、がん相談員は参加していますか

•はい

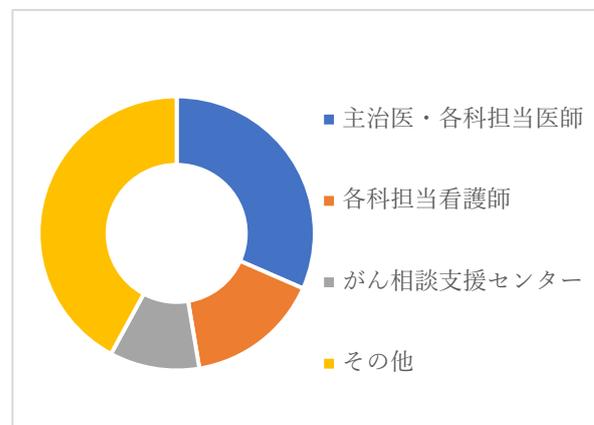
#### 4. 妊孕性温存に関する情報提供はだれが提供していますか？（複数回答）

- 実施している 10 施設  
（愛媛県立中央病院、四国がんセンター、愛媛大学医学部附属病院、松山赤十字病院、済生会今治病院、住友別子病院、市立宇和島病院、四国中央病院、HITO 病院、松山市民病院）
- 実施していない 5 施設



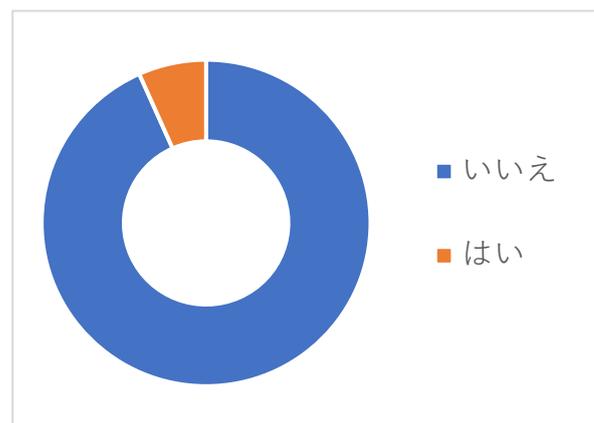
#### （以下 10 施設より意見）

- 主治医・各科担当医師 6 施設
- 各科担当看護師 3 施設
- がん相談支援センター 2 施設
- その他 各 1 施設  
（がん外来看護師、がん相談部門看護師（緩和ケア認定看護師）、がん認定看護師、がん化学療法認定看護師、がん生殖相談外来の医師・看護師、がん相談支援センター相談員、乳腺外来医師、産婦人科医師）



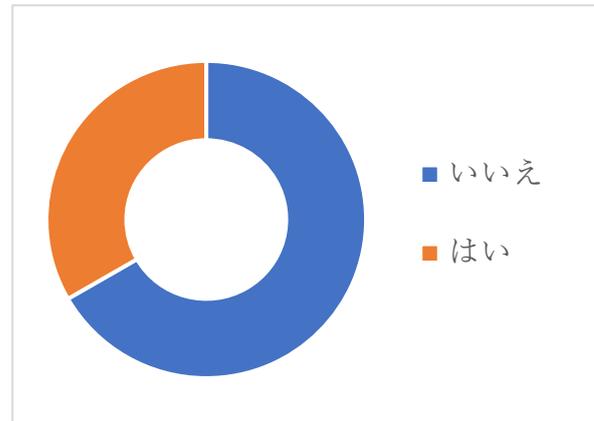
#### 5. がん患者の生殖医療は実施していますか

- はい 1 施設（愛媛大学医学部附属病院）
- いいえ 14 施設



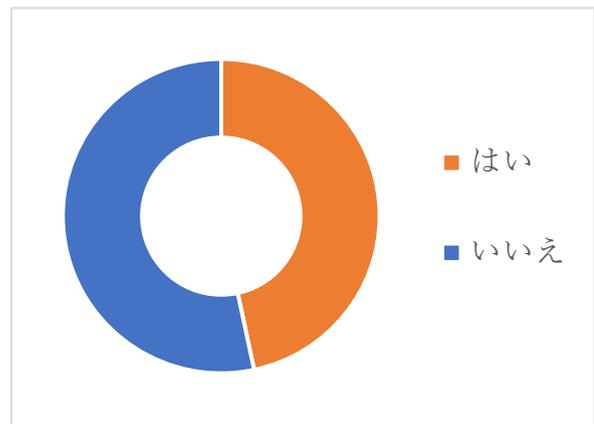
### 6. がんに罹患した患者が生殖医療（※自院、他院を問いません）を受けた後、あなたの病院で出産はできますか

- はい 5 施設（愛媛県立中央病院、愛媛大学医学部附属病院、松山赤十字病院、市立宇和島病院、四国中央病院）
- いいえ 10 施設（住友別子病院：産科対応していない）



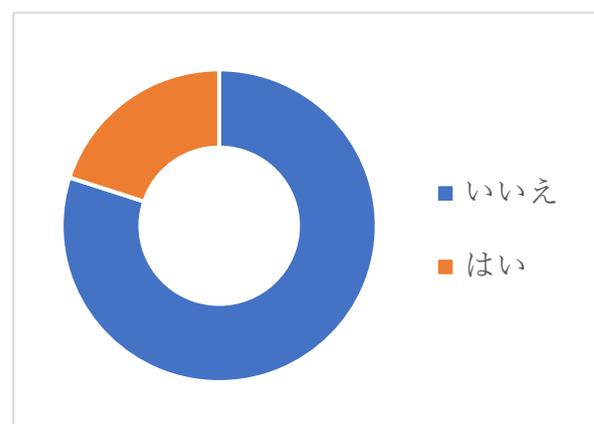
### 7. これまでに愛媛県がん生殖医療ネットワークに登録している病院へ紹介したことはありますか

- はい 7 施設（愛媛県立中央病院、四国がんセンター、愛媛大学医学部附属病院、松山赤十字病院、住友別子病院、市立宇和島病院、四国中央病院）
- いいえ 8 施設



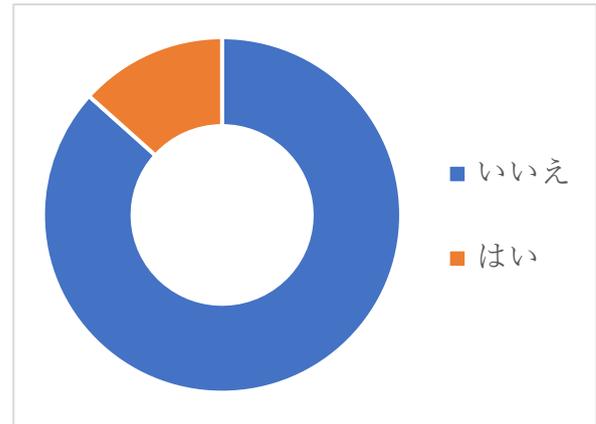
### 8. 小児がん治療（0~14 歳）の実施診療科はありますか

- はい 3 施設（愛媛県立中央病院、愛媛大学医学部附属病院、松山赤十字病院）
- いいえ 12 施設  
（住友別子病院：小児科はあるが小児がんに対応していない）  
（四国中央病院：がん治療は行っていないが、治療後のフォローは可能）



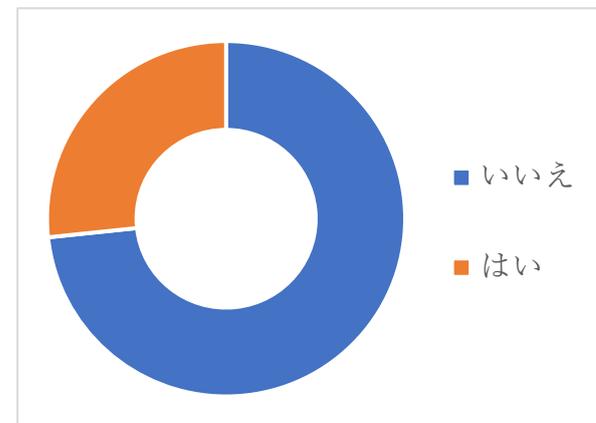
### 9. 認定遺伝カウンセラーは施設内にいますか

- はい 2 施設（愛媛県立中央病院、四国がんセンター）
- いいえ 13 施設



### 10. 病院内に院内学級はありますか

- はい 4 施設（愛媛県立中央病院、愛媛大学医学部附属病院、松山赤十字病院、市立宇和島病院）
- いいえ 11 施設



「はい」と答えた方へ  
院内学級について、具体的に教えてください

#### （愛媛県立中央病院）

- 対象：義務教育（小中学校）課程のみ
- 二重学籍は認められていない  
成績は院内学級教員が評価をする  
復学時を考慮し原籍校の教科書を使用し、原籍校および担当医の許可があれば学校行事への参加も可能。
- 教室は一部屋のみ（小学校・中学校共に同じ教室）
- 疾患治療の関係で隔離が必要な場合は、室内学習も可能

#### （愛媛大学医学部附属病院）

- 院内学級として、小学校と中学校がある

#### （松山赤十字病院）

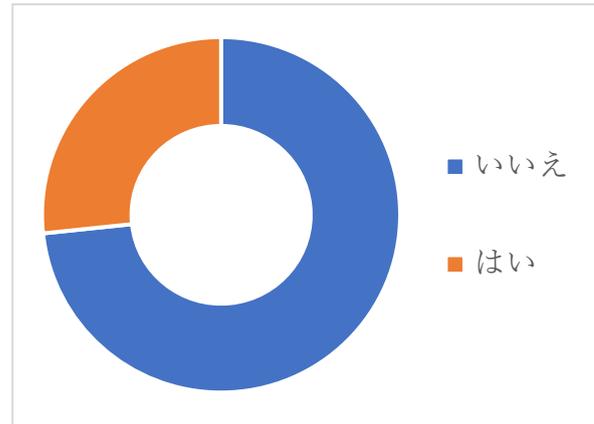
- 近隣小学校の教師が実施している

#### （市立宇和島病院）

- 小学生で長期入院が予測され、希望のあった場合院内学級への転入手続きを行い、療養しながら院内学級に通ったり、ベッドサイドに先生が訪室され授業を受ける

### 1 1. がん患者さんが入院する際に学習環境を支援した経験はありますか

- はい 4 施設（愛媛県立中央病院、四国がんセンター、愛媛大学医学部附属病院、松山赤十字病院）
- いいえ 11 施設



「はい」と答えたかたへ

学習環境の支援経験について、差し支えのない範囲で具体的に教えてください

（愛媛県立中央病院）

- 院内学級がない高校生など、認定 NPO 法人を通しボランティア派遣による学習環境の支援を行ったことがある

（四国がんセンター）

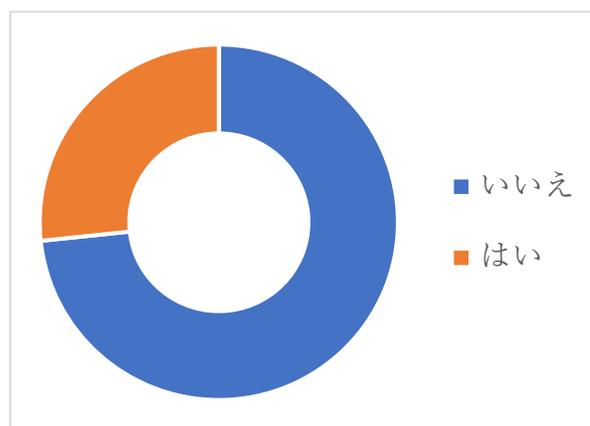
- 専門学校の学生の Web 環境を支援したことがある

（愛媛大学医学部附属病院）

- 小児科では院内学級の利用
- ラ・ファミリエの学習支援の利用
- 外来ブースで机の配置等

### 1 2. がん患者さんの復学を支援した経験はありますか

- はい 4 施設（愛媛県立中央病院、四国がんセンター、愛媛大学医学部附属病院、松山赤十字病院）
- いいえ 11 施設



「はい」と答えた方へ

復学などの支援経験について、差し支えのない範囲で具体的に教えてください

（愛媛県立中央病院）

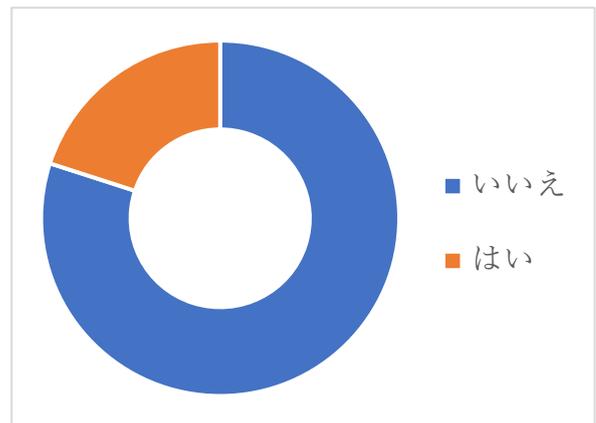
- 13.で回答

（四国がんセンター）

- 大学生の復学を支援したことがある  
(愛媛大学医学部附属病院)
- 困った経験です。高校生が長期入院のため単位取得ができず、なかなか進級ができなくて悔しい思いをしたことがあった。当時は遠隔授業はなし。また学校や先生によって、配慮の細やかさが異なる

### 1 3. がん患者さんの学校担当教員との連携経験はありますか

- はい 3 施設 (愛媛県立中央病院、愛媛大学医学部附属病院、松山赤十字病院)
- いいえ 12 施設



「はい」と答えた方へ

患者の学校担当教員との連携経験について、差し支えない範囲で具体的に教えてください

(愛媛県立中央病院)

- 1 回/月 カンファレンス (院内学校教員、看護長、医師、臨床心理士)

疾患・治療の進捗状況やメンタル面の情報共有を行い、教員と医療者が協働できる支援について検討

- 退院前 カンファレンス

親、医療者 (医師、看護師、PT、臨床心理士、医療福祉士等)、原籍校関係者 (担任、学年主任、養護教員等)

現状 (病状や入院生活、リハビリやメンタル面など) と退院後の注意点や要望等についての情報共有

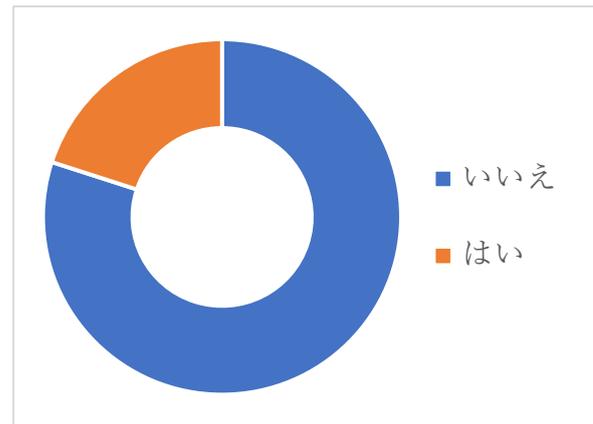
- \* 入院中に進級・進学等をした場合、帰属意識が芽生えず不登校になる可能性があり、クラス分けの相談をすることがある

(愛媛大学医学部附属病院)

- 主に小児科では、必要な場合、患者さんやご家族の了解を得て、学校の先生方と情報共有や学校生活上で配慮が必要なことの説明など、やりとりをしている

#### 14. AYA世代がん患者さんの就業・復職支援で困った経験はありますか

- はい 3 施設（愛媛県立中央病院、四国がんセンター、愛媛大学医学部附属病院）
- いいえ 12 施設



「はい」と答えたかたへ

AYA世代がん患者の就業・復職支援で困った経験について差支えない範囲で具体的に教えてください

（愛媛県立中央病院）

- 就業年数が短いため、制度が利用できないことがある
- もともと非正規雇用やアルバイトなどで収入が少ないため、経済的に困窮することがあり親世代の支援が必要になったことがある

（四国がんセンター）

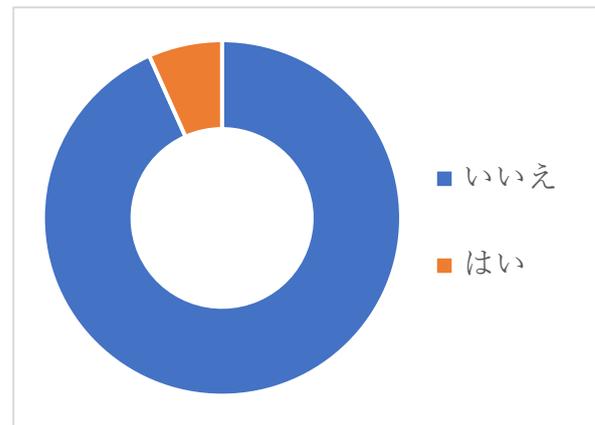
- 復職後の人間関係について。職場の人が配慮してくれるのはありがたいが、日常生活を取り戻そうとしている患者としては過剰な配慮ととり、気持ちがしんどくなられたケースがあった。心理療法士より人との付き合い方のアドバイスを受け、職場の人と距離を置くことで改善された
- 再就職した職場で数カ月の勤務のため、休職制度が数カ月しか利用できず、いったん退職せざるをえない状況があった
- 就職して初年度での発症、退職となり、1年勤務できなかったため、資格喪失後の傷病手当金請求ができなかった

（愛媛大学医学部附属病院）

- がんの罹患、治療が必要なために内定を取り消された。
- また、治療や病状のために働けない場合、経済的な問題が大きい。これから養育にお金もかかる、貯蓄に余裕がないなどがあり、治療費や生活費への不安が大きい。

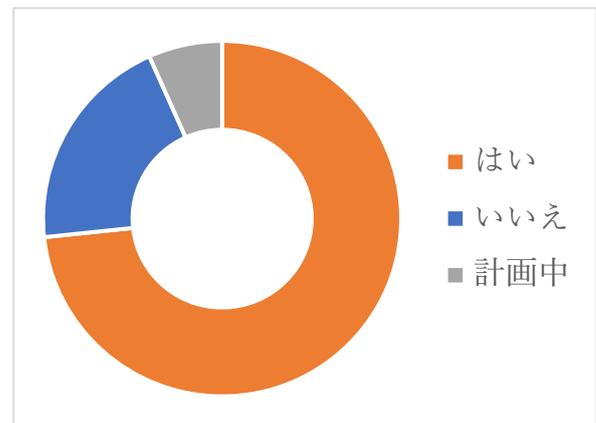
### 15. 直近3年間でAYA世代向け患者サロンの実施はしていますか

- はい 1施設（四国がんセンター）
- いいえ 14施設



### 16. がん相談支援センターで若年性がん患者支援事業のちらし設置、紹介はしていますか

- はい 11施設（愛媛県立中央病院、四国がんセンター、愛媛大学医学部附属病院、松山赤十字病院、済生会今治病院、住友別子病院、市立宇和島病院、四国中央病院、松山市民病院、十全総合病院、愛媛労災病院）
- いいえ 3施設
- 計画中 1施設



### 17. 若年性がん患者支援事業制度紹介や利用の難しさについて教えてください

- 対象者が（ほぼ）いない 4施設
  - 特になし 2施設
  - 以下11施設より意見
- （愛媛県立中央病院）**
- 院内で十分周知されていない
  - 福祉用具が必要利用のために申請しても、その間に状態が悪化する場合がある
  - 制度の限界として、就労や経済面（治療費や生活費等）の問題はこの制度の対象とならない
- （四国がんセンター）**
- 愛媛県では市町村単位で若年性在宅療養支援事業を展開している。制度について対象者には紹介しているが、利用希望時は患者や家族が申請のため、なかなか利用に至っていない（末期がん患者対象のため時間が間に合わない）
  - 急激に悪くなる方が多いので、紹介したり、利用するタイミングが難しい。

(愛媛大学医学部附属病院)

16、17 は若年がん患者在宅療養支援事業のことと理解して回答します

- 利用を提案したい患者がいたが、住民票の自治体が該当しなかった
- 医療者側が年齢や病状が該当する患者さんには情報提供できるよう気を付けているが、ニーズをキャッチできていないかもしれない

(済生会今治病院)

- 施設所在の市では実施しておらず、実際に利用したことがなくわからない

(市立宇和島病院)

- 役場でも初めての症例で担当者が明確でなかったり、実際に利用できる範囲が把握できていない(炊事などヘルパー事業を本人でなく子供さんに対しても利用できるか等) 為、対応に時間がかかってしまう

(HITO 病院)

- 対象者がいれば紹介する

(松山市民病院)

- 対象者数が少なく、適切なアドバイスか否か、判断し辛い

(十全総合病院)

- 介護サービス・障害福祉サービスのように、すべてが賄えるわけではないところ

(愛媛労災病院)

- パンフレットを設置しているが、まだ相談はなし

(済生会西条病院)

- 西条市では R3 年度からがん対策推進条例が施行
- がん患者の就労や社会参加を支援するため、ウィッグ・胸部補整具の購入費の一部助成、若年がん患者さんが住み慣れた自宅で安心して過ごせるよう在宅療養に必要な費用の一部助成などがあることを説明している

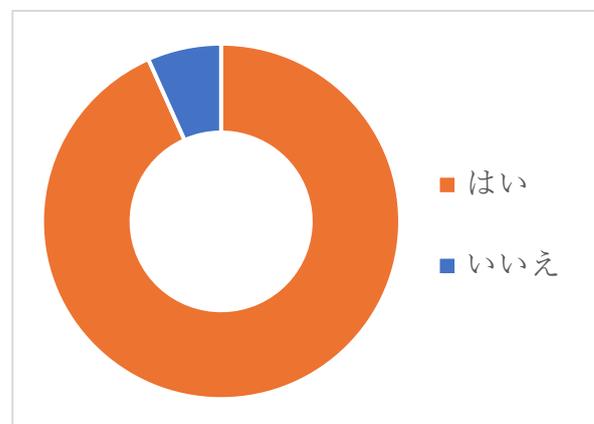
(市立八幡浜総合病院)

- チラシを院内に設置

18. ウィッグやカバーメイク、爪、マンマ製品の情報提供を実施していますか

- はい 14 施設 (愛媛県立中央病院、四国がんセンター、愛媛大学医学部附属病院、松山赤十字病院、済生会今治病院、住友別子病院、市立宇和島病院、四国中央病院、HITO 病院、松山市民病院、十全総合病院、愛媛労災病院、済生会西条病院、市立八幡浜総合病院)

- いいえ 1 施設



「はい」と答えた方へ

ウィッグやカバーメイク、爪、マンマ製品の情報提供を行っている部門や職種、内容等を教えてください

(愛媛県立中央病院)

- ・情報提供：担当医師・看護師、がん相談支援センター、外来化学療法室など
- ・パンフレットおよび展示：がん相談支援センター、外来化学療法室
- ・乳がん術後の患者対象の補整下着：乳腺内分泌外科外来、担当病棟にサンプルがあり試着可能
- ・幹細胞移植後のアピアランスは移植後外来で看護師が対応

(四国がんセンター)

- ・アピアランスケアチーム（看護師、薬剤師）は個別対応に加え毎月アピアランスケアセミナーを開催し情報提供を行っている
- ・各科外来・病棟看護師は、必要時対応している
- ・がん相談支援センター（相談員）では、ウィッグを一部展示し試着ができるようにしている
- ・患者・家族総合支援室（暖だん 看護師・事務職員）にはウィッグ・カバーメイク・ネイルケア関連・マンマ製品等の展示物品を配置し、試着の対応や相談、パンフレット等の整備を行っている

(愛媛大学医学部附属病院)

- ・各診療科の医師、看護師、外来化学療法室
- ・マンマ製品については乳腺科、がん相談支援センターで情報提供を行っている

(松山赤十字病院)

- ・がん相談支援センター、がん看護外来、アピアランスケアチーム、化学療法センター看護師、薬剤師
- ・自施設で作成した「アピアランスケアハンドブック」を用いて情報提供を行っている。「アピアランスケアハンドブック」は化学療法センターに配架あり

(済生会今治病院)

- ・外来化学療法室で化学療法認定看護師がウィッグ・爪・マンマ製品について情報提供している

(住友別子病院)

- ・相談支援センター（情報提供）
- ・がん治療に関わる看護師（情報提供とセルフケア指導）

(市立宇和島病院)

- ・化学療法室

(四国中央病院)

- ・外来化学療法室

(HITO 病院)

- ・化学療法室、売店：帽子、ウィッグなど

(松山市民病院)

- がん化学療法看護認定看護師、社会福祉士

(十全総合病院)

- 外来看護師、病棟看護師、入退院支援センター

(愛媛労災病院)

- 看護部、看護師：ウィッグと補正下着のパンフレットを設置。ウィッグは試着可能。ケア帽子、ケアキャップを売店にて展示販売

(済生会西条病院)

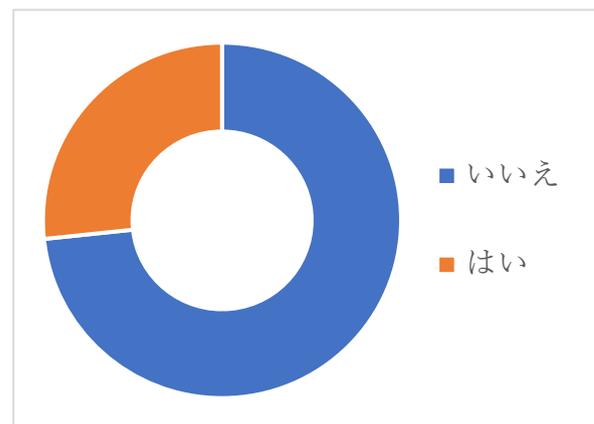
- 患者・家族等から相談があれば外来化学療法看護師・病棟看護師等がパンフレットなどを用いて情報提供を行っている
- 希望があれば業者の紹介をしている

(市立八幡浜総合病院)

- がん化学療法看護認定看護師がウィッグなどの紹介をチラシを用いて行っている

19. (家族支援) 患者の子供への支援として学校担当教員との連携はしていますか

- はい 4 施設 (四国がんセンター、住友別子病院、市立宇和島病院、HITO 病院)
- いいえ 11 施設



「はい」と答えた方へ

(家族支援) 患者さんの子供への支援として学校担当教員との連携を行っている部門や職種、内容等を教えてください

(四国がんセンター)

- 心理療法士がチャイルドケア (個別対応) を行っており、過去には知的障害のある子どもさんの通う小学校のカウンセリングの先生から連絡をもらい連携したことがあった

(住友別子病院)

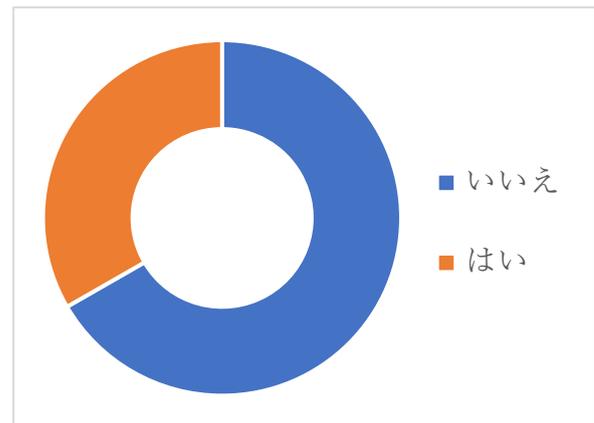
- 相談支援センター (MSW、看護師) 情報共有、生活支援

(HITO 病院)

- がん相談部門、臨床心理科

## 20. 配偶者やパートナーとの性生活等についての支援を実施していますか

- はい 5 施設（愛媛県立中央病院、四国がんセンター、愛媛大学医学部附属病院、市立宇和島病院、愛媛労災病院）
- いいえ 10 施設



「はい」と答えた方へ

配偶者やパートナーとの性生活等についての支援を行っている部門や職種、内容等を教えてください

### （愛媛県立中央病院）

- 担当医師・担当看護師（主として乳腺内分泌外科、婦人科）がん相談支援センター
- 乳腺内分泌外科、婦人科術後の患者に対し、退院指導のパンフレットに配偶者、パートナーとの性生活に関する項目を入れている

### （四国がんセンター）

- がん相談支援センターにて MSW・看護師や病棟・外来看護師が主に支援している
- 冊子を活用して情報提供を行っている
- 外来や患者・家族総合支援センターのトイレに潤滑ゼリー付きコンドームを自由に持ち帰れるように設置し、病院でも相談ができることを案内している
- がん相談支援センターのポスターにも性生活についての相談ができることを盛り込んで発信している

### （愛媛大学医学部附属病院）

- 外来化学療法室では性生活に関する相談ができることをパンフレットで案内している
- 相談があれば各診療科の医師や看護師、外来化学療法室、がん相談支援センター等で応じている。

### （市立宇和島病院）

- 各科外来の医師・看護師及びがん相談支援センターが対応している
- がん相談支援センターに相談に来られた場合、相談内容を担当医師に確認してお返事させて頂いた

愛媛県がん診療連携協議会 がん相談支援専門部会  
令和3年度 がん相談支援センター活動のPDCA実施チェックリストに関する報告書

令和4年3月15日  
がん相談支援専門部会  
チェックリストWG

## I. 目的

がん相談支援センター活動のPDCAサイクルを確保し、県内全体のがん相談支援の機能強化と質向上を目指す

## II. 令和3年度の活動目標

1. 昨年度作成した新チェックリストの評価指標を作成し、回答のばらつきを少なくする。
2. 評価指標を追記したチェックリストを作成する。
3. 修正したチェックリストを用いて、各病院で評価する
4. 各拠点・推進病院で評価した内容をまとめ、県内の現状を把握し昨年度との比較から、課題を明らかにする。

## III. 活動内容

令和3年7月15日 専門部会にて、評価指標、チェックリスト修正版（指標を追記）を提案し、承認を得た。

令和3年11月末 各施設でチェックリスト評価の実施  
各施設で実施したチェックリスト実施結果を回収  
次年度用入力フォームの作成

令和4年2月チェックリスト評価の集計および意見・感想のまとめ  
令和4年3月チェックリストWGで課題の抽出 報告書作成

## IV. 結果と分析内容

### 1. 結果概要（詳細は資料参照）

- ① 『センターの案内』 前年度同様、全体的に取り組んでいる。
- ② 『センターの周知・広報』

1-1-2 診断初期から介入体制の整備が進められている。コロナ禍の影響で1-1-3 院外出張がん相談への取り組みは低下したが、1-1-4 院内での周知活動や1-1-5 患者会・サロンの紹介は改善した。

- ③ 『サロン運営・患者支援』

コロナ禍の影響をうけながらも、昨年度と同程度の取り組み状況。各施設で、検討はされているものの停滞傾向にある。

④ 『相談対応の質の担保』

1-2-5 相談記録のデータ分析や 1-3-3 がん相談部門のマニュアル作成、1-3-6 外部評価を受ける機会については評価指標を見直した事で、結果が改善された。また、1-3-4 相談対応評価表を用いた定期的なモニタリングに取り組む施設が増え、1-3-2 信頼できる情報の活用については全施設が「取り組んでいる」と回答できた。しかし、一方で 1-2-1 相談員基礎研修③受講の相談員の配置や 1-2-2 愛媛県がん相談員研修の参加については、取り組んでいる施設が減少している。

⑤ 『個人情報保護』

評価指標を見直した事で、結果が改善され、全施設で「取り組んでいる」と回答できた。

⑥ 『地域との連携強化』

コロナ禍の影響により、2-3 地域でのイベント参加や 2-4 就労支援・両立支援など取り組みが減少している。全体的に取り組みは停滞傾向にある。

⑦ 【全体評価】 昨年度の評価と比較して評価が下回った数が 39 であった。その内、評価が下回った要因にコロナ禍の影響があると考えられる項目が 21 あり、がん相談支援におけるコロナ禍の影響は大きい事が伺える。しかし、このようにコロナ禍による活動制限を受けながらも、改善数については 59 あり、各施設の改善への取り組みが地道に行われたことは評価できる。

2. 今後専門部会で取り組むべき課題

① コロナ禍でも患者さんが孤立しない取り組み。

コロナ禍の影響でサロン運営等の取り組みが停滞傾向にある。施設の開催情報を共有し他施設のサロンを案内する仕組み作りやオンラインを用いてのピアサポートなどの取り組みや工夫を専門部会で検討する。

② 愛媛県がん相談員研修への参加者数を増やすための取り組み及び研修に参加してもらいやすい環境整備への取り組み。

研修への参加者が減少傾向にあり、相談支援の質の担保が懸念される。来年度は愛媛県主催の「地域相談支援フォーラム in 四国」へ積極的に参加してもらえよう働きかける。

③ 相談対応評価表を用いたモニタリングが各施設で定着していく取り組み

昨年度より実施している施設は増えているが、相談支援の質保証に重要であり定着が求められる。継続研修の開催など専門部会で定着に向けた取り組みを検討する。

④ 利用者からのフィードバックを得られる体制整備への取り組み

各施設の状況や取り組み、工夫について情報共有するなどして、専門部会として取り組みの指針などを検討する。

⑤ 必要な人が必要な時に、相談支援に繋がるよう、がん相談支援センターの相談窓口機能をより発揮できるような取り組み

がん相談支援センターの案内は全施設が取り組んでいるが、「患者体験調査」では、周知の方法の検討や施設での体制作りなどより検討や工夫が求められる結果となっている。

- ・「がん相談支援センターを知っている人」が 67.2%
- ・「利用したことがある人」は 19.4%
- ・利用しなかった理由のうち、「必要な時に知らなかった人」が 11.8%、「何を相談する場かわからなかった人」が 6.4%

チェックリストの評価の指標やチェックの内容の見直しなどについても検討していく。

## V.活動全体の評価および次年度の課題

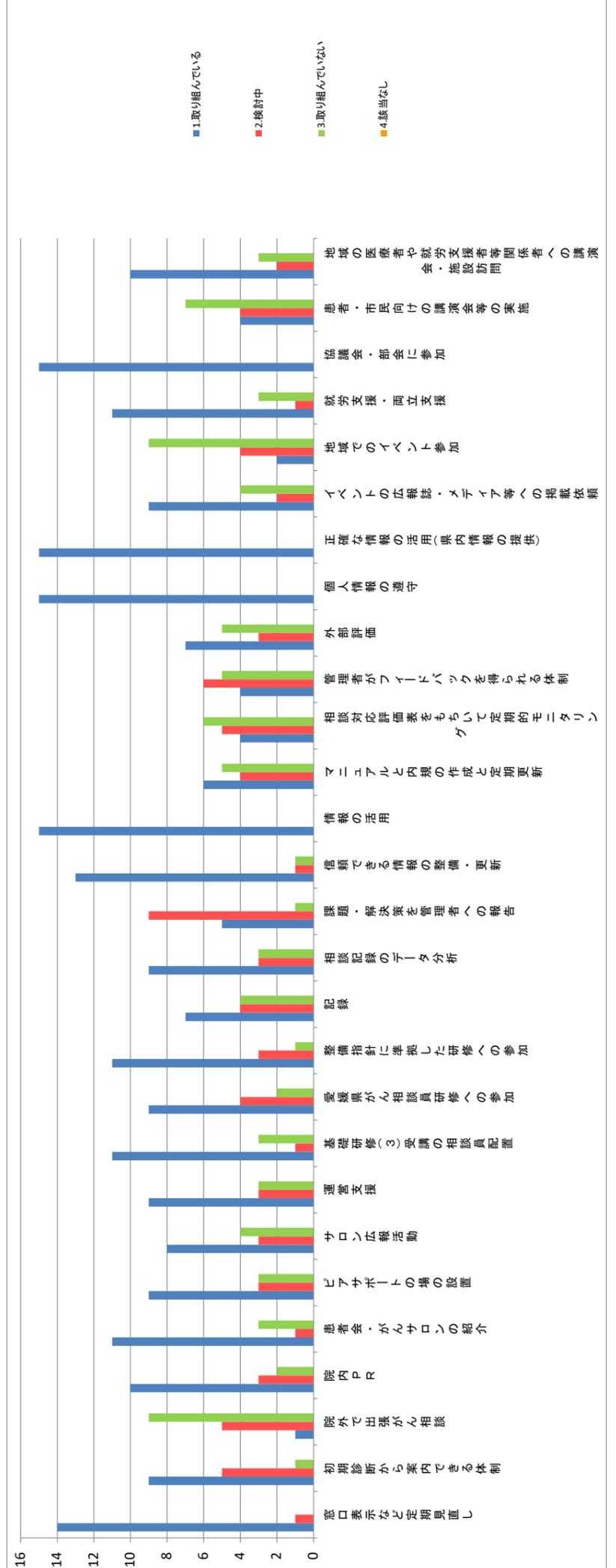
1. 評価指標を作成し、チェックリストに評価指標を加えた結果、評価結果が改善した。  
(1-2-5、1-3-3、1-3-6、1-3-7)
2. チェックリストの運用変更を検討し、グーグルフォームでの入力・集計のフォームを作成した。  
この運用の変更により、入力作業、集計作業の負担の軽減が期待できる。来年度の専門部会で承認を得て、実施する予定。
3. 昨年度の評価結果に引き続き、コロナ禍の影響による相談支援センターの活動への支障は顕著であった。(特に患者家族サロン運営や地域との連携強化について) コロナ禍での患者支援の在り方を専門部会で検討する必要がある。
4. 次年度も各施設で年1回のチェックリスト評価を行う。今後の評価結果集計の取り扱いや専門部会全体の評価方法などについては、ワーキンググループで検討し専門部会に提案する。

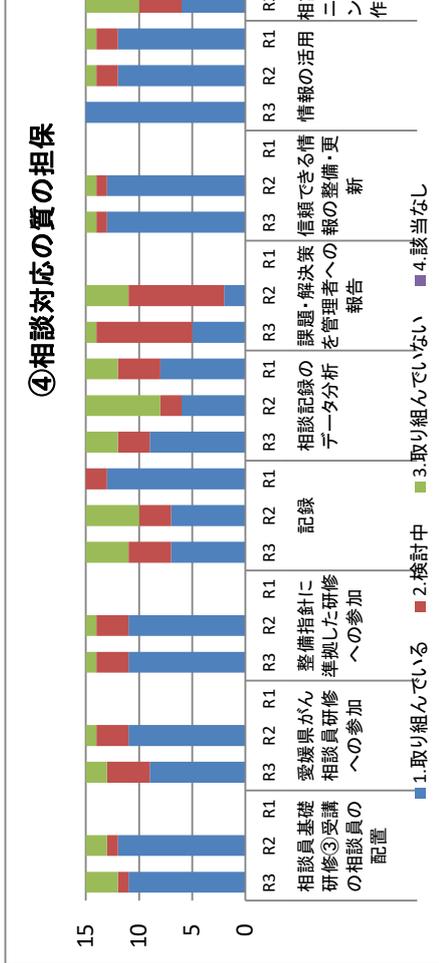
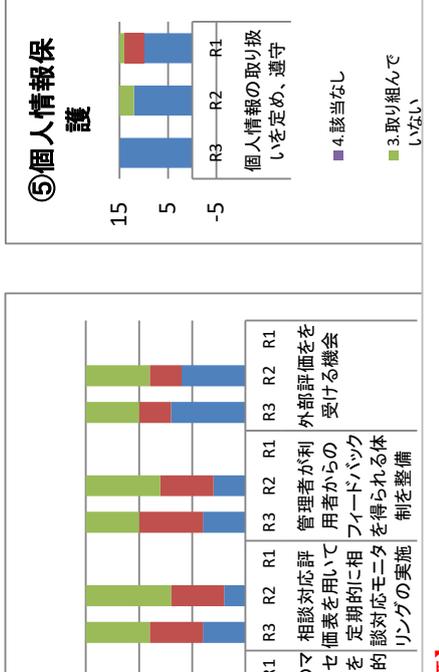
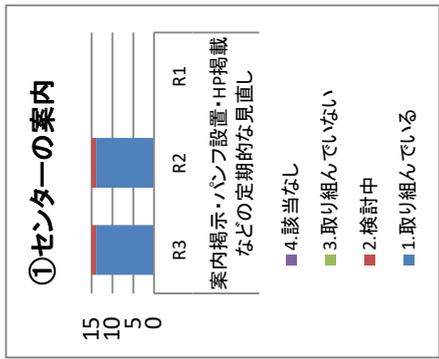
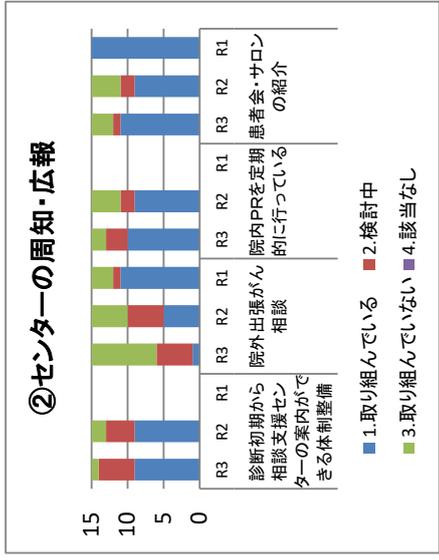
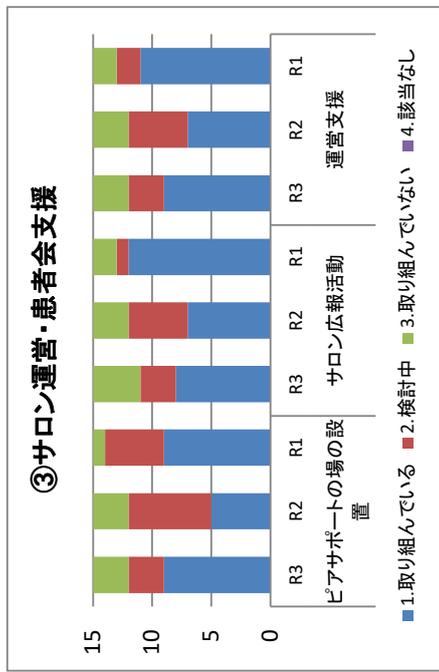
令和3年度 愛媛県 がん相談支援センターの活動のPDCA実施評価表 一覧

赤字:追加・修正  
青字:前年度より改善  
黄字:前年度より下回る

病院名	①センターの基幹		②センターの周知・広報				③サロンの運営・活動支援				④相談対応の質の担保				⑤個人情報保護				⑥地域との連携強化									
	窓口表示 など定期 見直し	初期診断 から案内で きる体制	院外で出 張がん相 談	院内PR	患者会が がんサロ ンの紹介	ピアサポ ートの場 の設置	サロン広 報活動	運営支援	基礎研修 (3)受講の 相談員配 置	愛媛県が ん相談員 研修への 参加	整備指針 に準拠した 研修への 参加	記録	相談記録 のデータ分 析	課題・解決 策を管理 者への報 告	信頼でき る情報の 整備・更 新	情報の活 用	マニュアル と内規の 作成と定 期更新	相談対応 評価をも ちて定期 的モニタ リング	管理者が フィード バックを 得られる 体制	外部評価	個人情報 の遵守	正確な情 報の活用 (県内情 報の提供)	イベントの 広報誌・ メテア等 への掲載 依頼	地域でのイ ベント参 加	就労支援・ 高立支援 会に参加	協議会・部 会に参加	患者・市民 向けの講 演会等の 実施	地域の医療 者や就労 支援者等 関係者へ の講演 会・施設 訪問
A	1	2	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1
B	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	2	1	2	2	1	1	2	2	2	1	1	1	2	1	1	1	2	1
C	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	1	1	1	3	1	1	1	1	1
D	1	1	3	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	3	2	1	1	3	1	1	1	3	1
E	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	2	2	3	1	1	2	1	1	1	1	1
F	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	2	3	2	2	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
G	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1	2	1	1	1	3	1	1	1	2	1
H	1	1	3	1	1	3	3	1	2	1	3	2	1	1	3	1	3	3	2	2	1	1	2	2	1	2	2	2
I	1	3	3	3	1	1	1	1	1	1	3	1	3	1	3	3	3	3	3	3	1	1	3	1	1	1	3	3
J	1	2	2	2	3	2	2	3	2	2	3	2	2	2	1	1	3	3	1	1	1	1	1	1	1	1	3	1
K	1	1	2	1	1	2	2	1	2	1	2	2	1	1	1	1	2	2	2	3	1	1	2	1	1	1	2	2
L	2	2	3	3	2	2	2	2	2	1	2	1	2	2	2	3	1	3	3	3	1	1	3	3	1	1	3	3
M	1	2	3	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	1	1	3	3	3	2	1	1	3	3	1	1	3	3
N	1	2	3	1	3	3	3	3	3	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	3	1	1	1	3	1
O	1	1	3	1	1	1	1	1	2	1	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	1	1	3	3	1	1	3	1

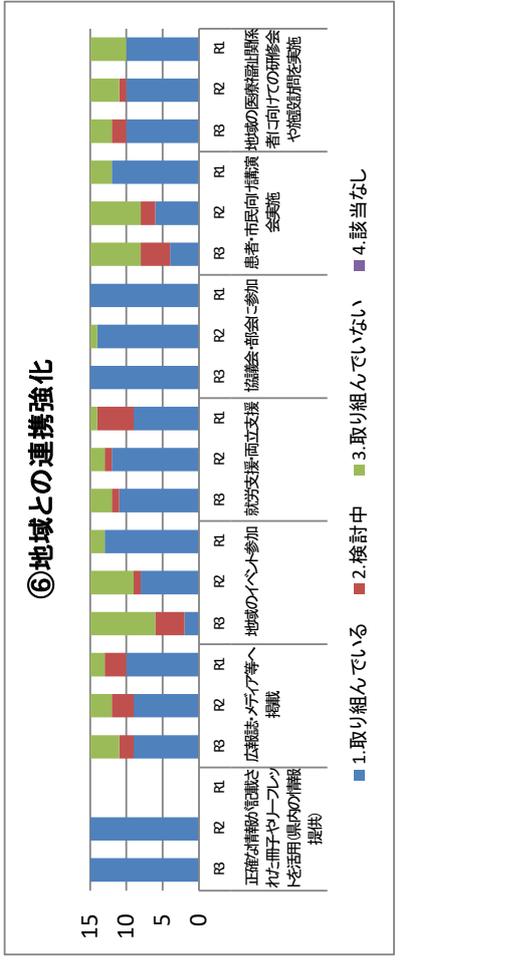
病院名	①センターの基幹		②センターの周知・広報				③がんサロンの運営・患者会の活動支援				④相談対応の質の担保				⑤個人情報保護				⑥地域との連携強化									
	窓口表示 など定期 見直し	初期診断 から案内で きる体制	院外で出 張がん相 談	院内PR	患者会が がんサロ ンの紹介	ピアサポ ートの場 の設置	サロン広 報活動	運営支援	基礎研修 (3)受講の 相談員配 置	愛媛県が ん相談員 研修への 参加	整備指針 に準拠した 研修への 参加	記録	相談記録 のデータ分 析	課題・解決 策を管理 者への報 告	信頼でき る情報の 整備・更 新	情報の活 用	マニュアル と内規の 作成と定 期更新	相談対応 評価をも ちて定期 的モニタ リング	管理者が フィード バックを 得られる 体制	外部評価	個人情報 の遵守	正確な情 報の活用 (県内情 報の提供)	イベントの 広報誌・ メテア等 への掲載 依頼	地域でのイ ベント参 加	就労支援・ 高立支援 会に参加	協議会・部 会に参加	患者・市民 向けの講 演会等の 実施	地域の医療 者や就労 支援者等 関係者へ の講演 会・施設 訪問
1.取り組んでいる	14	9	1	10	11	9	8	9	11	9	11	7	9	5	13	15	6	4	4	7	15	15	9	2	11	15	4	10
2.検討中	1	5	5	3	1	3	3	3	1	4	3	4	3	9	1	0	4	5	6	3	0	0	2	4	1	0	4	2
3.取り組んでいない	0	1	9	2	3	3	4	3	2	1	4	4	3	1	1	0	5	6	5	5	0	0	4	9	3	0	7	3
4.該当なし	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0





**【評価】**

① センターの案内: 前年度同様、全体的に取り組んでいる。  
 ② センターの周知・広報: 診断初期から介入体制整備が進められている。コロナ禍で今年度は更に院外出張がん相談の開催ができず、周知の取り組みは低下しているが、院内周知の取り組みは進められ、患者会やサロンの紹介も改善傾向にある。  
 ③ サロン運営・患者会支援: コロナ禍の影響を受けながらも、昨年度と比較し、取り組んでいるところが多くみられ、ピアサポートの場の設置もR1年と同等に取り組んでいる。  
 ④ 相談対応の質の担保: 課題であった記録・分析の取り組みは増加している。質の担保への取り組みは拠点病院では進められているが、推進病院では研修参加が難しい状況にある。  
 ⑤ 個人情報保護: 前年度の課題であった評価の標準化を行い、すべての所属機関で取り組んでいる。  
 ⑥ 地域との連携強化: コロナ禍で活動自粛のため、地域のイベント参加や患者・市民向け講演会の開催などの取り組みが特に低下しており、見直しを検討されている。地域の医療・福祉関係者に向けての研修や施設訪問はコロナ禍においても維持できている。  
 ⑦ 全体: コロナ禍でも取り組める方法を各所属機関で検討されている。相談対応の質の担保についてはわずかに改善しているもの取り組みへの検討が必要。



2022/4/21幹事会

# がん登録専門部会

寺本典弘

がん登録専門部会

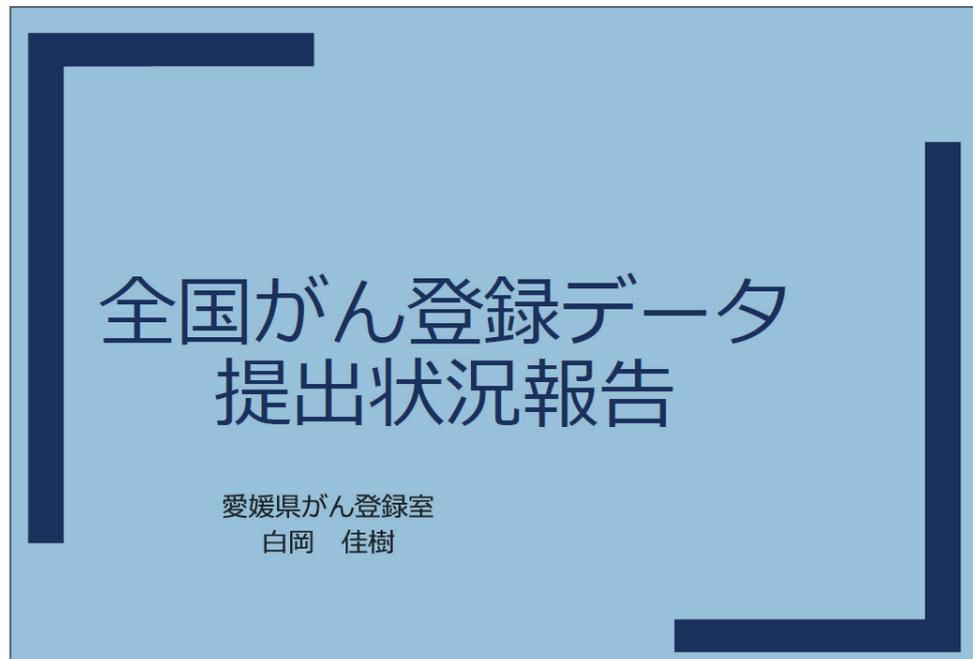


## 愛媛県がん診療連携協議会がん登録専門部会 Agenda 2021年11月15日（金） 時間：13：30～ WebEx 進行：寺本（四国がんセンター） 議事録：HITO病院

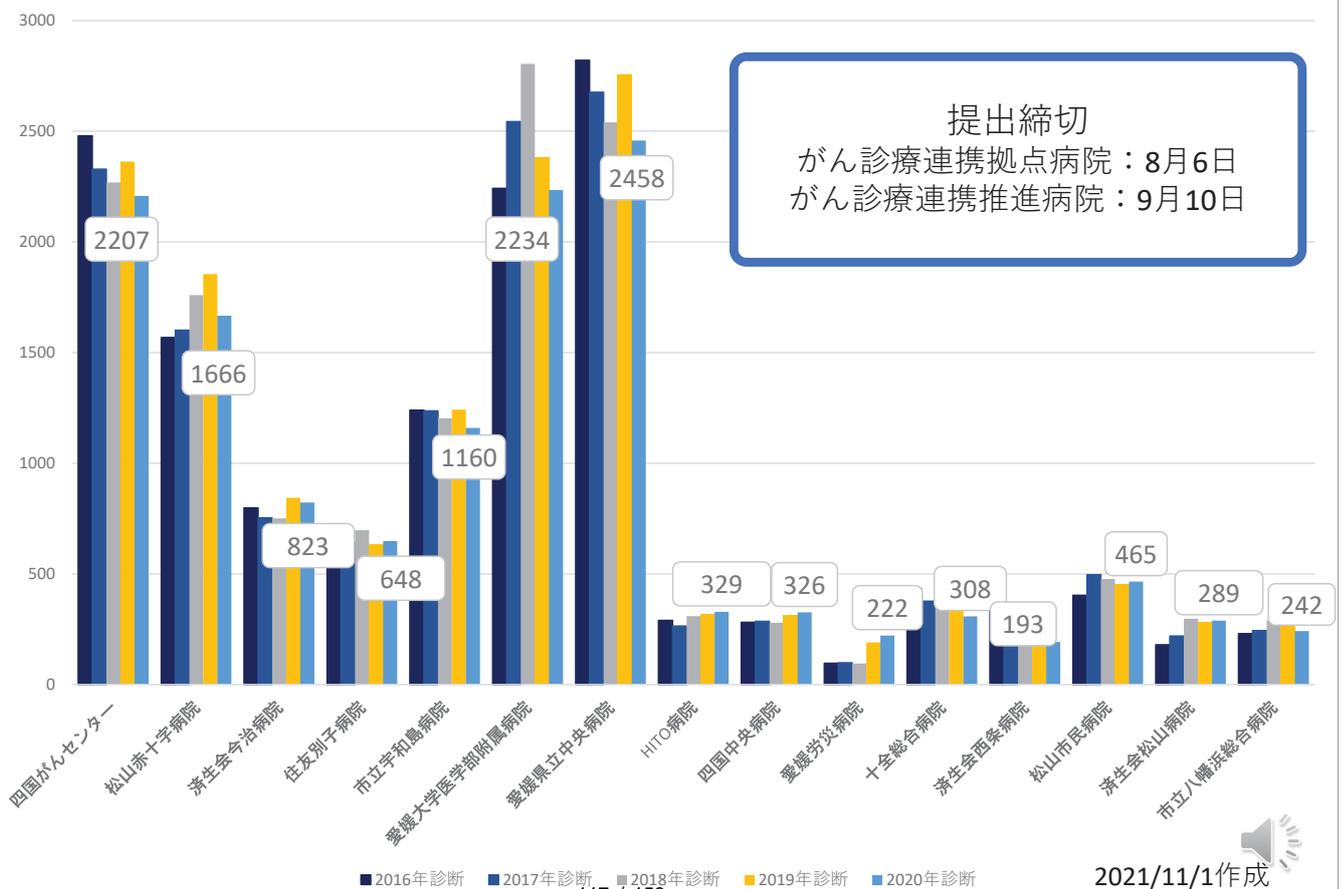
- 全国がん登録に関して
  - 1. 全国がん登録データ提出状況報告  
【愛媛県がん登録室：白岡】
  - 2. 全国がん登録室外部監査に関する報告  
【愛媛県がん登録室：白岡】
  - 3. 予後付きデータの申請・提供に関して  
【愛媛県がん登録室：白岡】
  - 4. 予後付きデータの申請・提供に関して  
\_02\_様式2-2（注釈付き）  
【愛媛県庁：三宅】
  - 3. F:愛媛県の院内がん登録データ利  
活用グループ  
【四国がんセンター：大平】
  - 4. 活動検討委員会 来年度について  
【四国がんセンター：山下】
  - 2. 全県集計版について  
【四国がんセンター：山下】
  - 3. コロナの速報について  
【四国がんセンター：寺本】
- 院内がん登録に関して
  - 1. 活動検討委員会 各グループの進捗に  
ついて
    - 1. A:研修会企画・運営  
【四国がんセンター：大西】
    - 1. B:学び方・考え方  
【済生会今治病院：矢野】
    - 1. C:日常業務悩み相談グループ  
市立宇和島病院：新城】
    - 2. D:はじめての試験対策グループ
- その他
  - 1. PDCA部会の動き (略)
  - 2. ECIP進捗状況
  - 3. 役員会・幹事会について (略)  
【四国がんセンター：寺本】



# 全国がん登録に関して



## 全国がん登録届出状況（拠点・推進）



# 令和三年度中に2020年分愛媛県 データの国がん提出完了

2016~18年のデータはデータ利用審査終了  
愛媛県オープンデータカタログに掲載

2022年3月17日 [2016年愛媛県全国がん登録罹患集計](#)

2022年3月17日 [2017年愛媛県全国がん登録罹患集計](#)

2022年3月17日 [2018年愛媛県全国がん登録罹患集計](#)



## 全国がん登録室の外部監査に関して

「都道府県がん登録室における安全管理措置に係る外部監査」

4-5年に1回

今回は2017年に受けている

オンラインによる聴取：2021年10月25日（月）13:00-16:30

現地監査：2021年10月29日（金）13:30-15:30

22/01 監査結果報告

22/03 指摘事項を確認し、書類などの修正を行い報告



# 予後付きデータの申請・提供に関して) 【愛媛県庁：三宅】

- ・ 申請書の利用方法について作成した。
- ・ 県のHPのがん対策へ随時更新予定である確認をお願いしたい。
- ・ 申請までに各施設の院内がん登録実施規程・情報利用・管理規定の確認や整備をお願いしたい。
- ・ セキュリティ関連の確認や整備もお願いしたい。

様式第2-2号(第6条第2号関係) 情報の提供申出文書(法第20条による申出)

年 月 日

愛媛県知事 ○○ ○○ 様

機関名  
職名 氏 名 印

愛媛県がん情報の提供の請求について

標記について、がん登録等の推進に関する法律(平成25年法律第111号)第20条の規定に基づき、別紙のとおり当<病院等名称>から届出がされたがんに係る愛媛県がん情報の提供申出を行います。

## 全国がん登録データ利用

行政的利用	<b>①都道府県での報告書作成、がん対策への利用(法第18条)</b> <span style="float: right;">要審議会</span> <small>第十八条 都道府県知事は、当該都道府県のがん対策の企画立案又は実施に必要ながんに係る調査研究のため、これに必要な限度で、全国がん登録データベースを用いて、当該都道府県に係る都道府県がん情報又はこれに係る特定匿名化情報を自ら利用し、又は次に掲げる者に提供することができる。(後略)</small>
	<b>②市町村のがん検診の精度管理等(法第19条)</b> <span style="float: right;">要審議会</span> <small>第十九条 都道府県知事は、次に掲げる者から、当該市町村のがん対策の企画立案又は実施に必要ながんに係る調査研究のため、当該都道府県に係る都道府県がん情報のうち第五条第一項第二号の情報として当該市町村の名称が記録されているがんに係る情報又はこれに係る特定匿名化情報の提供の求めを受けたときは、これに必要な限度で、全国がん登録データベースを用いて、その提供を行うものとする。(後略)</small>
臨床的利用	<b>③患者予後情報の提供(法第20条)</b> <span style="float: right;">審議会不要</span> <small>第二十条 都道府県知事は、当該都道府県の区域内の病院等における院内がん登録その他がんに係る調査研究のため、当該病院等の管理者から、当該病院等から届出がされたがんに係る都道府県がん情報(厚生労働省令で定める生存確認情報及び厚生労働省令で定める当該病院等に係る第五条第二項に規定する附属情報に限る。)の提供の請求を受けたときは、全国がん登録データベースを用いて、その提供を行わなければならない。(後略)</small>
研究的利用	<b>④研究利用(法第21条第8項及び第9項)</b> <span style="float: right;">要審議会</span> <small>第二十一条 8 都道府県知事は、がんに係る調査研究を行う者から当該都道府県に係る都道府県がん情報の提供の求めを受けた場合において、次に掲げる要件のいずれにも該当するときは、当該がんに係る調査研究に必要な限度で、全国がん登録データベースを用いて、その提供を行うことができる。(中略)            9 都道府県知事は、がんに係る調査研究を行う者から当該都道府県に係る都道府県がん情報につき匿名化が行われた情報の提供の求めを受けた場合において、次に掲げる要件のいずれにも該当するときは、当該がんに係る調査研究に必要な限度で、全国がん登録データベースを用いて、都道府県がん情報の匿名化及び当該匿名化を行った情報の提供(当該提供の求めを受けた情報が都道府県がん情報に係る特定匿名化情報である場合においては、その提供)を行うことができる。(後略)</small>

厚労省がん登録専門部会で審議中

# 注意！ データ提供を受けるには

- 院内がん登録実施規定
- 院内がん登録情報利用規程
- 院内がん登録情報管理規定
- 院内がん登録委員会実施規定と実施
  - 以上に相当する規定とその実施が必須
  - 規定名、委員会名は自由
    - 実施・管理・利用・委員会に関する規定が必要

## 院内がん登録に関して

### 活動検討委員会の目的

#### 現状の課題

- 研修会開催（拠点病院持ち回り研修会など）に対する課題として、
  - 研修会で扱うテーマの継続性を維持しがたい
  - 長期的な視野での人材育成が難しい
  - 開催担当施設の企画運営の負担  
(人の異動・担当者の人数減、施設内での理解度に温度差あり)
  - 推進病院さんからの企画運営への参加
  - 受講者のレベルの差に対する対応



長期的な視野も入れ継続的に  
愛媛県がん登録実務者の育成を考えていくためのWGを立ち上げたい



# 活動検討委員会各グループの進捗について【四国がんセンター：山下】

がん登録専門部会活動検討委員会/グループ活動の進捗報告/来年度の継続可否について検討

全県版集計の見直し、および、  
グループ活動に関するアンケート結果

【回答〆切11/8(月)正午】

2021.11.09

全15施設から回答あり



**アンケート結果のフィードバックを行った**



22/04/19

令和4年度\_活動説明会

- 19日開催後このスライドは作成する



# 全県集計版について 【四国がんセンター：山下】

## データ利活用の状況



今一度、がん情報利用プロジェクトで協議会内に広報

# コロナの速報について 【四国がんセンター：寺本】

URL [コロナ速報版『がん登録で見る愛媛県のがん診療 2020年診断』報告 on line meeting](https://ecch.jp/?page_id=2006)  
« 愛媛県がん診療連携協議会 HP  
[https://ecch.jp/?page\\_id=2006](https://ecch.jp/?page_id=2006)

- ・ 新聞 2 社掲載
- ・ 日本医師会JACR共催シンポジウム
- ・ 東京都がん診療連携協議会
- ・ 日本疫学会シンポ
- ・ 愛媛県知事記者会見（調整中）

## Take home message

- 院内がん登録を利用して愛媛県内のコロナ禍のがん診療を解析した。
- 愛媛県内ではがん医療崩壊というほどの大きな変化はないが、様々な影響が見られた。
  - 検診・人間ドックが特に必要とされる年代での受診率・発見率が下がっている
  - 患者の移動・センチメントが低下している
- 健康のための活動は自粛してはならない

# ECIPの進展

寺本典弘

## がんサポートサイト えひめWG

令和3年11月

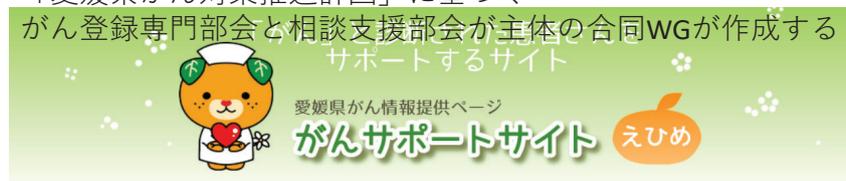
寺本典弘  
がん登録専門部会  
相談支援部会共同



17

### 『がんサポートサイト愛媛』概略

- 愛媛県がん診療連携協議会が愛媛県より受託したがん情報サイト
- 「愛媛県がん対策推進計画」に基づく
- がん登録専門部会と相談支援部会が主体の合同WGが作成するサポートするサイト



初めの方へ・このサイトについて 

部位別目次	病院別目次	
<b>乳房</b> 病気を 知る > 病院を 探す >	<b>胃</b> 病気を 知る > 病院を 探す >	<b>大腸 (作成中)</b> 病気を 知る > 病院を 探す >
<b>肺</b> 病気を 知る > 病院を 探す >	<b>肝臓</b> 病気を 知る > 病院を 探す >	<b>原発不明がん</b> 病気を 知る > 病院を 探す >

愛媛県内がんサロン開催予定表 (外部サイトにリンクします)  
リンク  
サイトマップ  
クレジット・免責事項

県より公式に受託しているが、『公式』を押すと作成が面倒になる



18

# 令和4年4月現在

- コンテンツ
  - がん患者のためのコロナ情報
  - 癌腫別
    - 乳房・胃・大腸・肺・肝臓・子宮頸部・  
原発不明癌・AYA世代(15-39歳)の癌のが  
ん、膵臓、前立腺
  - トピック別 あなたを支える
    - 暮らしを支える・がん相談支援セン  
ター・セカンドオピニオン・治験・臨床  
試験案内・リンパ浮腫・将来子どもを望  
む方へ（妊孕性）・遺伝性腫瘍につい  
て・いたみを和らげる
- アクセス状況
  - 11689 views /2020
  - 4406 unique access /2020



## 愛媛県がん診療連携協議会がん登録専門部会議事録

日にち：2021年11月15日（月）

時間：13：30～15：00

開催方法：Web会議（使用会議システム：webex）

進行：四国がんセンター 寺本典弘、議事録：HITO病院（高橋）

参加施設：県庁(1)、愛媛県立中央病院(5)、市立宇和島病院(1)、松山赤十字病院(2)、  
愛媛大学医学部附属病院(5)、済生会今治病院(2)、住友別子病院(1)、  
四国がんセンター(10)、HITO病院(1)、十全総合病院(2)、松山市民病院(2)、  
済生会西条病院(2)、愛媛労災病院(1)、済生会松山病院(1)、四国中央病院(1)、  
市立八幡浜総合病院(2) ※（ ）内は参加人数（1機関、7拠点、8推進 39名）

### ≪議題≫

#### ●全国がん登録に関して

1. 全国がん登録データ提出状況報告【愛媛県がん登録室：白岡】※詳細はスライド参照  
→2020年診断提出状況報告あり。現在作業中のため問い合わせ際は対応をお願いしたい。
2. 全国がん登録室外部監査に関する報告【愛媛県がん登録室：白岡】※詳細はスライド参照  
→「都道府県がん登録室における安全管理措置に関わる外部監査」を、10/25.10/29に実施済。  
6週間以内に書面による監査結果が届く予定。
3. 予後付きデータの申請・提供に関して【愛媛県がん登録室：白岡】※詳細はスライド参照  
→全国がん登録データから予後情報の提供に関して県に申請中である。  
体制が整い次第各施設へ連絡予定。各施設から県への申請をお願いしたい。
4. 予後付きデータの申請・提供に関して\_01\_【概要】規程類の整備について【愛媛県庁：三宅】※  
詳細はスライド参照  
→全国がん登録における愛媛県がん情報の提供に係る規程の整備についてスライドに沿って  
説明。
5. 予後付きデータの申請・提供に関して\_02\_様式2-2（注釈付き）【愛媛県庁：三宅】  
※詳細はスライド参照  
→申請書の利用方法について（スライド赤文字部分）作成した。  
県のHPのがん対策へ随時更新予定である確認をお願いしたい。（県庁 三宅）  
→申請までに各施設の院内がん登録実施規程・情報利用・管理規定の確認や整備をお願いしたい。  
→セキュリティ関連の確認や整備もお願いしたい。（県庁 三宅）

#### ●院内がん登録に関して

6. 活動検討委員会各グループの進捗について【四国がんセンター：山下】※詳細はスライド参照  
→がん登録専門部会活動検討委員会/グループ活動の進捗報告/来年度の継続可否について検討  
A:研修会企画・運営【四国がんセンター：大西】※スライドなし  
→初級/中級試験のe-learningの供覧をWEBにて2回実施済。  
→1/22（土）、1/29（土）13：00-16：00（WEB）5大がん研修を予定している。  
1/22（土）第1回：標準登録様式について<江森先生>  
1/29（土）第2回：院内がん登録・全国がん登録の違いについて、多重がんルール<塚田先生>

B: 学び方・考え方【済生会今治病院：矢野】※詳細はスライド参照

- 8/26、9/16、10/14 14:00-15:00 (WEB研修) を開催済。
- 開催までに準備等の負担も多いと思うが、開催後のメリットはあったか。(四がん 山下)
- 自身で気づけていなかった点や重要な部分を確認することができ、言語化できるようになった。(済生会今治 矢野)

C: 日常業務悩み相談グループ【市立宇和島病院：新城】※スライドなし

- グループメーリングリストを活用し活動を行った。本日まで個人間の相談も含め2件の相談があった。相談内容についてがん登録専門部会の実務者とも共有するために、本日の午前中にごん登録専門部会のMLに送信している。些細な内容でもよいので活発に投稿してほしい。
- (市立宇和島 新城)

D: はじめての試験対策グループ【松山赤十字病院：田村】※詳細はスライド参照

- 9/6、9/24、10月 13:30-15:30 (WEB研修) を開催済。→11/24 (第4回) 開催予定
- 9/8-10/14の期間：グループメーリングリストを有効活用し、チャレンジ問題を実施済。

F: 愛媛県の院内がん登録データ利活用グループ【四国がんセンター：大平】※スライドなし

- 7月の専門部会で報告(議事録参照)の通り、現在各施設で作業中であり、5月発刊を目指す。

7. 活動検討委員会来年度について【四国がんセンター：山下】※詳細はスライド参照

- 施設持ち回りの研修会について、賛成の意見のあった施設のご意見をお願いしたい。(山下)
- 自施設でも開催は難しいが、コロナ前のように開催できればよい。(四国中央 土田)
- 対面でコミュニケーションを取りながら集まる場がほしい。(愛媛労災 中山)
- 対面での開催の方がよいではないか。(松山赤十字 田村)
- 交流が深まるのでよいと思うが、開催施設は検討が必要である。(四がん 大平)
- 持ち回りの研修会については、がん登録専門部会活動検討委員会へ提案予定とする。(山下)
- 来年度は活動検討委員会、グループ活動は継続予定とする。グループ活動については拠点病院の担当者へ協力をお願いしたい。(四がん 山下)

8. 全県集計版について【四国がんセンター：山下】※詳細はスライド参照

- 全県集計データの活用について教えてほしい。(四がん 山下)
- 自施設とのデータ比較に使用しており、院内がん登録委員会や医局会での報告に活用している。(HITO 高橋)
- 委員会報告に活用している。分析までには至っていない。(県中 岡)
- 全県集計データについて：現状のままがよいと回答のあった施設にご意見をお聞きしたい。
- 院内報告等に活用しており、経年比較を行っているので可能な限りレイアウト変更も含め現状のままを希望(愛大 松木)
- 多少のレイアウト変更や分量を減らしても問題ない。(市立宇和島 新城)
- 現状のデータに慣れてきたので、現状のままを希望する。(四国中央 土田、愛媛労災 中山)
- 使用状況はないが、現状のままを希望する。(松山市民 平田)

9. コロナの速報について【四国がんセンター：寺本】※詳細はスライド参照

●その他【四国がんセンター：寺本】

10. PDCA部会の動き ※詳細はスライド参照  
ECIP進捗状況 ※詳細はスライド参照  
役員会・幹事会について ※詳細はスライド参照
  
11. 次回議事録担当 愛媛労災病院

# 令和3年度 愛媛県

# がん登録専門部会活動報告

2022年3月

## 目次

愛媛県がん診療連携協議会がん登録専門部会.....	2
院内がん登録活動検討委員会.....	2
がん登録実務者のための5大がん登録講座2021.....	4
e-learning 供覧会.....	4
がん登録実務者のキャリアパスとデータ活用に関する検討会.....	4
「がん登録でみる愛媛県のがん診療 2020年診断」.....	5
「がん登録でみる愛媛県のがん診療 2020年診断」 コロナ速報集計・報告.....	6
がんサポートサイトえひめ.....	6
アンケート調査など.....	6
専門部会活動案と参加状況.....	8
実務体制.....	10
認定・更新試験 合格者数.....	10
全国がん登録 届出の状況.....	11
国がん全国集計等への参加状況.....	14
その他研修会、学会参加状況.....	14

## 愛媛県がん診療連携協議会がん登録専門部会

---

- 第1回 2021年7月2日 13:00～14:30  
WEB（四国がんセンター遠隔病理診断室配信）  
参加施設 県庁1名、拠点6施設、推進6施設37名  
（欠席施設：住友別子、十全総合、済生会松山）
- 第2回 2021年11月15日 13:30～15:00  
WEB（四国がんセンター遠隔病理診断室配信）  
参加施設 県庁1名、拠点7施設、推進8施設39名（欠席施設：なし）

## 院内がん登録活動検討委員会

---

立ち上げの経緯：

R2年度コロナの影響で対面での従来の研修会が中止された。また、以前より、研修会等の専門部会活動の企画・運営に関し、主催側の負担面も含め課題が認識されていた。一方、R2年5月に県内実務者を対象にしたアンケートでは、研修会が中止されると試験対策や情報収集、業務上の課題解決に不安があるとの意見があった。このような背景から、長期的な視野も入れ継続的に愛媛県のがん登録実務者の育成を考えていくためのワーキンググループを立ち上げたいとR2年度第2回の専門部会で提案し、メンバーを募集、2021年1月より活動を開始した。

立ち上げ時のメンバー（敬称略）：

田村（松山日赤）、矢野（済生会今治）、新城（市立宇和島）、西森（四国がん）、大西（四国がん）、檜崎（四国がん）、寺本（四国がん）、山下（四国がん）

今年度の活動目標：

1. 受験予定者のための学習や交流の場を作る。
2. 専門部会活動や日常業務を円滑に進めるために、他施設間の交流を通じて一緒に学ぶ。
3. 専門部会の現状把握と課題の抽出・整理をし、次年度以降の活動計画に組み込む。

委員会の開催実績：

- 第1回 2021/1/19
- 第2回 2021/2/12

- 第3回 2021/3/16
- 第4回 2021/5/18
- 第5回 2021/8/24
- 第6回 2021/11/16
- 第7回 2022/1/18
- 第8回 2022/2/15

今年度の主な活動内容：

- R3年度 愛媛県がん登録専門部会 活動案説明会  
日時：2021年4月20日 13:30～15:00  
場所：WEB（四国がんセンター遠隔病理診断室配信）  
参加施設：拠点6施設、推進3施設 32名  
内容：実務者へのメッセージ（谷水協議会会長）、グループ活動を中心とした活動案の説明
- 中級&初級認定・更新試験合格者との情報交換会  
日時：2021年5月28日 13:30～15:00  
場所：WEB（四国がんセンター遠隔病理診断室配信）  
参加施設：拠点6施設、推進3施設、他1施設、23名  
内容：前年度受験者との情報交換会
- グループ活動
  1. 研修会企画・運営グループ（Aグループ）、リーダー：西森（四国がん）
  2. 学び方・教え方 ～～私はこちら～（Bグループ）、リーダー：矢野（済生会今治）
  3. 日常業務悩み相談（他施設交流）グループ（Cグループ）、リーダー：新城（市立宇和島）
  4. はじめての試験対策グループ（Dグループ）、リーダー：田村（松山日赤）
  5. 勉強会グループ（Eグループ）、アンケート取りまとめ：高橋（HITO）
  6. 愛媛県の院内がん登録データ活用グループ（Fグループ）、リーダー：大平（四国がん）

# がん登録実務者のための5大がん登録講座 2021

---

- 2022年1/22(土)、1/29(土) 13:00-16:00 (WEB)

1/22(土) 第1回：標準登録様式について<江森先生>

参加申込 131名 (愛媛県内：53名、愛媛県外：78名)

1/29(土) 第2回：院内がん登録・全国がん登録の違いについて、多重がんルール<塚田先生>

参加申込 124名 (愛媛県内：51名、愛媛県外：73名)

詳細：[がん登録実務者のための5大がん登録講座 2021](http://ecch.jp) < 愛媛県がん診療連携協議会 (ecch.jp) >

## e-learning 供覧会

---

- 2021/9/17 13:30~16:00
- 2021/10/5 13:30 ~ 15:30

## がん登録実務者のキャリアパスと データ活用に関する検討会

---

目的：

がん登録実務者のキャリアパスとデータ活用に関して、宮城県の事例と愛媛県での経験を共有し、今後の実務者の人材育成・データ利活用に活かす

日時：2021/8/31(火) 13:30 ~ 15:00 web(四国がん発信)

講師および参加者：

金村政輝先生 宮城県立がんセンター 研究所 がん疫学・予防研究部

佐藤真弓氏 宮城県立がんセンター 院内がん登録室 副室長

佐藤洋子氏 宮城県立がんセンター 宮城県がん登録室 副室長

愛媛県がん登録専門部会メンバー

内容：

下記の2つのテーマに関して、主に、ディスカッション形式で事例の共有と課題の整理を行った。

テーマ1：がん登録実務者のキャリアパスに関して

テーマ2：院内がん登録データの利活用に関して

# 「がん登録でみる愛媛県のがん診療 2020 年診断」

---

- 2019年診断症例：
  - ・施設別集計の冊子を2021年4月30日付けで刊行。発行部数：250部
  - ・各拠点・推進病院、院内がん登録関係者、各都道府県がん診療連携拠点病院へ配布。
  - ・全県集計版は、2021年7月協議会HPへ公開
- 2020年診断症例：
  - ・施設別冊子は、仕様や部数など前年と同様に作成
  - ・2018～2020年を各施設から収集
  - ・各治療の当該腫瘍初診日・診断日から治療開始日までの日数を新たに収集
  - ・説明ポイントのページを工夫できないか検討し、2施設で試作
- 2014年診断症例の5年予後付きデータ：
  - ・例年通り、収集し、集計値を公表予定

# 「がん登録でみる愛媛県のがん診療 2020 年診断」 コロナ速報集計・報告

---

愛媛県がん診療連携協議会の事業である『がん登録でみる愛媛県のがん診療 2020 年診断』の集計作業を例年より早く行い、速報値として公表を行った

- 2021 年 7 月 がん登録専門部会にて説明
- 2021 年 8 月 役員会にて承認
- 2021 年 9 月 データ収集メ切
- 2021/10/1 県内拠点・推進病院がん登録実務者との結果共有
- 2021/10/7 18:00～ 愛媛県がん診療連携協議会にて集計結果報告
- 2021/10/11 一般向け報告会（70unique access）
- 新聞 2 社掲載、日本医師会 JACR 共催シンポジウム講演（2022/1/31）、愛媛県知事記者会見（調整中）

## がんサポートサイトえひめ

---

- 概略
  - ・愛媛県がん診療連携協議会が愛媛県より受託したがん新規罹患者援助を目指すがん情報サイト
  - ・がん登録専門部会と相談支援部会が主体の合同 WG が作成
- 進捗 21 年度
  - 2021 年 5 月「膵の病気を知る」「膵腺の病院を探す」を新たに公開
  - 2021 年 12 月「前立腺の病気を知る」「前立腺の病院を探す」を新たに公開
  - 既存データ更新など

## アンケート調査など

---

- 施設プロフィールシート、ML、Moodle アカウムの登録状況の確認
  - 担当者の連絡先などの項目を追加
  - 対象：拠点・推進病院
  - 方法：エクセルファイルに入力

回答期間：2021/4/13 – 5/10

共有：2021/5/17 に収集したものを事務局で整理しメールにて配布

- がん登録認定・更新試験についてのアンケート

対象：試験受験者

方法：Google form、試験問題はエクセルファイル

回答期間：2021/10/7 – 12/

- 全県版集計の見直し、および、グループ活動に関するアンケート

対象：拠点・推進病院（施設ごとに回答）

方法：Google form

回答期間：2021/10/29 – 11/8

- R3 年度 がん登録専門部会活動に関するアンケート

対象：県内がん登録実務者（拠点・推進病院 43 名、一般病院 3 名）

方法：Google form

回答期間：2022/3/8 – 3/23



● 参加状況

参加人数、議事録担当●、進行、発表★

	専門部会 (7/2)	専門部会 (11/15)	検討委 員会	グループ 活動参 加	活動説明会 (4/20)	情報交換会 (5/28)	キャリ アパス 検討 会
四国がん	11,★	10,★	5	8	14,★	7,★	7
市立宇和 島	1,★	1,★	1	1	1,★	1,★	
住友別子	0	1	0	1	0	0	
愛大附属	7	5	0	7	4	2	2
県立中央	4	5	0	3	4	1	4
松山日赤	5,★	2,★	1	5	1,★	5,★	1
済生会今 治	2,★	2,★	1	2	2,★	1	1
HITO	1	1,●	0	3	2	2	
四国中央	1,●	1	0	1	0	1	
愛媛労災	1	1	0	1	0	0	
十全総合	0	2	0	2	2	0	
済生会西 条	1	2	0	1	0	0	
松山市民	1	2	0	0	0	0	
済生会松 山	0	1	0	0	2	0	
市立八幡 浜	2	2	0	2	0	2	

# 実務体制

2021年4月現在（施設プロフィールシートより）

	中級認定者	初級認定者	部会長・副部会長	協力医師等	2020年度 院内がん登録委員会開催
四国がん	2	7	2	2	1
市立宇和島	1	0	1		無
住友別子	2	1	0		無
愛大附属	1	3	1		無(*)
県立中央	2	2	2		1
松山日赤	2	2	0		無(*)
済生会今治	1	1	0	1	無
HITO	1	1	0	2	1
四国中央	1	0	0		無
愛媛労災	0	1	0		無
十全総合	1	1	0		無
済生会西条	0	2	0	1	無
松山市民	0	1	0	1	無
済生会松山	0	3	0		1
市立八幡浜	0	0	0		無

# 認定・更新試験 合格者数

R3年度の合格者数（専門部会で把握できている人数）

初級認定試験：

初級更新試験：

中級認定試験：

中級更新試験：

# 全国がん登録 届出の状況

## 届出件数

	診断年				
	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
四国がんセンター	2479	2328	2268	2363	2207
松山赤十字病院	1568	1601	1759	1855	1666
済生会今治病院	797	753	751	844	823
住友別子病院	690	643	698	633	648
市立宇和島病院	1240	1237	1203	1242	1160
愛媛大学医学部附属病院	2242	2543	2804	2380	2234
愛媛県立中央病院	2819	2676	2540	2757	2458
HITO 病院	290	264	309	317	329
四国中央病院	282	286	279	312	326
愛媛労災病院	97	99	96	191	222
十全総合病院	435	376	400	351	308
済生会西条病院	346	299	187	189	193
松山市民病院	404	497	477	453	465
済生会松山病院	180	219	298	284	289
市立八幡浜総合病院	230	244	290	271	242

廻り依頼件数

	死亡年			
	2016年	2017年	2018年	2019年
四国がんセンター	36	9	12	11
松山赤十字病院	6	6		5
済生会今治病院	7	6	7	1
住友別子病院		7	2	9
市立宇和島病院	7	5	3	2
愛媛大学医学部附属病院	1	5	2	2
愛媛県立中央病院	6	6	5	4
H I T O病院	3	3	5	3
四国中央病院	3	5	1	5
愛媛労災病院	6	8	8	1
十全総合病院	6	2	5	1
済生会西条病院	7	9	3	5
松山市民病院	39	24	18	8
済生会松山病院	2	11	3	3
市立八幡浜総合病院	5	5	3	4

## 照会件数

	2019					2020				
	届出 件数	エ ラー	警告	照 会 件 数	目 視 修 正 数	届出 件数	エ ラー	警告	照 会 件 数	目 視 修 正 数
四国がんセンター	2363	0	100	91	0	2207	0	97	91	1
松山赤十字病院	1855	5	101	43	4	1666	0	74	57	0
済生会今治病院	844	2	50	12	0	823	0	36	36	2
住友別子病院	633	8	4	12	22	648	2	5	6	25
市立宇和島病院	1242	0	38	38	0	1160	1	30	31	0
愛媛大学医学部附属病院	2380	2	107	108	36	2234	2	151	101	18
愛媛県立中央病院	2757	1	105	41	0	2458	0	91	49	2
HITO 病院	317	1	6	7	1	329	1	13	14	1
四国中央病院	312	2	11	13	9	326	1	5	6	3
愛媛労災病院	191	0	2	2	2	222	0	10	6	0
十全総合病院	351	0	8	8	0	308	0	13	13	0
済生会西条病院	189	1	3	4	7	193	1	5	3	3
松山市民病院	453	2	13	14	2	465	2	14	16	10
済生会松山病院	284	2	10	2	25	289	2	15	10	0
市立八幡浜総合病院	271	0	41	10	3	242	0	15	7	2

## 国がん全国集計等への参加状況

- 院内がん登録全国集計

	拠点参加施設数	推進参加施設数	不参加
2020 年全国集計報告書	7 施設	7 施設	市立八幡浜
2019 年全国集計報告書	7 施設	6 施設	十全総合、市立八幡浜
2018 年全国集計報告書	7 施設	6 施設	四国中央、十全総合

- 院内がん登録生存率集計

	拠点参加施設数 (集計対象)	推進参加施設数 (集計対象)
2012-2013 年	7 施設 (7)	0 施設 (0)
2012 年	7 施設 (7)	0 施設 (0)
2010-2011 年	7 施設 (6)	0 施設 (0)

- 国がん QI 調査参加施設  
拠点病院 7 施設

## その他研修会、学会参加状況

専門部会活動に関係するもの

- JACR 第 30 回学術集会・研修会（東京）：6/9-11(座長 1 名、発表 3 名)
- 第 47 回診療情報管理学会（名古屋）：9/16-17
- 国立がん研究センター主催 院内がん登録データ分析研修：11/24,29(講師 1 名、聴講 1 名)

令和4年度愛媛県がん診療連携協議会  
第1回幹事会  
「がんの集学的治療専門部会」  
2022/04/21 on WEB

1. 薬業連携 連携協議会共催講演会 Oncology Specialist Meeting 2021 (10/27 on WEB)
2. ゲノム研究と治験情報提供について
3. HD曝露共同研究  
CSTDによるコアリングの調査結果
4. 新規検討課題:ITを用いた副作用管理ツールの開発・運用
5. 放治の病院間紹介状の提案
6. 外来がん化学療法室のブラッシュアップセミナー

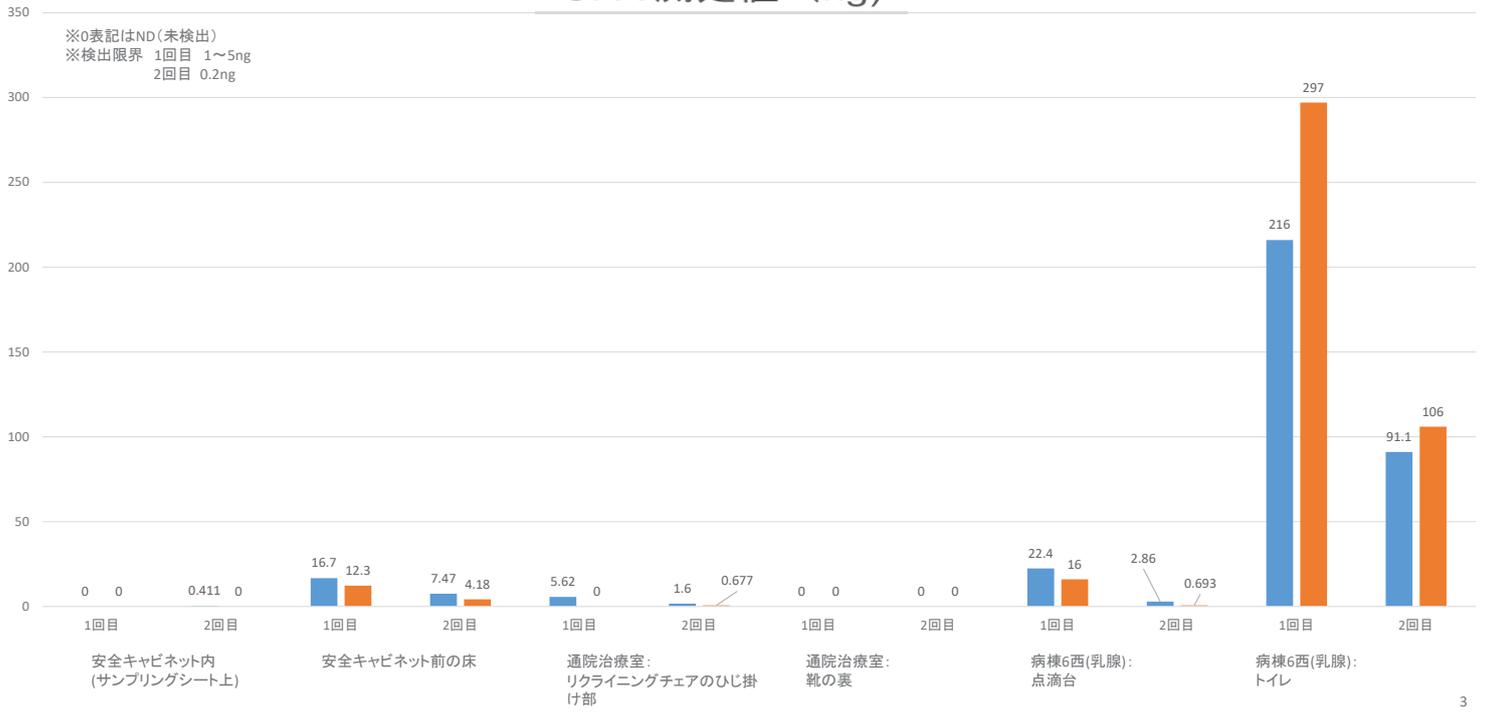
## SCRUM JAPAN 研究について

- SCRUM JAPANの現状  
2014年からGI-SCREENがん遺伝子パネル検査（組織）によるスクリーニング研究開始。その後パネル検査の保険承認。  
その後、リキッドバイオプシー（血液）によるスクリーニング研究開始。2021年F1CD x liquidの承認。  
今後、スクリーニング研究としては終了することとなった。  
2021年12月からは全ゲノム解析研究に移行する予定。

2017年からGI-SCREEN愛媛連携を発足後。症例登録にご協力いただきありがとうございます。  
フォローアップ調査については継続しています。

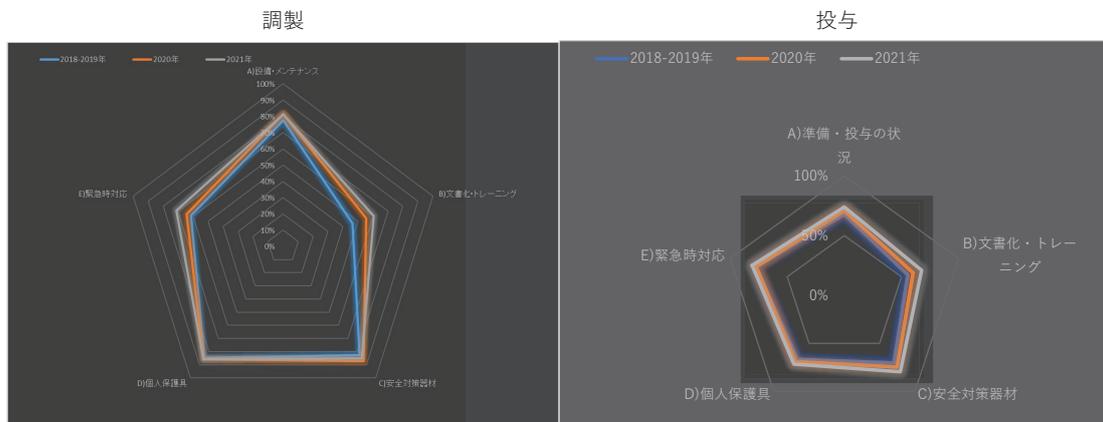
### 4-1. 四国がんセンター

### CPA 測定値 (ng)



## 調製・投与ペンタゴン

(愛媛県がん診療連携病院参加12施設)



## CSTDによるコアリング調査

- CSTD使用あり vs CSTD使用なし: 4.7% vs 0.1%
- コアリングの際の異物の解析

### scientific reports

OPEN **Frequency and component analysis of contaminants generated in preparation of anticancer agents using closed system drug transfer devices (CSTDs)**

Satomi Sumikawa<sup>1</sup>, Yoshihiro Yakushijin<sup>2,3</sup>, Kenjiro Aogi<sup>3</sup>, Takuya Yano<sup>4</sup>, Hiroki, Hashimoto<sup>5</sup>, Chiyuki Tsukui<sup>6</sup>, Tadashi Noguchi<sup>7</sup>, Taro Shiraiishi<sup>8</sup>, Yasuhiro Horikawa<sup>9</sup>, Yasuo Yasuoka<sup>10</sup>, Akihiro Tanaka<sup>11</sup>, Noriaki Hidaka<sup>1</sup> & Mamoru Tanaka<sup>1</sup>

Sci Rep. 2022 Jan 7;12(1):139.

5

職業性 Hazardous Drug(HD)曝露の基礎的データ収集のための  
医療スタッフにおけるサイクロフォスファミド尿中濃度と床面 HD 曝露のパイロット調査。  
<2021年12月実施>。

**調査目的**

職業性 Hazardous Drug(HD)曝露の実態調査として、がん化学療法に関わる看護師、薬剤師の尿中サイクロフォスファミド測定を行い、HD 曝露対策立案の基礎的データとするとともに、パイロット試験として本調査の実施可能性を確認する。同時に通院治療室、薬剤師部において汚染のあると思われる床面全体をモップで拭取り、遷延する床面 HD 曝露の実態を調査し、HD 曝露対策立案の基礎的データとして追加する。

**調査概要**

1. 調査測定方法（尿中サイクロフォスファミド濃度調査）

がん化学療法に関わる看護師 3 名、薬剤師 2 名において 2021 年 12 月第 1 週終了時（12 月 3 日金曜日午後 5 時）までに採尿を行い、検体を凍結保存後、翌 12 月第 2 週にシオノギ分析センターに提出、尿中サイクロフォスファミド測定する。

床面曝露調査は 2021 年 12 月第 1 週終了時までに床面全体を測定用モップで清掃し、サイクロフォスファミド、5FU 濃度測定を行う。なお通常の方法で、調査前には通院治療室、薬剤師部を行っておくこととする。

その週における関わったサイクロフォスファミド、5FU 含有のレジメンデータを調査書に記載し、検体とともに提出する。データは結果確定後 HD 曝露ワーキンググループ代表者まで報告する。検体は測定終了後シオノギ分析センターにおいて廃棄する。

**本調査の今後の展開**

これらのデータは HD 曝露対策立案の基礎的データとし、本調査が今後繰り返し実施可能かを検討する。実施可能と判断すれば、愛媛県がん診療連携協議会がん集学的治療専門部会で共有し、部会施設で実施を検討する。

以上。

2021/12/第2週実施

6



## 放治紹介の簡略化

FAX (089)999-1100  
四国がんセンター放射線治療 FAX 紹介

ご担当医氏名 \_\_\_\_\_ ご施設 \_\_\_\_\_ 診療科 \_\_\_\_\_  
電話番号 \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_

---

患者氏名 \_\_\_\_\_ 性別 1. 男 2. 女  
生年月日 西暦 \_\_\_\_年 \_\_\_\_月 \_\_\_\_日 生まれ \_\_\_\_歳  
病名 \_\_\_\_\_  
依頼目的 (具体的に記入下さい)  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

放射線治療の理由 1. あり 2. なし  
「あり」の場合、治療時期、治療施設、治療部位を記入下さい。  
( \_\_\_\_\_ )

移動 1. 徒歩、2. 車いす、3. ストレッチャー

理解度 本人からの同意取得 1. 可 2. 不可

下記の使用がある場合、ご記載下さい。  
1. 心臓ペースメーカー、埋込み型除細動器 2. 聴覚聴入 ( \_\_\_\_\_ リットル/分)  
3. 聴覚器 ( \_\_\_\_\_ )

その他の特記事項  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

四国がんセンター  
愛媛県

## 都道府県におけるがん化学療法の現状と課題

### 【現状】

中央から遠隔の地方であるため、化学療法の最新情報、支持療法等のアップデート等が遅れて入ってくるため、それらの情報にやや疎い傾向がある。外来化学療法の運用については、県で統一した運用法はなく、ポリシー・運用方針、必要な人員・リソースの確保・活用、バックアップ体制について、各施設の判断に任されている。感染症蔓延、災害等に対する、化学療法実施を維持していく体制ができていない。

### 【課題】

外来化学療法の標準的運用方針を共有する。そのための医療リソースの活用についても統一見解を共有する。  
がん診療連携協議会、医師会、行政と共同して、災害時の化学療法実施維持体制の構築をすすめる。  
がん治療に関する最新情報の共有体制を作る。

四国がんセンター  
愛媛県

## 研修の概要

### 【タイトル】

実践から学ぶ がん薬物療法多職種チーム研修

### 【目的】

がん薬物療法を受ける患者を多職種で支援するためのチーム作りについて学び、多職種で協働した副作用マネジメントを実現できる

### 【対象者・人数】

愛媛県がん診療連携拠点病院の医師・看護師・薬剤師・MSW等の相談員  
4人1チーム 6施設（24名）

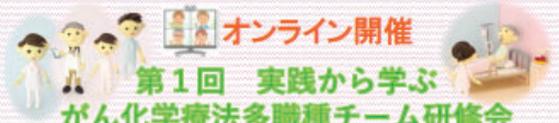
### 【目標】

一般目標（GIO）

- ・5大がんに対して治療のながれについて理解できる
- ・チーム構築方法について理解できる
- ・チーム医療について他職種の役割を言語化できる

到達目標（SBO）

- ・各疾患の治療のながれについて理解できる
- ・自施設での各職種の実践内容・役割を理解できる
- ・自施設のチーム医療における課題に気づくことができる
- ・自施設に応じた副作用マネジメントについて考えることができる
- ・がん薬物療法を行いながら、患者の望む生活を送るための支援が行える



**オンライン開催**  
**第1回 実践から学ぶ**  
**がん化学療法多職種チーム研修会**

**日程** 令和4年7月30日(土) 9:30~17:15

**内容** 「がん化学療法多職種チームの構築方法やチーム医療の取り組みモデルの講義、職種毎や施設毎のグループワークを通して各施設でがん化学療法多職種チームの課題・活動について考える」

**目的** がん薬物療法を受ける患者を多職種で支援するためのチーム作りについて学び、多職種で協働した副作用マネジメントを実現できる

**対象** 愛媛県がん診療連携拠点病院の医師・看護師・薬剤師・MSWの相談員  
1施設 4人1チームでの参加が条件となります

**参加条件** Zoomを用いたオンライン研修に参加でき、1人1台のデバイス機器(PC、ヘッドセット等の安定したマイク・スピーカー)と、1人で参加できる個室、安定したネットワーク接続環境(有線LAN接続推奨)が準備できる方

**定員** 6施設 6チーム 24名程度  
締め切り後令和4年6月10日(金)までに受講者決定の通知をいたします

**申込方法** 申込期限：令和4年5月27日(金)12:00  
各施設毎の申込です。代表者(1名)の方は、参加者会員分(参加者会員の氏名・職種・メールアドレス)をまとめて申し込みフォーム(下記URL及びQRコード)よりお申込みください  
<https://forms.gle/XBWp87v9ujiiP4xd6>

**事前アンケート・事前課題及びフォローアップ**  
受講者決定後にご案内いたします。研修前日までに各自で事前アンケートの回答と各施設で事前課題の作成をお願いします。また、MSWの方はフォローアップの受講をお願いします。

**研修終了後の予定**  
(令和5年1月予定) 受講者会員に研修内容の活用度と成果度をアンケート  
(令和5年2月予定) アンケート結果の共有とその後の活動について意見交換会

**受講費 無料**

お問い合わせ：四国がんセンター（濱田）  
TEL (098) 999-1111 松山市南梅本町甲160番

主催：四国がんセンター  
共催：愛媛県がん診療連携協議会 集学的治療専門部会

(予定)  
プログラム(タイムスケジュール)

時間	内容
9:30~9:40	1. オリエンテーション
9:40~10:15	2. 参加施設紹介[発表(1グループ5分程度)・質疑応答] ×6チーム
10:15~11:05	3. 講義:「チームの構築方法(仮)」 講師:鳥取大学医学部付属病院 腫瘍内科 診療科長 陶山 久司先生
11:05~11:15	休憩
11:15~12:00	4. 講義:「チーム医療の取り組みについて(仮)」 講師:奈良県立医科大学付属病院 がんゲノム・腫瘍内科学講座 助教 吉井 由美先生
12:00~13:00	昼休憩
13:00~13:45	5. グループワーク[職種別]:チーム内の役割・できることなど
13:45~13:50	休憩
13:50~15:20	6. グループワーク[施設別]:チームの課題明確化・活動計画
15:20~15:30	休憩
15:30~17:00	7. 発表:より良いチーム医療を行うために [発表(1グループ10分程度)・質疑応答(1グループ5分程度)] ×6チーム
17:00~17:15	8. まとめ

# がん看護専門部会



2022.4.21

四国がんセンター 大西玉美

1

## I. 令和3年度活動報告

専門部会 定例会

第1回目 2021.9.28 (火) 14:00~15:00 (WEB会議)

第2回目 2022.1.25 (火) 14:00~15:00 (WEB会議)

### がん看護実践能力向上WEB研修会

研修名	開催月日	参加人数
がん看護実践能力向上研修会	2021年 5日間 (8/26・8/28・8/29・9/17・12/7)	9名 (募集20名)
フォローアップ研修 (令和3年度受講者)	2022年 1/14	9名
フォローアップ研修 (過去受講者含む)	2022年 3/13	9名+4名

### トピックス研修

研修	開催月日	人数
(共催) ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム	8/28・8/29 (2日間)	参加44名 (募集20)
(共催) ACPのエビデンスと実践	11/26	参加145名 (募集100)

スポット研修 開催無

2

## II. がん看護実践能力向上研修会

### 1. 目的

≪目的≫ 県内のがん診療連携拠点病院等が協働し、県内のがん看護の実情を踏まえた上で、臨床実践能力の高い専門的な看護を提供する看護師の育成を図り、がん患者に対する看護ケアの充実を図ることを目的とする。

令和2年度まで	令和3年度から
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. がん治療に伴う主な副作用、合併症に対する適切な看護援助が実施できる。</li> <li>2. がん告知や治療経過で体験する患者・家族の危機状態に応じた精神的支援ができる。</li> <li>3. がんに伴う苦痛に対する適切なアセスメントと症状コントロールが実施できる。</li> <li>4. がんとの共生を支えるためのがん患者教育が実施できる。</li> <li>5. がん患者及び家族が円滑に療養の場を移行するための、情報提供や相談、連携や協働ができる。</li> <li>6. がん患者及び家族に関わる倫理的ジレンマへの対処ができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. がんやがんの治療に関する基礎知識を踏まえ、がんとともに生きる人の身体・心理・社会的な側面など多角的に支援できる。</li> <li>2. 診断時からの緩和ケアの提供を行うことができる。</li> <li>3. ライフステージに応じた支援を行うことができる。</li> <li>4. エンド・オブ・ライフを見据えた支援を行うことができる。</li> </ol> <p>がん対策推進基本計画：分野別施策 がん医療の充実 } 理解と実践への応用 がんとの共生 }</p>

3

### 2. 日程・内容

1. 研修会の名称は、現研修名にWEBという言葉を入れる
2. (21日間から) 5日間に変更して研修を継続し、日毎の参加も可能
3. 自己の課題の明確化のワークや事例検討はファシリテーター（企画委員）にご協力をお願いする

日 程	内 容
令和3年8月26日(木)	開講式
8月28日(土) 8月29日(日)	講義・演習(ELNEC-J)
9月17日(金)	講義・演習 ・がん治療の概要と生活を支えるケア ・世代別のサポートの特徴 ・意思決定を支えるケア ・事例展開・実習の進め方
9月18日(土)～11月25日(木)	自施設実習(自施設の専門部署と病棟)
12月7日(火)	事例発表会
令和4年1月14日(金)	自施設活動報告
令和4年3月3日(木)	事例発表会 閉講式・修了式

4

### 3. 評価

#### 《成果》

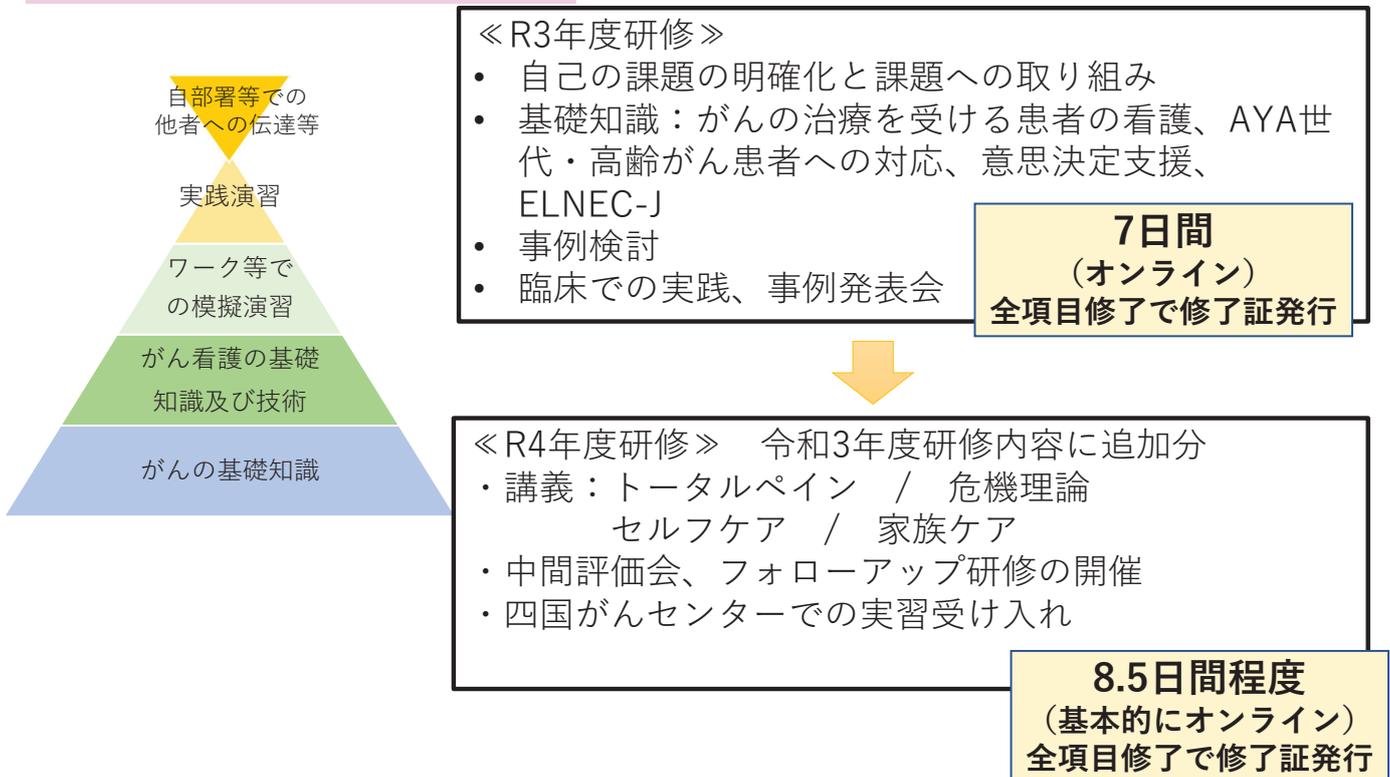
- ・オンラインでの講義・発表会とし、講義日数は、21日間から7日間に短縮。自施設実習を含め、計画通り実施することができた。
- ・研修生9名全員が修了証を取得することができた。

#### 《課題》

- ・評価のポイントの明確化等研修要綱の追加・修正
- ・自施設における他部門実習の調整
- ・受講者間のグループダイナミックスの促進
- ・ファシリテーターの役割の明確化、能力開発
- ・講義内容の追加：トータルペイン、危機理論  
セルフケア理論、家族ケア

5

### 4. 令和4年度計画（案）



現在、「研修要綱・ファシリテーターマニュアルの見直し」中

6

(資料15)

愛媛県におけるがんの医科歯科連携推進に向けて

- がん専門病院でも「全ての患者」に「必要な口腔管理」を提供できない。
- 重要度の高い患者の口腔ケアを優先的に対応せざるを得ない。
- 病院内で「がん医科歯科連携システム」が構築/活用されていない

上記のような理由にて、紹介状なしやがん治療内容を伝えずに歯科医院を受診している場合がある。それは、患者さんにとっても歯科医院にとっても不利益が生じる。

すべてのがん患者さんが、がん治療中も必要な歯科治療・口腔管理を安心して受けられる体制を構築する必要があるが、病院歯科だけでは対応が難しく、「歯科開業医の先生方」との連携が必要となる。

そのための方策として、下記の事項を行いたい。

■県内の歯科医療従事者のがんについてのレベルアップ

- ・ 歯科医師、歯科衛生士向けのがん関係講習会開催
  - ▶ 歯科衛生士会は開催予定
- ・ 歯科衛生士会の協議会への参加

■県内での医科歯科連携の構築、歯科医師会とのさらなる連携

- ・ がん治療医の先生方に負担のかからない仕組み
  - ▶ 地域連携室等で対応（紹介先の歯科医院の選定、診療情報提供書作製）
  - ▶ 担当医の先生は書類の内容チェックと捺印を行う（負担軽減）
- ・ かかりつけ歯科の先生方がわかりやすい仕組み
  - 依頼が少ないと依頼内容や算定、書類がわかりにくい
  - ▶ 県内で医科歯科連携に関する書類を統一してどの病院から来ても同じ対応
  - ▶ 紹介状に必要な書類や処置別の対応方法の要点を同封等

参考

開業歯科医院における周術期口腔機能管理計画策定数

		算定医療機関	算定回数
1位	広島県	838	5496
32位	愛媛県	37	289